客坊山遺跡群第3次発掘調査報告書

2002年1月

財団法人　東大阪文化財協会

客坊山遺跡群第3次発掘調査報告書

2002年1月

財団法人　東大阪市文化財協会

客坊山遺跡群第３次発掘調査報告書

例言

1.本書は、株式会社日昭興産が予定している住宅建設工事にともなって実施した客坊山遺跡群第3次調査の調査報告書である。

2.本書の執筆と編集は中西がおこなった。

3.現地における遺構写真は中西が撮影した。

4.現地での土色および土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修の『新版標準土色帖』に準拠した。

本文目次

例言

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　位置と環境……2

Ⅲ　調査の方法……5

Ⅳ　調査の成果……5

1) Ａ地区……26

層序……27

遺構と遺物……31

2) Ｂ地区……87

層序……87

遺構と遺物……87

3)Ｄ地区……109

Ⅴ　自然科学分析……114

Ⅵ　まとめ……126

挿図目次

図1　調査地点位置図……1

図2　客坊山遺跡群周辺の遺跡位置図……3

図3　調査地点の基準ライン……6

図4　検出遺構全体図……8

図5　A地区北壁断面図……28

図6　A地区直交断面図……29

図7　A地区石垣1平面図……30

図8　A地区石垣1うらごめ出土遺物実測図……30

図9　A地区石垣3平面・立面図……32
図10　A地区石垣3前面・うらごめ出土遺物実測図……34
図11　A地区石垣5平面図……36
図12　A地区石垣5前面(整地層4)出土遺物実測図……37
図13　A地区石垣6平面図……40
図14　A地区石垣6前面出土遺物実測図1/3……40
図15　A地区石垣6前面(整地層7・8)出土遺物実測図2/3……43
図16　A地区石垣6前面(整地層9)出土遺物実測図3/3……45
図17　A地区石垣8平面図……49
図18　A地区石垣8前面(整地層10)出土遺物実測図……49
図19　A地区石垣9平面図……51
図20　A地区建物1実測図……51
図21　A地区建物1・2出土遺物実測図……54
図22　A地区建物2実測図……54
図23　A地区土壙13実測図……55
図24　A地区土壙1実測図……55
図25　A地区土壙1・2・3・4・11・13・14・23出土遺物実測図……59
図26　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147……63
・159・6出土遺物実測図
図27　A地区瓦面出土軒瓦実測図……68
図28　A地区灰褐色シルト出土遺物実測図……69
図29　A地区整地層5出土遺物実測図……73
図30　A地区サブトレンチ出土遺物実測図……76
図31　A地区土器集積部分出土遺物実測図……76
図32　A地区黒褐色シルト出土遺物実測図……79
図33　A地区灰色砂まじりシルト出土遺物実測図……80
図34　A地区整地層6出土遺物実測図……84
図35　B地区南北断面図……88
図36　B地区石垣2実測図……89
図37　B地区石垣4平面図……91
図38　B地区石垣4うらごめ出土遺物実測図……91
図39　B地区石垣7平面図……92
図40　B地区石垣7うらごめ出土遺物実測図……92
図41　B地区遺構平面図……93
図42　B地区建物3平面図……94

図43　B地区建物4平面図……95
図44　B地区瓦出土状況平面図……96
図45　B地区瓦面出土軒丸瓦・丸瓦実測図……98
図46　A・B地区瓦面出土遺物実測図……99
図47　B地区溝7・8出土遺物実測図……103
図48　B地区整地層1出土遺物実測図……103
図49　B地区整地層2出土遺物実測図……105
図50　B地区暗黄褐色シルト出土遺物実測図……107
図51　D地区南北断面図……110
図52　D地区石垣10平面図……111
図53　D地区出土遺物実測図……112

写真目次

写真1　調査前風景……2
写真2　調査地点航空写真……7
写真3　調査地点航空写真(南より)……7
写真4　A地区地山上面遺構全景(南東より)……26
写真5　A地区地山上面遺構全景……26
写真6　A地区北半部分……27
写真7　A地区北壁断面……27
写真8　A地区北側地山直交断面……29
写真9　A地区石垣1遺構検出状況……31
写真10　A地区東側コーナー(石垣1)部分……31
写真11　A地区地山直交断面石垣3うめ土……32
写真12　A地区石垣3検出状況……33
写真13　A地区石垣3全景……33
写真14　A地区石垣5前面断面……36
写真15　A地区石垣5全景……37
写真16　A地区石垣6前面鏡出土状況……43
写真17　A地区石垣9コーナー部分……52
写真18　A地区石垣9北側石列……52
写真19　A地区建物1……53
写真20　A地区建物2……53
写真21　A地区土壙1完掘状況……55
写真22　A地区土壙13検出状況……56

写真23　A地区土壙13検出状況……56
写真24　A地区土壙13検出状況……56
写真25　A地区土壙10断面遺物検出状況……57
写真26　A地区土壙3遺物出土状況……57
写真27　A地区土壙11遺物検出状況……57
写真28　A地区旧耕土下Pit54検出状況……58
写真29　A地区Pit69根石検出状況……58
写真30　A地区Pit76根石検出状況……58
写真31　A地区Pit内柱根検出状況……58
写真32　B地区南北断面……88
写真33　B地区石垣2全景……90
写真34　B地区石垣2南側石列……90
写真35　B地区石垣2西側石列……90
写真36　B地区石垣4全景……91
写真37　B地区石垣7全景……92
写真38　B地区全景……93
写真39　B地区全景……94
写真40　B地区建物3全景……95
写真41　B地区建物3立ち割状況……95
写真42　B地区建物4検出状況……96
写真43　B地区建物4全景(南より)……96
写真44　B地区瓦出土状況……97
写真45　B地区瓦出土状況……97
写真46　B地区瓦出土状況……97
写真47　B地区Pit139・138掘削状況……101
写真48　B地区Pit29掘削状況……101
写真49　B地区Pit151掘削状況……101
写真50　B地区Pit164掘削状況……101
写真51　B地区墓2掘削状況……101
写真52　D地区東西断面……110
写真53　D地区石垣11検出状況……112
写真54　D地区暗渠検出状況……112
写真55　建物4礎石1下方ポーラー……115
写真56　建物4礎石1直交ポーラー……115
写真57　建物4礎石2下方ポーラー……115

写真58　建物4礎石2直交ポーラー……115
写真59　建物4礎石3下方ポーラー……117
写真60　建物4礎石3直交ポーラー……117
写真61　建物4礎石4下方ポーラー……117
写真62　建物4礎石4直交ポーラー……117
写真63　建物4礎石4下方ポーラー……117
写真64　建物4礎石4直交ポーラー……117
写真65　建物4礎石5下方ポーラー……117
写真66　建物4礎石5直交ポーラー……117
写真67　建物4礎石6下方ポーラー……120
写真68　建物4礎石6直交ポーラー……120
写真69　建物4礎石6下方ポーラー……120
写真70　建物4礎石6直交ポーラー……120
写真71　建物4礎石7下方ポーラー……120
写真72　建物4礎石7直交ポーラー……120
写真73　建物4礎石7下方ポーラー……120
写真74　建物4礎石7直交ポーラー……120
写真75　建物4礎石8下方ポーラー……123
写真76　建物4礎石8直交ポーラー……123
写真77　建物4礎石9下方ポーラー……123
写真78　建物4礎石9直交ポーラー……123

表目次

表1　検出Pit一覧……9
表2　検出土壙一覧……23
表3　検出溝一覧……25
表4　検出建物一覧……25
表5　検出墓一覧……25
表6　A地区石垣1うらごめ出土遺物観察表……30
表7　A地区石垣3出土遺物観察表……35
表8　A地区石垣5前面出土遺物観察表……38
表9　A地区石垣6前面出土遺物観察表……41
表10　A地区石垣6前面(整地層7・8)出土遺物観察表……44
表11　A地区石垣6前面(整地層9)出土遺物観察表……46
表12　A地区石垣8前面(整地層10)出土遺物観察表……50

表13　A地区建物1・2出土遺物観察表……54
表14　A地区土壙1・2・3・4・11・13・14・23出土遺物観察表……60
表15　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147……64
・159・6出土遺物観察表
表16　A地区瓦面出土軒瓦観察表……68
表17　A地区灰褐色シルト出土遺物観察表……70
表18　A地区整地層5出土遺物観察表……74
表19　A地区サブトレンチ出土遺物観察表……76
表20　A地区土器集積部分出土遺物観察表……77
表21　A地区黒褐色シルト出土遺物観察表……79
表22　A地区灰色砂まじりシルト出土遺物観察表……81
表23　A地区整地層6出土遺物観察表……85
表24　B地区石垣4うらごめ出土遺物観察表……91
表25　B地区石垣7うらごめ出土遺物観察表……92
表26　A・B地区瓦面出土軒丸瓦・丸瓦観察表……99
表27　B地区瓦面出土遺物観察表……100
表28　B地区溝7・8出土遺物観察表……103
表29　B地区整地層1出土遺物観察表……104
表30　C地区整地層2出土遺物観察表……106
表31　B地区暗黄褐色シルト出土遺物観察表……108
表32　D地区出土遺物観察表……113
表33　分析試料一覧……115
表34　遺構の変遷……126

I　調査に至る経過

客坊山遺跡群は、東大阪市客坊町に所在する古墳時代から室町時代に至る複合遺跡である。本遺跡群からは、これまでの分布・測量調査や採集遺物、昭和62・63年度に実施している第1・2次発掘調査によって古墳時代前期の前方後円墳1基、古墳時代後期の横穴式石室を内部主体とする円墳17基からなる客坊山古墳群・平安時代後期頃の寺院跡である客坊廃寺（法性寺）、客坊城跡に関連すると推定されている石垣建物跡・穴倉、瓦・磚仏・石製品・金属製品・銭貨などの遺物を検出している。

従来、調査地点周辺は、客坊山古墳群・客坊廃寺の推定地とされてきた。しかしながら前述したような最近の発掘調査結果から本調査地点周辺には、古墳・寺院跡・城跡などの様々な性格の遺構が存在するものと推測できるようになった。したがって、今回の発掘調査から従来から呼称されている客坊山古墳群・客坊廃寺・客坊城址の総称として客坊山遺跡群とよぶことにする。

昭和63年度、日昭興産株式会社は本遺跡の第2次発掘調査地点に隣接する客坊町に住宅建設を計画した。建設予定地が、客坊山遺跡群の推定範囲内のほぼ中央にあり、第2次発掘調査地点に近接することから、建設工事に先立って東大阪市教育委員会が平成元年1月10日に予定地内の4ケ所で試掘調査を実施したところ、No.3およびNo.1地点で中世の良好な遺物包含層を

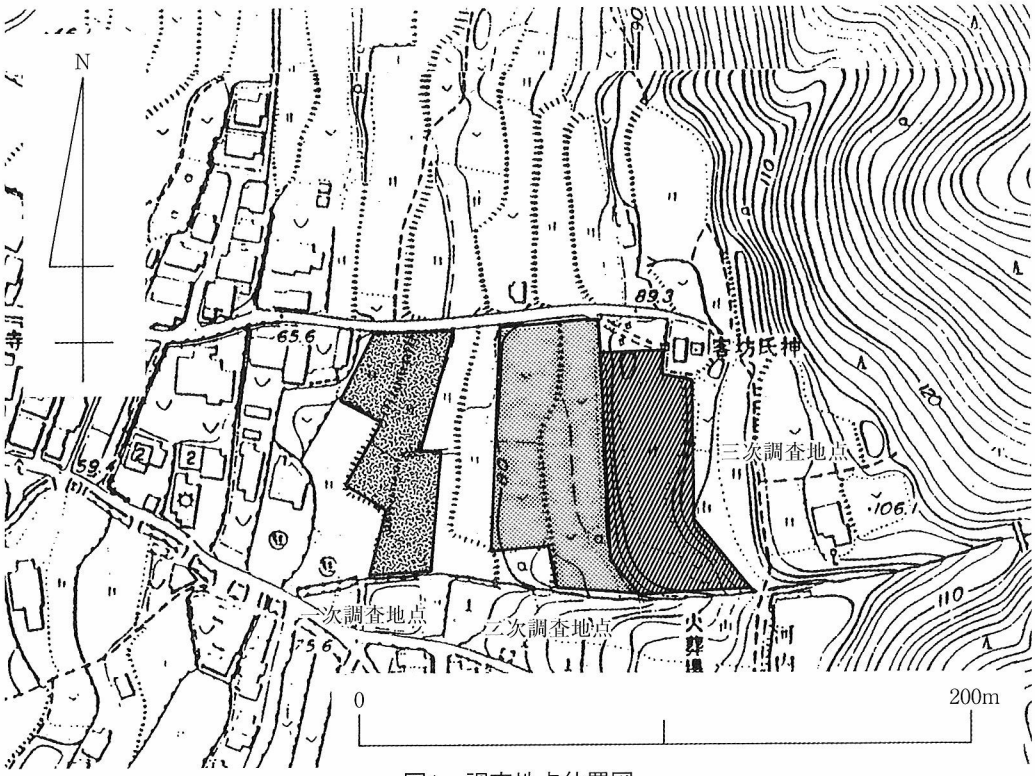


図1　調査地点位置図

確認した。試掘調査結果を受けて両者間で協議を重ねたところ、住宅建設によって現況が大きく変更されることが十分に予測されるため、建設予定地の全域を発掘調査し記録保存することとなった。

発掘調査の目的は、第１・２次発掘調査で検出している中世の遺構群の拡がりとその性格を明確にし、これまでに推定されている内容を再検討すると共に、さらにその下層に埋没している古墳の有無を確認することである。

発掘調査は、株式会社日昭興産からの委託をうけた財団法人東大阪市文化財協会が平成元年４月14日から調査を開始し、平成２年１月25日まで現地調査を実施した。

II　位置と環境

客坊山遺跡群は、生駒山西麓の標高220m～75mの土石流段丘上に立地している。

まず当遺跡群の周辺に所在する諸遺跡の概要について時代ごとに記述する。本遺跡群の周辺部のうち、標高75m以上を測る地点では、現在までのところ旧石器時代から弥生時代の遺跡は確認されていない。しかし、客坊山遺跡第２次発掘調査で縄文時代後期の土器や石斧が出土していることや本遺跡群の南の尾根上に位置する山畑遺跡から縄文時代早期の土器が採集されており、本遺跡群周辺に縄文時代の遺跡の存在することも十分考えられる。

縄文時代の遺跡には、本遺跡群の南西の扇状地末端部、標高約20m付近に立地する縄文時代中～晩期の竪穴住居・石組炉などを検出している縄手遺跡がある。

本遺跡群周辺に位置する弥生時代の遺跡には、縄手遺跡・山畑遺跡・皿池遺跡がある。縄手遺跡では、縄文時代晩期末ごろの長原式土器と弥生時代前期第。様式の中段階の土器が共

写真1
調査前風景

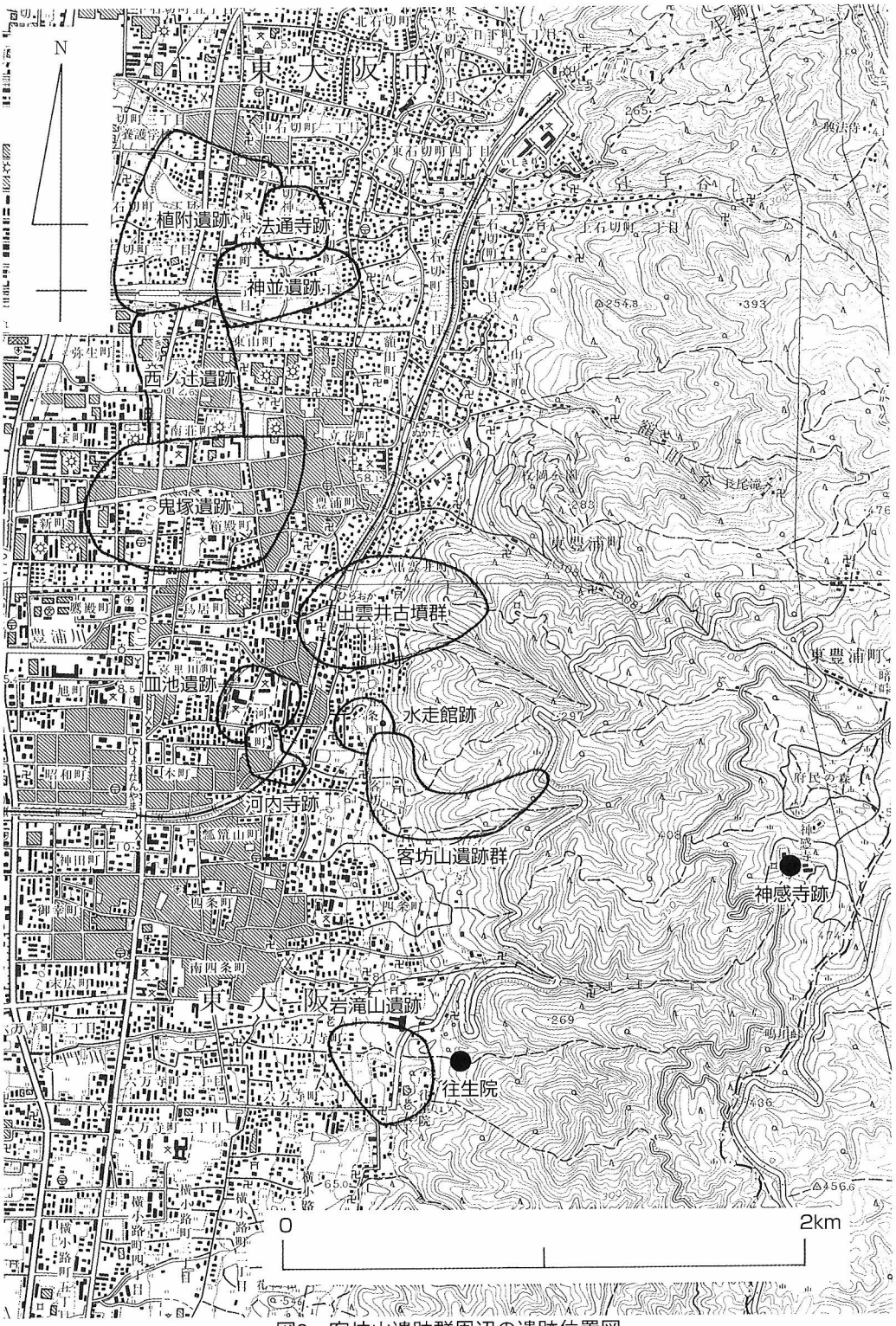


図2　客坊山遺跡群周辺の遺跡位置図

存する遺物包含層や中期頃の土壙墓を確認している。山畑遺跡は、標高60～100mの高所に占地する中期の遺跡で一辺約5mを測る竪穴住居を検出している。客坊山遺跡第2次調査でも中期から後期の土器類・石器類が出土していることから、山畑遺跡と同様に高位置に立地する中期から後期の遺跡が存在する可能性がある。これらの高位置に立地する遺跡の動向は、山麓部にある同時期の縄手遺跡・鬼塚遺跡・西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡などの変遷とも合わせて検討してみなければならない。当遺跡の西、標高約20mの扇状地上に占地する皿池遺跡では、平面長方形を呈する後期の竪穴住居を検出している。後期末頃の遺跡としては、縄手遺跡よりもさらに低位置の標高約5mに立地する北鳥池遺跡がある。

古墳時代前期の遺跡は、本遺跡群周辺では現在までのところ周知されていない。前期末には、標高20mに猪ノ木塚古墳がある。また、猪ノ木塚古墳に近接する縄手遺跡からは、中期末頃の須恵器・韓式系土器・鞴の羽口などが多量に出土している。後期には、本遺跡群の周辺に多数の群集墳が分布している。当遺跡群の北、標高約50mの地点には、両袖の横穴式石室を内部主体とする一辺約30mで二段築成された方墳である五条古墳がある。五条古墳のある尾根のさらに北側の尾根上には、円墳13基・方墳1基が確認されている出雲井古墳群が所在する。さらに、本遺跡群の北東の標高100m～200mの尾根上には、2基以上の古墳が検出されている五条山古墳群がある。また、本遺跡群の南側、標高50～150mの尾根上には、横穴式石室を内部主体とする円墳・方墳・双円墳・上円下方墳など約68基で構成される山畑古墳群や花草山古墳群・五里山古墳群などがある。一方、後期の集落跡については、山麓部をも含め近年の発掘調査の進展にもかかわらず、明確な遺構を確認できていない。今後の課題である。

飛鳥時代から奈良時代には、当遺跡群の西側標高20m前後に河内寺が位置している。河内寺は、白鳳時代に創建され講堂・金堂・塔・中門を南北方向に一直線に配置することが判明している。また、皿池遺跡では、石組で囲った合口甕棺を検出している。

奈良時代の本遺跡群周辺は、河内国河内郡大宅郷に含まれ、河内郡衙の所在地にあたるものと推定されている。

平安時代以降の遺跡には、当遺跡群の北側に水走氏館跡がある。水走氏は、現在の東大阪市・大東市・八尾市域などを支配していた中世豪族で、『水走文書』などの史料によって研究されてきている。

次に客坊山遺跡群のこれまでの調査結果について詳述する。本遺跡群の推定範囲には、記述したように客坊山古墳群・客坊廃寺・客坊城跡などが存在している。

客坊山古墳群は、客坊谷の北側の尾根上、標高140～220mに18基分布している。本古墳群には、古墳時代前期末頃の鰭付円筒埴輪を伴う前方後円墳1基のほか、横穴式石室を内部主体とする古墳時代後期の円墳がある。昭和43～45年に石室の実測調査が実施されているものの現在までのところ発掘調査はおこなわれておらず詳しい内容については判明していない。

客坊廃寺は、今回の第3次調査地点の北側の平坦面が「寺屋敷」とよばれ、平安時代後期

から室町時代の瓦類が採集されていることや五条町在住の野口氏所蔵の山絵図に本遺跡群付近の字名が「法性寺」と記されていることからその存在が推定されてきた。採集遺物のなかには、軒丸瓦の裏面に「河内」とヘラガキされたものやせん仏などもある。発掘調査では、建物跡や石垣などの寺院に関連するものと推定できる遺構が確認されている。

客坊城は、室町時代の文献『大乗院寺社雑事記』のなかの「尋尊大僧正記」にその名がみられる。本史料からは、客坊城が文明９年(1477)に遊佐長直と畠山義就との合戦のさいに落城したことを知ることができる。第２次調査では、客坊城に伴うと推定される石垣や穴倉が検出されているもののその全体像については、ほとんど解明できていない。

III　調査の方法

第３次発掘調査地点は、客坊山遺跡群のほぼ中央部分にあたり標高90m付近で、第1・２次調査地点の東側にあたる。地籍では、東大阪市客坊町1052・1053・1055～1063番地である。発掘調査は、住宅建設予定地全域を対象とし面積では2191m^{2}ある。調査地の現状が大小６段の棚田であることから、調査にあたっては、これを便宜的にＡ～Ｄ地区と呼称することにした。調査の手順は、当初Ａ～Ｃ地区の表土・耕土・床土を機械によって掘削した。以下の層位は、人力によって掘削し、各層の上面で遺構の検出をおこない、遺構の確認できた場合、写真撮影と実測図を作成した。Ｄ地区は、Ａ～Ｃ地区の調査終了後にとりかかった。

調査地点内の測量には、国家座標に沿った基準ラインを設定した。東西方向の基準ラインは、原則として10m間隔で北から順にＡ・Ｂ・Ｃラインとし、南北方向の基準ラインは、５m間隔で東から順に１・２・３…ラインと仮称した。なお、遺構図はこれを基準に作成している。

IV　調査の成果

第３次調査点は、前述したように平坦面ごとにＡ～Ｄ地区に区分して調査をすすめた。各地区の西側および南側部分に整地層が厚く堆積しているのに対して、調査地点の東側部分では、床土直下で地山を検出している。整地層の堆積する範囲では、遺構の覆土と整地層を識別することが極めて困難であり、多くの遺構は、地山上面で検出できたものである。したがって地山上面で確認している遺構のなかには、本来上層の整地層から切り込んでいるものも多数存在するものと思われる。また、未確認のまま整地層とともに掘削してしまった遺構も多数存在するものと思われる。

以下では、まず本調査によって地山上面で確認できたPit163基・土壙23基・溝5条・建物4棟・墓2基の一覧を表示し、その後に各地区ごとに層序と遺構・遺物について記述する。

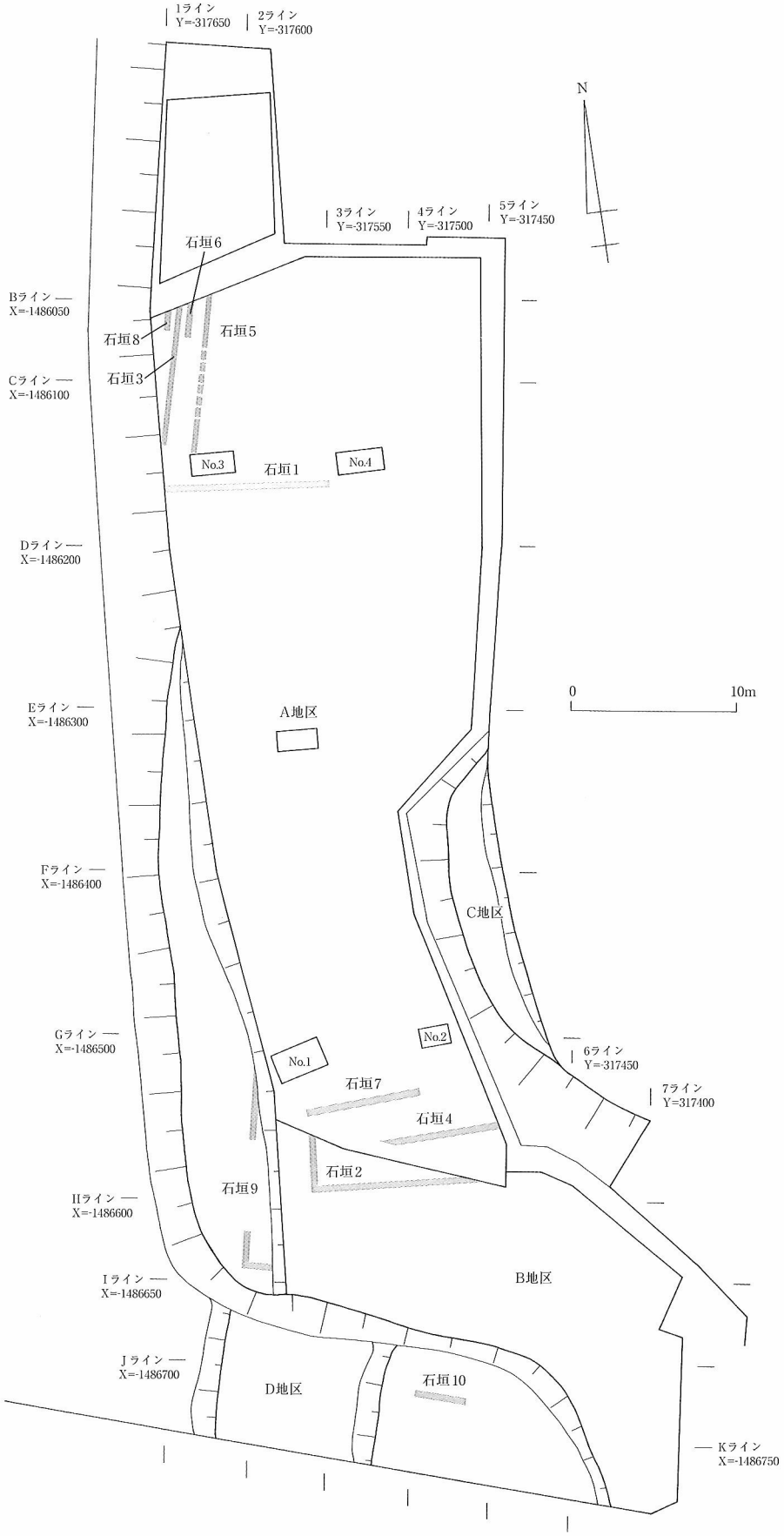
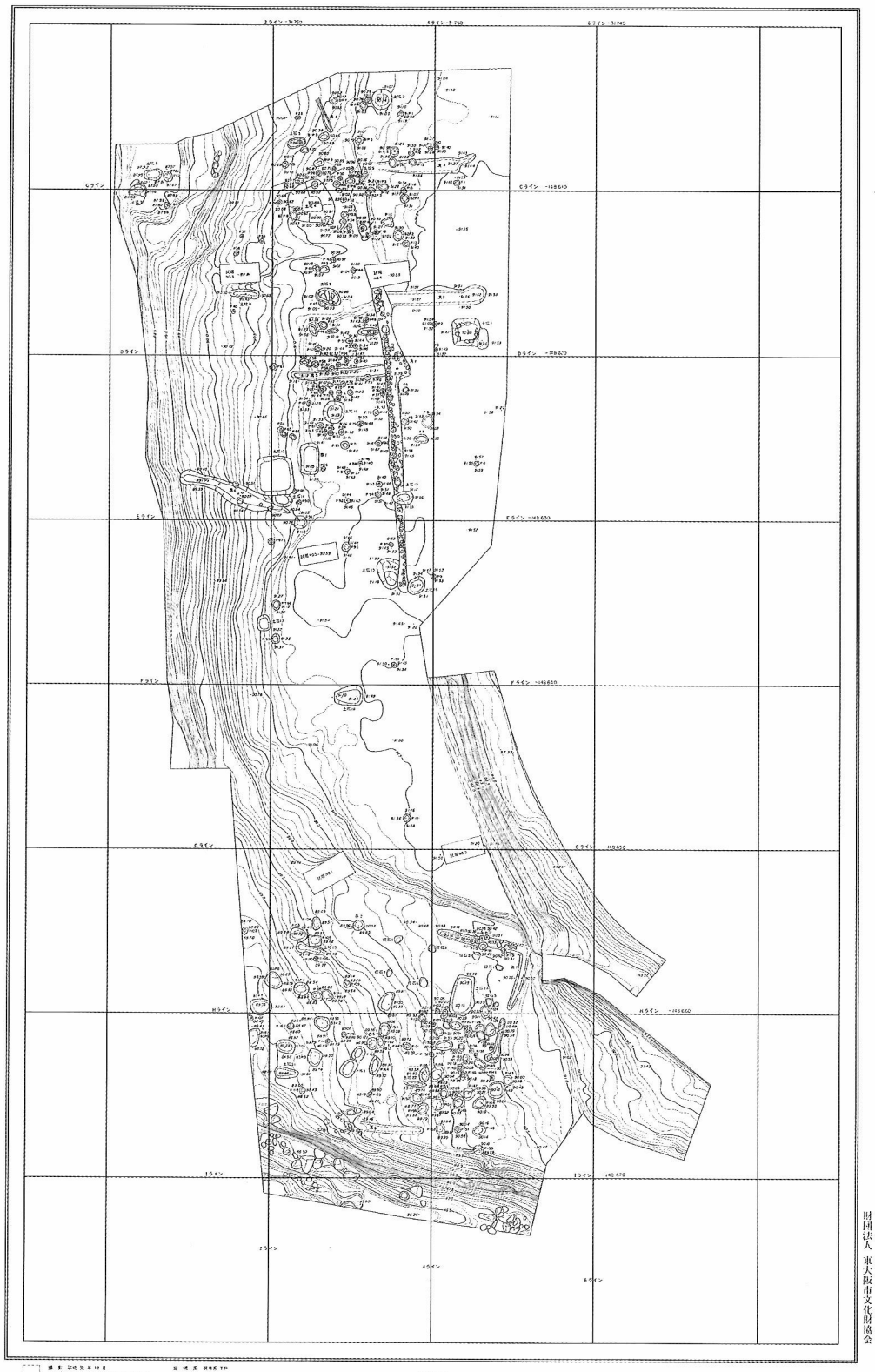


図3　調査地点の基準ライン

写真2
調査地点航
空写真

写真3
調査地点航
空写真(南
より)



1:200

図4　検出遺構全体図

財団法人 東大阪市文化財協会

遺構名	平面形	規　　模 cm	埋　　土	施設	種類	器種
Pit001	円形	南北長 32.0 東西長 34.0 深さ 10.0	10YR3/1シルト			
Pit002	円形	南北長 40.0 東西長 37.0 深さ 19.0	5GY4/1シルト			
Pit003	円形	南北長 15.0 東西長 17.0 深さ 2.0	5GY4/1シルト			
Pit004	楕円形	南北長 24.0 東西長 34.0 深さ ?	10YR3/1シルト	根石		
Pit005	楕円形	南北長 40.0 東西長 44.0 深さ 8.0	5GY4/1シルト			
Pit006	円形	南北長 74.0 東西長 68.0 深さ 1.0	5GY4/1シルト		瓦器	椀　火舎
Pit007	楕円形	南北長 62.0 東西長 88.0 深さ 7.0	5GY4/1シルト			
Pit008	円形	南北長 22.0 東西長 22.0 深さ ?	2.5Y6/1砂質シルト			
Pit009	円形	南北長 18.0 東西長 21.0 深さ 5.0	10YR3/1シルト			
Pit010	楕円形	南北長 20.0 東西長 34.0 深さ 6.0	10YR3/2シルト			
Pit012	円形	南北長 28.0 東西長 32.0 深さ 38.0	2.5GY5/1シルト			
Pit013	楕円形	南北長 28.0 東西長 34.0 深さ 44.0	10YR3/1シルト			

表1　検出Pit一覧1/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit014	楕円形	南北長 66.0 東西長 51.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト		土師器	皿
Pit015	円形	南北長 18.0 東西長 23.0 深さ 36.0	2.5GY5/1シルト			
Pit016	楕円形	南北長 68.0 東西長 74.0 深さ 2.0	10Y4/1シルト		土師器	皿
Pit017	楕円形	南北長 22.0 東西長 31.0 深さ ?	10Y4/1シルト			
Pit018	?	南北長 ? 東西長 ? 深さ ?	10Y4/1砂質シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit019	円形	南北長 38.0 東西長 46.0 深さ 41.0	2.5GY5/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit021	円形	南北長 34.0 東西長 38.0 深さ 40.0	2.5GY5/1シルト		土師器	皿
Pit022	円形	南北長 25.0 東西長 24.0 深さ 28.0	10YR4/1シルト			
Pit023	楕円形	南北長 24.0 東西長 28.0 深さ 12.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit024	円形	南北長 30.0 東西長 32.0 深さ 24.0	10YR3/1シルト		土師器	皿
Pit025	円形	南北長 42.0 東西長 44.0 深さ 34.0	10YR4/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit026	円形	南北長 42.0 東西長 22.0 深さ 22.0	2.5GY4/1シルト		土師器	皿

表1　検出Pit一覧2/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit027	円形	南北長 36.0 東西長 35.0 深さ 37.0	2.5GY5/1シルト		土師器 瓦器 黒色土器	皿 椀　皿 椀
Pit028	円形	南北長 45.0 東西長 48.0 深さ 35.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦	皿 平瓦
Pit029	円形	南北長 25.0 東西長 24.0 深さ 32.0	10YR4/1シルト			
Pit031	楕円形	南北長 18.0 東西長 30.0 深さ 15.0	10YR3/1シルト			
Pit032	楕円形	南北長 28.0 東西長 40.0 深さ 24.0	10YR4/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit033	円形	南北長 38.0 東西長 34.0 深さ 33.0				
Pit034	楕円形	南北長 22.0 東西長 30.0 深さ 33.0			瓦器	椀
Pit035	楕円形	南北長 38.0 東西長 20.0 深さ 14.0			土師器	皿
Pit036	円形	南北長 30.0 東西長 29.0 深さ 12.0			土師器	
Pit037	円形	南北長 20.0 東西長 24.0 深さ 1.0	10YR4/1シルト			
Pit038	円形	南北長 32.0 東西長 32.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト			
Pit039	円形	南北長 14.0 東西長 17.0 深さ 6.0	10YR3/1シルト			

表1　検出Pit一覧3/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit040	円形	南北長 10.0 東西長 15.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	 椀
Pit041	円形	南北長 38.0 東西長 40.0 深さ 8.0	10Y4/1シルト			
Pit042	楕円形	南北長 50.0 東西長 64.0 深さ 19.0	10YR4/1シルト			
Pit043	円形	南北長 30.0 東西長 27.0 深さ 9.0	10Y4/1シルト			
Pit044	円形	南北長 22.0 東西長 26.0 深さ 8.0	10YR4/1シルト		瓦	平瓦
Pit044	楕円形	南北長 30.0 東西長 24.0 深さ 11.0				
Pit045	円形	南北長 32.0 東西長 40.0 深さ 16.0	10YR4/1シルト			
Pit046	楕円形	南北長 64.0 東西長 50.0 深さ 15.0	10Y4/1シルト			
Pit047	円形	南北長 51.0 東西長 58.0 深さ 26.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit048	楕円形	南北長 28.0 東西長 39.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト			
Pit050	円形	南北長 22.0 東西長 23.0 深さ 18.0	10YR3/1シルト			
Pit051	円形	南北長 38.0 東西長 39.0 深さ 12.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀

表1　検出Pit一覧4/14

遺構名	平面形	規　　模 cm	埋　　土	施設	種類	器種
Pit053	円形	南北長 18.0 東西長 18.0 深さ 6.0	2.5Y6/1砂質シルト		瓦器	椀
Pit054	楕円形	南北長 24.0 東西長 40.0 深さ 10.0	2.5Y6/1砂質シルト			
Pit055	円形	南北長 40.0 東西長 38.0 深さ 15.0	10YR3/1シルト	根石	土師器 瓦器 須恵器	皿 椀 鉢
Pit056	円形	南北長 42.0 東西長 45.0 深さ 18.0	2.5Y6/1砂質シルト		瓦器	椀
Pit057	長方形	南北長 38.0 東西長 46.0 深さ 38.0	10YR3/1シルト		土師器 須恵器	皿
Pit058	円形	南北長 42.0 東西長 44.0 深さ 3.0	10YR3/1シルト		土師器	皿
Pit059	円形	南北長 54.0 東西長 49.0 深さ 27.0	5Y4/1シルト			
Pit060	円形	南北長 42.0 東西長 46.0 深さ 11.0	10YR3/1シルト		瓦器	椀
Pit061	円形	南北長 50.0 東西長 45.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit062	円形	南北長 62.0 東西長 60.0 深さ 46.0				
Pit063	楕円形	南北長 42.0 東西長 35.0 深さ 30.0				
Pit064	円形	南北長 34.0 東西長 32.0 深さ 15.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器 瓦	皿 椀 平瓦

表1　検出Pit一覧5/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit065	円形	南北長 36.0 東西長 36.0 深さ 10.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
Pit066	楕円形	南北長 35.0 東西長 47.0 深さ 19.0	10YR3/1シルト		土師器	皿
Pit067	円形	南北長 31.0 東西長 27.0 深さ 15.0	2.5Y4/3シルト			
Pit068	円形	南北長 30.0 東西長 30.0 深さ 6.0	10YR3/1シルト			
Pit069	楕円形	南北長 28.0 東西長 40.0 深さ 27.0	10YR3/1シルト		土師器	皿
Pit070	楕円形	南北長 22.0 東西長 34.0 深さ 11.0	2.5Y6/1シルト	根石		
Pit071	円形	南北長 32.0 東西長 31.0 深さ 25.0	2.5Y6/1シルト			
Pit072	円形	南北長 30.0 東西長 28.0 深さ 12.0	2.5Y6/1シルト			
Pit073	楕円形	南北長 18.0 東西長 34.0 深さ 14.0	10YR3/1シルト			
Pit074	楕円形	南北長 30.0 東西長 40.0 深さ 16.0	10YR3/1シルト			
Pit075	円形	南北長 28.0 東西長 27.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト			
Pit076	円形	南北長 30.0 東西長 32.0 深さ 23.0	10YR3/1シルト			

表1　検出Pit一覧6/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit077	円形	南北長 24.0 東西長 25.0 深さ 12.0	10YR3/1シルト			
Pit078	円形	南北長 36.0 東西長 30.0 深さ 2.0	10YR3/1シルト			
Pit079	円形	南北長 28.0 東西長 30.0 深さ ?	5GY4/1シルト			
Pit080	円形	南北長 38.0 東西長 33.0 深さ 10.0	10YR3/1シルト			
Pit081	円形	南北長 35.0 東西長 40.0 深さ 18.0	10YR3/1シルト		土師器	
Pit082	円形	南北長 20.0 東西長 22.0 深さ 5.0	10YR3/1シルト			
Pit083	円形	南北長 32.0 東西長 30.0 深さ 5.0	10YR3/1シルト			
Pit084	円形	南北長 36.0 東西長 32.0 深さ 11.0	10YR3/1シルト			
Pit085	長方形	南北長 30.0 東西長 47.0 深さ 30.0	10YR3/1シルト			
Pit086	円形	南北長 30.0 東西長 30.0 深さ 10.0	2.5Y6/1砂質シルト			
Pit087	円形	南北長 20.0 東西長 24.0 深さ 8.0				
Pit088	円形	南北長 14.0 東西長 17.0 深さ 2.0				

表1　検出Pit一覧7/14

遺構名	平面形	規　　模 cm	埋　　土	施設	種類	器種
Pit089	円形	南北長 27.0 東西長 20.0 深さ ?	10YR3/1シルト			
Pit090	楕円形	南北長 18.0 東西長 32.0 深さ ?	10YR3/1シルト		土師器	皿
Pit091	?	南北長 ? 東西長 ? 深さ ?	5Y4/2シルト			
Pit092	楕円形	南北長 35.0 東西長 52.0 深さ 6.0	5GY4/1シルト			
Pit093	円形	南北長 43.0 東西長 35.0 深さ 6.0	10YR3/1シルト			
Pit094	楕円形	南北長 30.0 東西長 22.0 深さ 2.0	10YR3/1シルト			
Pit095	円形	南北長 18.0 東西長 18.0 深さ 4.0				
Pit096	円形	南北長 52.0 東西長 60.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト			
Pit097	円形	南北長 34.0 東西長 30.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器	皿
Pit098	?	南北長 ? 東西長 ? 深さ ?	5Y4/1シルト			
Pit099	?	南北長 ? 東西長 ? 深さ ?	5Y4/1シルト			
Pit100	円形	南北長 24.0 東西長 30.0 深さ 7.0	5GY4/1シルト			

表1　検出Pit一覧8/14

遺構名	平面形	規　　模 cm	埋　　土	施設	種類	器種
Pit101	楕円形	南北長 42.0 東西長 54.0 深さ 13.0	5GY4/1シルト			
Pit102	円形	南北長 48.0 東西長 36.0 深さ 11.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit103	長方形	南北長 84.0 東西長 100.0 深さ 7.0	10YR4/4砂質シルト		土師器 瓦器	椀
Pit104	楕円形	南北長 78.0 東西長 50.0 深さ 12.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit105	方形	南北長 74.0 東西長 85.0 深さ 27.0	10YR4/4砂質シルト		須恵器 弥生土器	甕
Pit106	円形	南北長 38.0 東西長 33.0 深さ 34.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit107	楕円形	南北長 48.0 東西長 45.0 深さ 7.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit108	円形	南北長 60.0 東西長 66.0 深さ 12.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit109	円形	南北長 46.0 東西長 50.0 深さ 16.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit110	円形	南北長 27.0 東西長 30.0 深さ 14.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit111	円形	南北長 20.0 東西長 20.0 深さ 18.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit112	円形	南北長 30.0 東西長 30.0 深さ 9.0	10YR4/4砂質シルト			

表1　検出Pit一覧9/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit113	円形	南北長 21.0 東西長 23.0 深さ 9.0	2.5Y5/1シルト			
Pit114	円形	南北長 30.0 東西長 26.0 深さ 18.0	2.5Y5/1シルト			
Pit115	円形	南北長 15.0 東西長 15.0 深さ 18.0	2.5Y5/1シルト			
Pit116	楕円形	南北長 40.0 東西長 23.0 深さ 18.0	2.5Y5/1シルト			
Pit117	円形	南北長 26.0 東西長 24.0 深さ 9.0	2.5Y5/1シルト			
Pit118	楕円形	南北長 28.0 東西長 50.0 深さ 18.0	2.5Y5/1シルト			
Pit119	楕円形	南北長 22.0 東西長 41.0 深さ 13.0	2.5Y5/1シルト		土師器	皿
Pit120	長方形	南北長 80.0 東西長 40.0 深さ 33.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit121	円形	南北長 40.0 東西長 42.0 深さ 30.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit122	楕円形	南北長 32.0 東西長 23.0 深さ 22.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit123	楕円形	南北長 60.0 東西長 50.0 深さ 33.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit124	楕円形	南北長 72.0 東西長 50.0 深さ 20.0	10YR4/4砂質シルト			

表1　検出Pit一覧10/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit125	楕円形	南北長 87.0 東西長 72.0 深さ 10.0	10YR4/4砂質シルト		須恵器	
Pit126	楕円形	南北長 66.0 東西長 52.0 深さ 32.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit127	楕円形	南北長 48.0 東西長 75.0 深さ 22.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit128	円形	南北長 56.0 東西長 60.0 深さ 12.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit129	円形	南北長 18.0 東西長 20.0 深さ 38.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit130	円形	南北長 17.0 東西長 17.0 深さ 25.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit131	円形	南北長 47.0 東西長 49.0 深さ 44.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit132	円形	南北長 36.0 東西長 20.0 深さ 28.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit133	楕円形	南北長 62.0 東西長 104.0 深さ 50.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit134	円形	南北長 48.0 東西長 46.0 深さ 25.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit135	円形	南北長 43.0 東西長 46.0 深さ 16.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit136	円形	南北長 36.0 東西長 32.0 深さ 7.0	10YR4/4砂質シルト			

表1　検出Pit一覧11/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit137	楕円形	南北長 40.0 東西長 23.0 深さ 3.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit138	円形	南北長 22.0 東西長 26.0 深さ 20.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit139	円形	南北長 26.0 東西長 26.0 深さ 13.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit140	長方形	南北長 46.0 東西長 78.0 深さ 18.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit141	円形	南北長 22.0 東西長 22.0 深さ ?	10YR4/4砂質シルト			
Pit142	方形	南北長 98.0 東西長 97.0 深さ 20.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit143	方形	南北長 56.0 東西長 56.0 深さ 23.0	10YR4/4砂質シルト		須恵器	
Pit144	楕円形	南北長 90.0 東西長 70.0 深さ 30.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit145	円形	南北長 40.0 東西長 34.0 深さ 9.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit146	楕円形	南北長 60.0 東西長 42.0 深さ 18.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit147	楕円形	南北長 62.0 東西長 83.0 深さ 20.0	10YR4/4砂質シルト		土師器 須恵器	皿
Pit148	円形	南北長 70.0 東西長 76.0 深さ 25.0	10YR4/4砂質シルト		土師器	坏

表1　検出Pit一覧12/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
Pit149	長方形	南北長 50.0 東西長 57.0 深さ 40.0	10YR4/4砂質シルト		土師器 須恵器	
Pit150	方形	南北長 20.0 東西長 64.0 深さ 38.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit151	円形	南北長 36.0 東西長 40.0 深さ 24.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit152	円形	南北長 58.0 東西長 56.0 深さ 35.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit153	楕円形	南北長 56.0 東西長 48.0 深さ 16.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit154	方形	南北長 62.0 東西長 76.0 深さ 35.0	10YR4/4砂質シルト		土師器 須恵器	
Pit155	楕円形	南北長 100.0 東西長 60.0 深さ 30.0	10YR4/4砂質シルト		土師器	
Pit156	方形	南北長 83.0 東西長 83.0 深さ 33.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit157	楕円形	南北長 70.0 東西長 60.0 深さ 44.0	10YR4/4砂質シルト		弥生土器	
Pit158	方形	南北長 59.0 東西長 70.0 深さ 30.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit159	長方形	南北長 83.0 東西長 44.0 深さ 45.0	10YR4/4砂質シルト		土師器 須恵器 弥生土器	甑 坏
Pit160	方形	南北長 78.0 東西長 53.0 深さ 27.0	10YR4/4砂質シルト			

表1　検出Pit一覧13/14

遺構名	平面形	規　　模 cm	埋　　土	施設	種類	器種
Pit161	楕円形	南北長 68.0 東西長 78.0 深さ 26.0	10YR4/4砂質シルト		弥生土器	
Pit162	長方形	南北長 90.0 東西長 40.0 深さ 13.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit163	長方形	南北長 44.0 東西長 118.0 深さ 37.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit164	長方形	南北長 94.0 東西長 54.0 深さ 47.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit165	長方形	南北長 34.0 東西長 23.0 深さ 40.0	10YR4/4砂質シルト			
Pit166	楕円形	南北長 40.0 東西長 43.0 深さ ?	10YR4/4砂質シルト			
Pit167	円形	南北長 20.0 東西長 18.0 深さ 8.0	10YR4/1シルト			

表1　検出Pit一覧14/14

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
土壙01		南北長 180.0 東西長 218.0 深さ 59.0	2.5Y4/2シルト		土師器 瓦器 須恵器 瓦	皿 椀　火舎　すり鉢 平瓦　丸瓦
土壙02	円形	南北長 119.0 東西長 121.0 深さ 30.0	10YR3/1シルト		土師器	皿
土壙03	楕円形	南北長 66.0 東西長 104.0 深さ 17.0	2.5GY4/1シルト		土師器 瓦器 須恵器 石製品	皿 椀 石棺
土壙04	円形	南北長 273.0 東西長 285.0 深さ 16.0	10Y4/1シルト		土師器 瓦器 須恵器	皿　釜 椀
土壙05		南北長 東西長 深さ	10Y4/1砂質シルト		土師器 瓦器	皿
土壙06	長方形	南北長 64.0 東西長 110.0 深さ 15.0				
土壙07	楕円形	南北長 60.0 東西長 100.0 深さ 8.0				
土壙08		南北長 東西長 深さ	2.5Y4/3シルト			
土壙09	楕円形	南北長 113.0 東西長 138.0 深さ 41.0	2.5Y3/1シルト		土師器 瓦器	皿 椀
土壙10		南北長 東西長 深さ	5GY5/1砂質シルト		瓦器	
土壙11	円形	南北長 122.0 東西長 112.0 深さ 40.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器 瓦	皿 椀　火舎 平瓦
土壙12	楕円形	南北長 32.0 東西長 86.0 深さ 4.0	5GY4/1シルト			

表2　検出土壙一覧1/2

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
土壙13	円形	南北長 240.0 東西長 224.0 深さ 38.0	2.5Y4/2シルト		土師器 瓦器 須恵器	皿 椀
土壙14	円形	南北長 95.0 東西長 102.0 深さ 13.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器 須恵器	皿 皿
土壙15	楕円形	南北長 175.0 東西長 134.0 深さ ?	10YR5/4砂質シルト		土師器	皿
土壙16	円形	南北長 117.0 東西長 108.0 深さ 14.0	10YR5/4砂質シルト			
土壙17	長方形	南北長 101.0 東西長 81.0 深さ 9.0	10YR3/1シルト		土師器 瓦器 黒色土器	皿　羽釜 椀
土壙18	長方形	南北長 130.0 東西長 180.0 深さ 40.0			土師器	皿
土壙19	楕円形	南北長 71.0 東西長 136.0 深さ 20.0	5GY5/1砂質シルト			
土壙20	楕円形	南北長 76.0 東西長 178.0 深さ 26.0	10YR4/4砂質シルト			
土壙21	楕円形	南北長 62.0 東西長 140.0 深さ 12.0	10YR4/4砂質シルト			
土壙22		南北長 東西長 深さ	10YR4/4砂質シルト			
土壙23	長方形	南北長 255.0 東西長 150.0 深さ 11.0	2.5Y5/1シルト		土師器 瓦器 瓦	皿 椀 丸瓦

表2　検出土壙一覧2/2

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
溝01		南北長 東西長 深さ	5GY5/1砂質シルト		土師器 瓦器 須恵器 青磁 瓦	皿　托　ミニチュア 椀 壺 平瓦　丸瓦
溝04		南北長 東西長 深さ	10Y4/1砂質シルト		土師器 瓦器	皿
溝06		南北長 東西長 深さ	5Y4/2シルト			
溝07		南北長 東西長 深さ	2.5Y5/1シルト		土師器	皿
溝08		南北長 東西長 深さ	2.5YR3/2シルト		土師器 瓦器 須恵器 弥生土器	皿 椀

表3　検出溝一覧

名称	構造	規模	寸法	面積	柱間寸法	柱掘り方	備考
建物1	掘立柱建物	東西 2 間 南北 2 間	東西3.28 m 南北3.68 m	12.10 m^2	東西 1.64 m 南北 1.84 m	楕円形 方形	総柱
建物2	掘立柱建物	東西 1 間 南北 3 間	東西1.84 m 南北5.28 m	9.70 m^2	東西 1.84 m 南北 1.76 m	円形	
建物3	掘立柱建物	東西 2 間 南北 2 間	東西4.00 m 南北4.00 m	16.00 m^2	東西 2.00 m 南北 2.00 m	楕円形	
建物4	礎石建物	東西 3 間 南北 2 間	東西6.45 m 南北4.30 m	27.70 m^2	東西 2.15 m 南北 2.15 m		総柱

表4　検出建物一覧

遺構名	平面形	規　模 cm	埋　土	施設	種類	器種
墓01	楕円形	南北長 198.0 東西長 112.0 深さ 34.0	5Y3/1シルト		土師器 瓦器 瓦	皿 火舎 平瓦　丸瓦　軒丸瓦
墓02	楕円形	南北長 60.0 東西長 78.0 深さ 14.0	2.5YR6/6シルト			

表5　検出墓一覧

1) A地区

市杵嶋姫神社の南側にあるA地区は、本調査地区のうち最も広い平坦面である。A地区の北寄り部分では、石垣・掘立柱建物・Pit・溝・土壙・墓などを検出している。また、南寄り部分からは石垣を確認している。

写真4　A地区地山上面遺構全景(南東より)

写真5 A地区地山上面遺構全景

層序

図5・6にA地区の堆積土層の断面図を示す。ここでは、調査区北壁断面によってA地区の層序を記述していく。

1・2層は、現耕作土層である。3～8層は石垣5の上面を覆うとともに9・10層の旧耕作土層上面に堆積する整地層である。石垣3の西側に堆積する11層は、石垣3に伴う平坦面を埋積する際の土層である。石垣3の東側にある14・15層は、石垣5に伴う平坦面を埋積する土層である。19～30層は、石垣6の西側に堆積するもので、石垣6を埋積する整地層である。このうち、19・20層は、石垣3・5を築造する際のベース面となった土層である。19・20層下部に堆積する21～30層は、21～23層を整地層7、24層を整地層8、25～30層を整地層9として掘削している。石垣8の西側にある35～40層は、石垣8の埋没時の堆積層である。

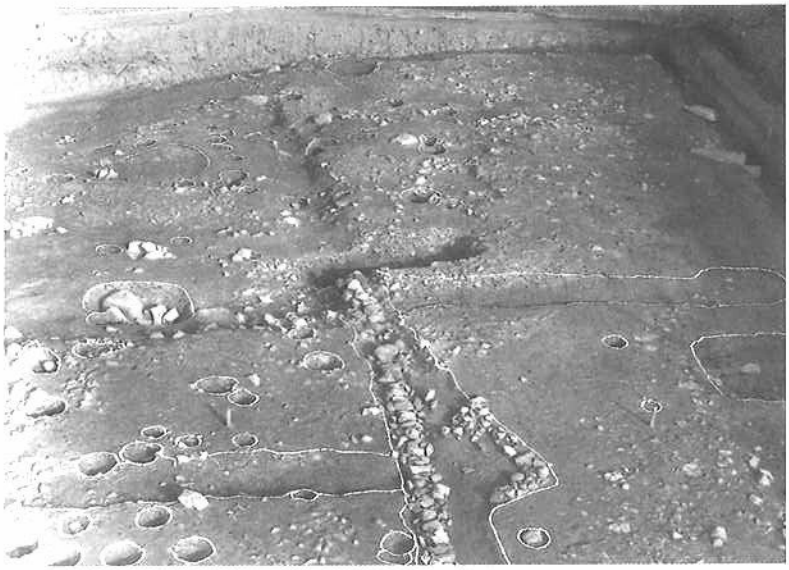


写真6　A地区北半部分

それぞれの石垣の西側に堆積する土層から出土している遺物は、各石垣の埋没時期を示しているため、後述する各石垣の記述のなかで取り扱うことにする。また、それ以外の堆積層から出土している遺物については各遺構の説明後、まとめてあつかうこととする。

写真7　A地区北壁断面

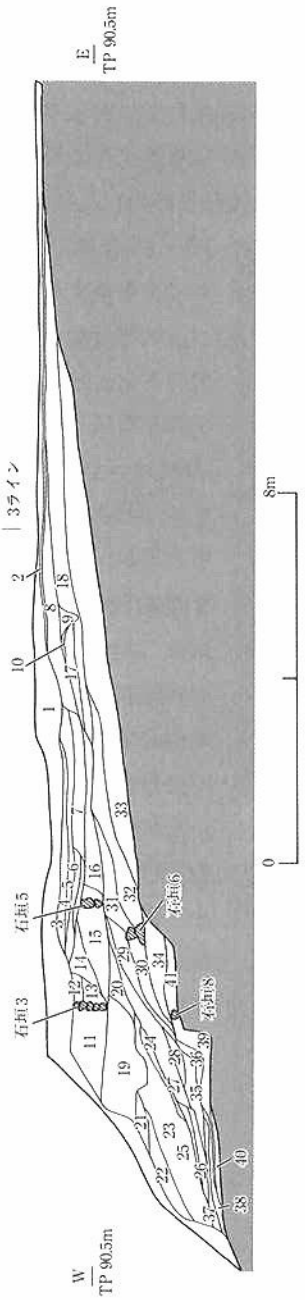


図5　A地区北壁断面図

A地区北壁断面土層名

1　耕土　5Y5/1灰色砂質土
2　床土　7.5YR6/6橙色シルト
3　整地層1　2.5Y4/1黄灰色砂質シルト（地山ブロックを含む）
4　整地層1　2.5Y4/1黄灰色砂質シルト（地山ブロック・炭・5mm～拳大の礫を含む）
5　整地層1　2.5Y6/3にぶい黄色砂まじりシルト（5mm～拳大の礫を含む）
6　整地層1　10YR5/6黄褐色シルト（5mm～拳大の礫を含む）
7　整地層1　5Y4/2灰オリーブ色シルト（拳大の礫を含む）
8　整地層1　5Y5/3灰オリーブ色砂まじりシルト（焼土を含む）
9　旧耕土　5GY5/1オリーブ灰色砂質シルト
10　旧床土　5YR5/6明赤褐色シルト
11　石垣3前面
12　石垣3うらごめ　10YR6/6明黄褐色シルト（拳大の礫を含む）
13　石垣3うらごめ　5Y3/1オリーブ黒色シルト（拳大の礫を含む）
14　石垣5前面　2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト
15　石垣5前面　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（拳大の礫・地山ブロックを含む）
16　整地層5　5Y4/1灰色砂質シルト（3mm～5mmの礫を含む）
17　整地層6　7.5Y5/1灰色砂質シルト
18　整地層6　10Y5/1灰色砂質シルト（5mm～拳大の礫・炭を含む）
19　石垣6前面　10Y5/1灰色シルト（5mm～拳大の礫を含む）
20　石垣6前面　5Y4/2灰オリーブ色シルト（地山ブロックを含む）
21　石垣6前面　整地層7　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（拳大の礫・地山ブロックを含む）
22　石垣6前面　整地層7　10YR6/6明黄褐色シルト
23　石垣6前面　整地層7　2.5Y6/4にぶい黄色シルト（拳大～人頭大の礫を含む）
24　石垣6前面　整地層8　7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト（地山ブロックを含む）
25　石垣6前面　整地層9　10G5/1緑灰色粗～中砂（拳大の礫を含む）
26　石垣6前面　整地層9　10G5/1緑灰色粗砂（拳大の礫・植物遺体を含む）
27　石垣6前面　整地層9　2.5Y3/2黒褐色シルト（炭を含む）
28　石垣6前面　整地層9　N3/1暗灰色シルト（地山ブロック・炭・5mm以下の礫を含む）
29　石垣6前面　整地層9　5Y2/2オリーブ黒色シルト（炭・焼土を含む）
30　石垣6前面　整地層9　10Y4/1灰色シルト（地山ブロックを含む）
31　石垣6うらごめ　10Y4/1灰色砂質土（拳大の礫を含む）
32　石垣6うらごめ　7.5GY5/1緑灰色細砂（5mm～拳大の礫・炭を含む）
33　10Y5/1灰色シルト（5mm～人頭大の礫を含む）
34　7.5Y4/1灰色砂質シルト
35　石垣8前面　整地層10　10G4/1暗緑灰色粘土（地山ブロックを含む）
36　石垣8前面　整地層10　5BG3/1暗青灰色粘土（拳大の礫・植物遺体を含む）
37　石垣8前面　整地層10　5G3/1緑黒色細砂～シルト（拳大の礫・炭・植物遺体を含む）
38　石垣8前面　整地層10　5BG4/1暗青灰色シルト
39　石垣8前面　整地層10　5BG4/1暗青灰色粘土（拳大の礫・植物遺体・炭を含む）
40　石垣8前面　整地層10　10BG4/1暗青灰色粗～中砂
41　石垣8うらごめ

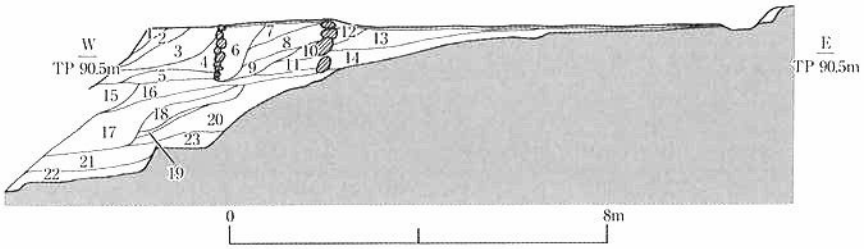


図6　A地区直交断面図

1　石垣3前面　10YR4/4褐色砂質シルト(拳大の礫を含む)
2　石垣3前面　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山ブロックを含む）
3　石垣3前面　2.5Y5/2暗灰黄色シルト（地山ブロック・5cm～人頭大の礫を含む）
4　石垣3前面　10YR4/1褐灰色砂質シルト（拳大の礫を含む）
5　石垣3前面　10YR4/1褐灰色砂質シルト（1～5cmの礫を含む）
6　石垣3うらごめ　2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土（拳大の礫を含む）
7　石垣5前面　整地層3　10YR6/6明黄褐色シルト（拳大の礫を含む）
8　石垣5前面　整地層4　10YR6/6明黄褐色シルト（拳大の礫を含む）
9　石垣5前面　灰色シルト　10YR2/2黒褐色シルト（拳大の礫を含む）
10　石垣5前面　灰色シルト　10YR2/2黒褐色シルト（人頭大の礫を含む）
11　石垣5前面　灰色シルト　10YR2/2黒褐色シルト（炭・焼土を含む）
12　5YR2/1黒褐色シルト（地山ブロック・拳大の礫を含む）
13　整地層5　10YR1/6明黄褐色シルト（拳大の礫を含む）
14　整地層6　10YR5/2灰黄褐色シルト（1cm～拳大の礫を含む）
15　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（1cm～拳大の礫を含む）
16　5YR2/1黒褐色シルト（地山ブロック・1cm～拳大の礫を含む）
17　石垣6前面　整地層7　10YR7/6明黄褐色シルト（5cm程度の礫を含む）
18　石垣6前面　整地層8　2.5Y3/2黒褐色シルト（炭・1cm～拳大の礫を含む）
19　石垣6前面　整地層9　10YR7/6明黄褐色シルト
20　石垣6前面　整地層9　2.5Y3/2黒褐色シルト（1cm～拳大、人頭大の礫を含む）
21　石垣8前面　整地層10　2.5Y3/2黒褐色シルト（地山ブロック・拳大の礫を含む）
22　石垣8前面　整地層10　5G3/1暗緑灰色細粒砂（炭・炭化物を含む）
23　10YR6/6明黄褐色粗砂

写真8　A地区北側地山直交断面

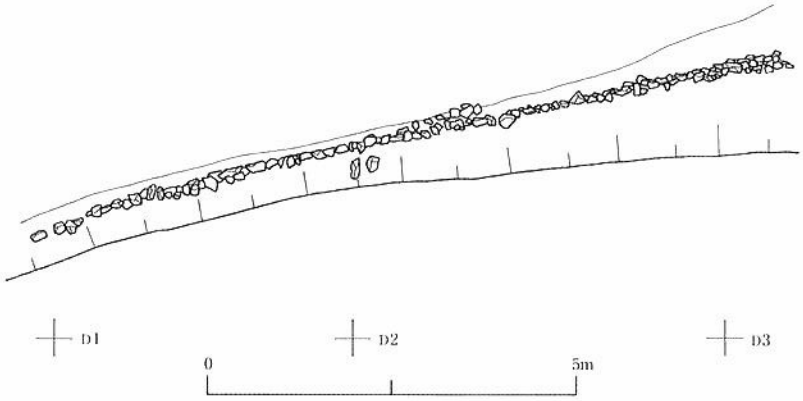


図7　A地区石垣1平面図

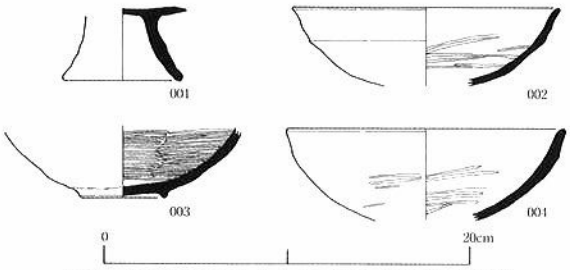


図8　A地区石垣1うらごめ出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 001 08図 出土地点 A地区	石垣1うらごめ	土師器 托	口径 器高	2.5Y8/3淡黄色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面　ヨコナデ
報告No. 002 08図 出土地点 A地区	石垣1うらごめ	瓦器 椀	口径(14.6) 器高	5Y7/2灰白色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 003 08図 出土地点 A地区	石垣1うらごめ	瓦器 椀	口径 器高	N6/0灰色	口縁部外面 体部外面　ユビオサエ 底部外面　ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面　ナデ
報告No. 004 08図 出土地点 A地区	石垣1うらごめ	瓦器 椀	口径(15.2) 器高	N5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面

表6　A地区石垣1うらごめ出土遺物観察表

以上のようにA地区の平坦面は、中央から東寄り部分の耕作土直下で地山層を確認している。一方、中央から西寄り部分には、南北方向の複数の石垣列やこれらを覆う土層が堆積している。これらの土層は、東側から西側にむかって順に堆積していることから、平坦面を造成するための整地層で、平坦面を東側から西側に向かって徐々に拡大していったものと思わる。

遺構と遺物

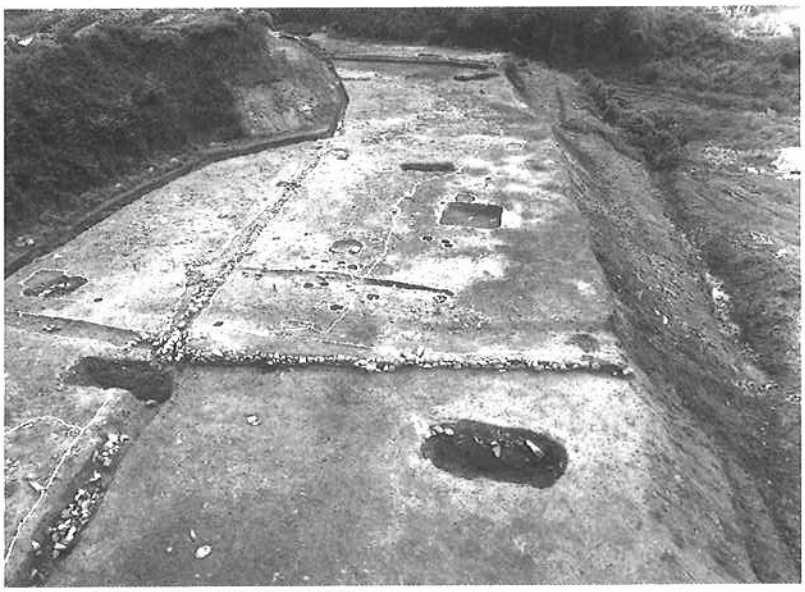


写真9　A地区石垣1遺構検出状況

A地区では、調査地区の北西寄り部分から石垣、北東部分から中央部分で掘立柱建物・Pit・溝・土壙・墓などを検出している。また、南寄り部分からは石垣を確認している。なお、石垣4・7はB地区の遺構との関連からB地区の項で記述する。

写真10　A地区東側コーナー(石垣1)部分

石垣1

石垣1は、A地区の北寄り部分、現耕作土直下に堆積する整地層1の上面で検出している。石垣の残存規模は東西方向に長さ約10.5m・高さ20～50cmを測る。東西方向の石垣の東端は、石組み暗渠のある溝1と接している。石垣に

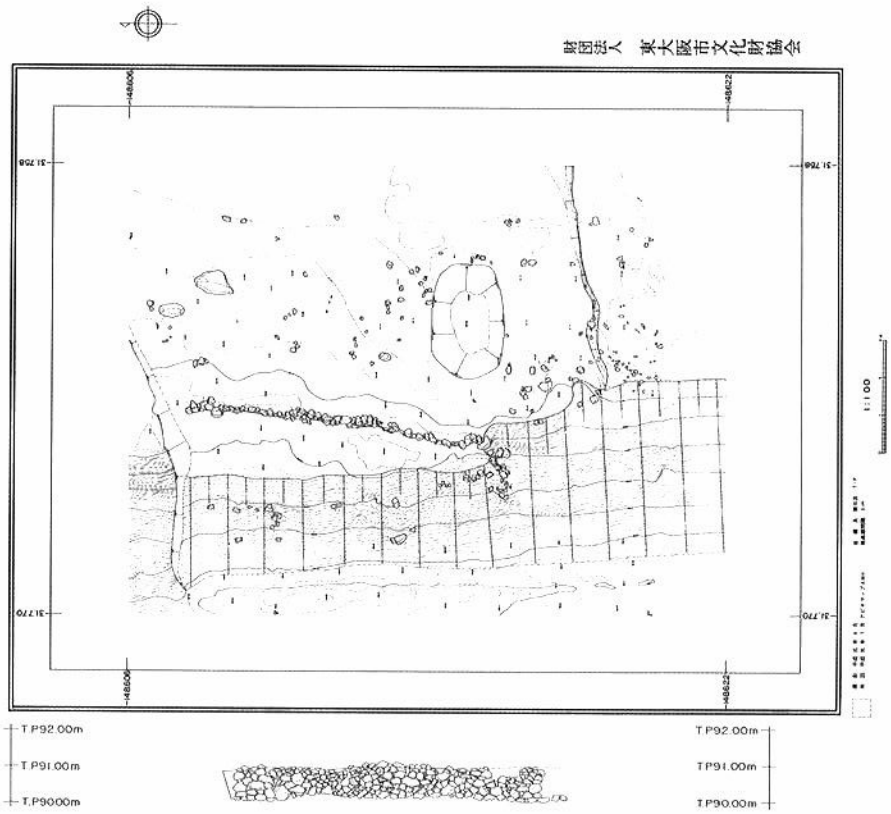


図9　A地区石垣3平面・立面図

写真11　A地区地山直交断面石垣3うめ土

写真12　A地区石垣3検出状況

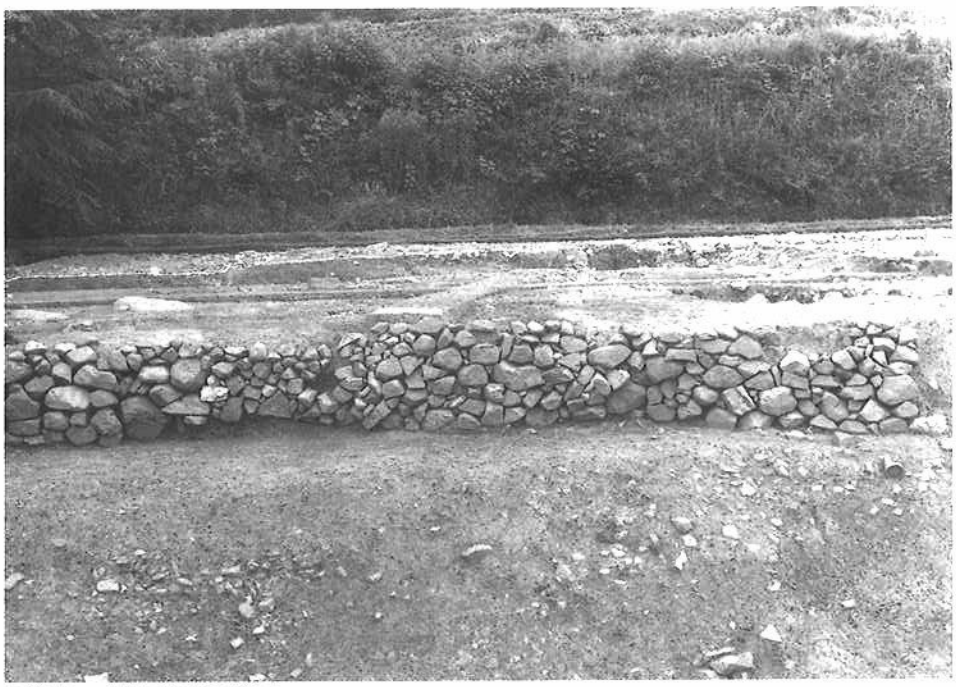


写真13　A地区石垣3全景

は、人頭大の石材を使用し、北側に向かって面を揃え、1～4段分残存している。

石垣1の裏込め土には、土師器托や高台の断面形が台形を呈し、体部内外面をヘラミガキ調整する瓦器椀などの鎌倉時代の土器類が含まれている。しかし、検出層位から石垣1は、近世以降に築造されたものと推定できる。

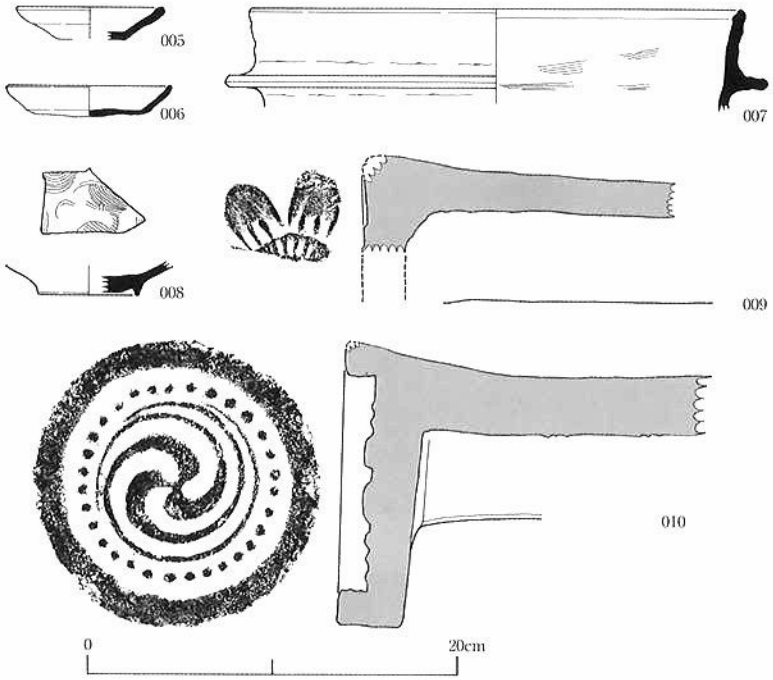


図10　A地区石垣3前面・うらごめ出土遺物実測図

石垣3

南北方向に連なる石垣3はA地区の北寄り部分、耕作土層直下で検出している。本石垣は、後述する石垣5とともに石垣6の西側に堆積する整地層にあたる19層上面を築造面としている。石垣3の残存規模は、南北約8m・高さ1mを測る。石垣は、人頭大から馬頭大の加工痕のない自然石や割り石を使用し、平坦な面を西側に向けて横積みしている。石積みは、保存状態の良好な部分で7段分残存している。

石垣3のうらごめ土からは、鎌倉時代から15世紀代の底部の凹む土師器皿・釜や磁器椀が出土している。

また、石垣3に伴う平坦面を整地する際に堆積した11層(石垣3前面)からは、先端に丸みをもつ8つの連弁のなかに2つの子葉を配する蓮華文軒丸瓦・巴文の周囲に31個の珠文を施す三巴文軒丸瓦・平瓦が出土している。このような出土遺物から石垣3の築造時期は、層位やうらごめ土内の出土遺物から15世紀代と推定できる。

石垣5

石垣5はA地区北寄り部分に位置しており、整地層1の下層で、石垣5を削平した際に堆積した15層上面から検出している。石垣5は、前述した石垣3と同一方位で20層上面をベースに築造している。石垣の残存規模は、南北約10.5m・高さ20～50cmを測る。石垣に使用されてい

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 005 10図 出土地点 A地区	石垣3うらごめ	土師器 小皿	口径(8.0) 器高1.8	10YR6/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 006 10図 出土地点 A地区	石垣3うらごめ	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.7	2.5Y8/3淡 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 007 10図 出土地点 A地区	石垣3うらごめ	土師器 釜	口径(26.4) 器高	2.5Y7/2灰 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のハケメ後ヨコナデ 底部内面
報告No. 008 10図 出土地点 A地区	石垣3うらごめ	磁器 青白磁椀	口径 器高	7.5Y8/1灰 白色	口縁部外面 体部外面 底部外面 ヘラケズリ ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 009 10図 出土地点 A地区	石垣3 前面	瓦 軒丸瓦	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 010 10図 出土地点 A地区	石垣3 前面	瓦 軒丸瓦	口径 器高	10Y6/1灰 色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表7 A地区石垣3出土遺物観察表

る石材は、人頭大から幅60cm前後の割り石や自然石があり、石垣1・3の用材よりも大型のものを用いている。石積みは、それぞれの石材の平坦な面を西に向け、横積みしており、1～3段分残存している。検出した石垣のうち、北寄り部分の基底石には大型の石材を使用している。

石垣5の西側の平坦面を覆う14・15層(整地層4)からは、13世紀から15世紀にかけての瓦器椀・釜、土師器皿・釜、陶磁器類、飾り瓦片、石鍋などが出土している。検出している土師器皿は体部外面下方にユビオサエ痕が残っている。瓦器釜は、内傾する口縁部に段をもち、端部に面を構成する形態を呈する。体部外面は、横方向にヘラケズリ調整している。

整地層4からは、土師器皿・釜、瓦器椀、磁器椀などを検出している。瓦器椀は、口縁端部を丸くおさめ、内外面にヘラケズリ調整を施すものがある。土師器釜は口縁部が外反し、端部を丸く仕上げるも

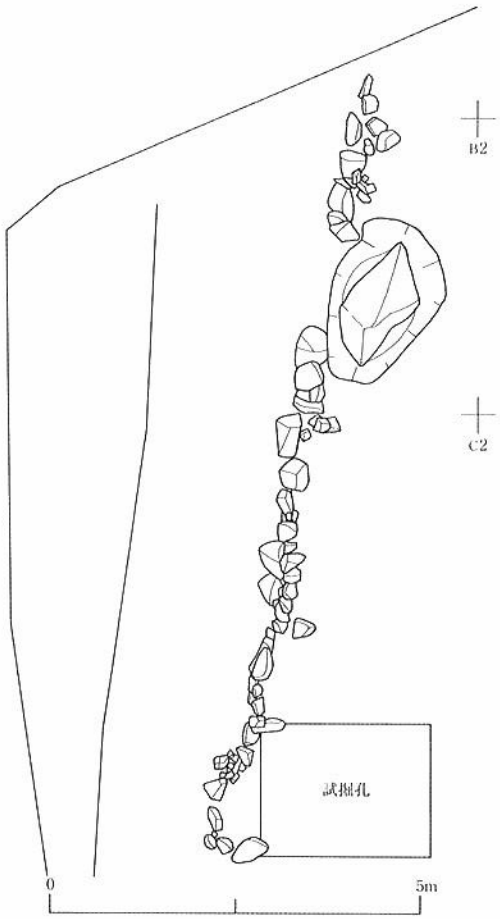


図11　A地区石垣5平面図

写真14
A地区石垣5前面断面

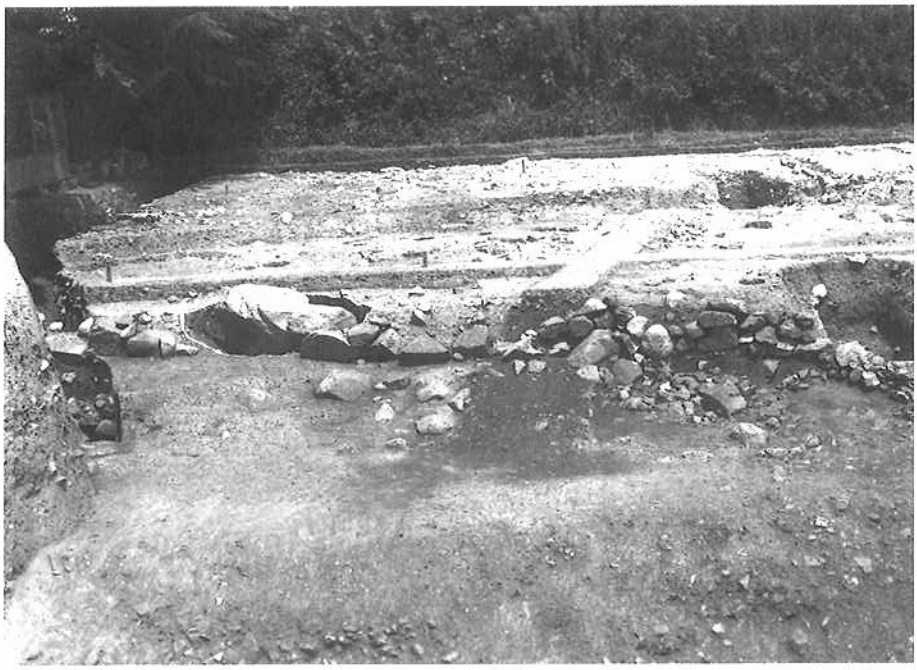


写真15　A地区石垣5全景

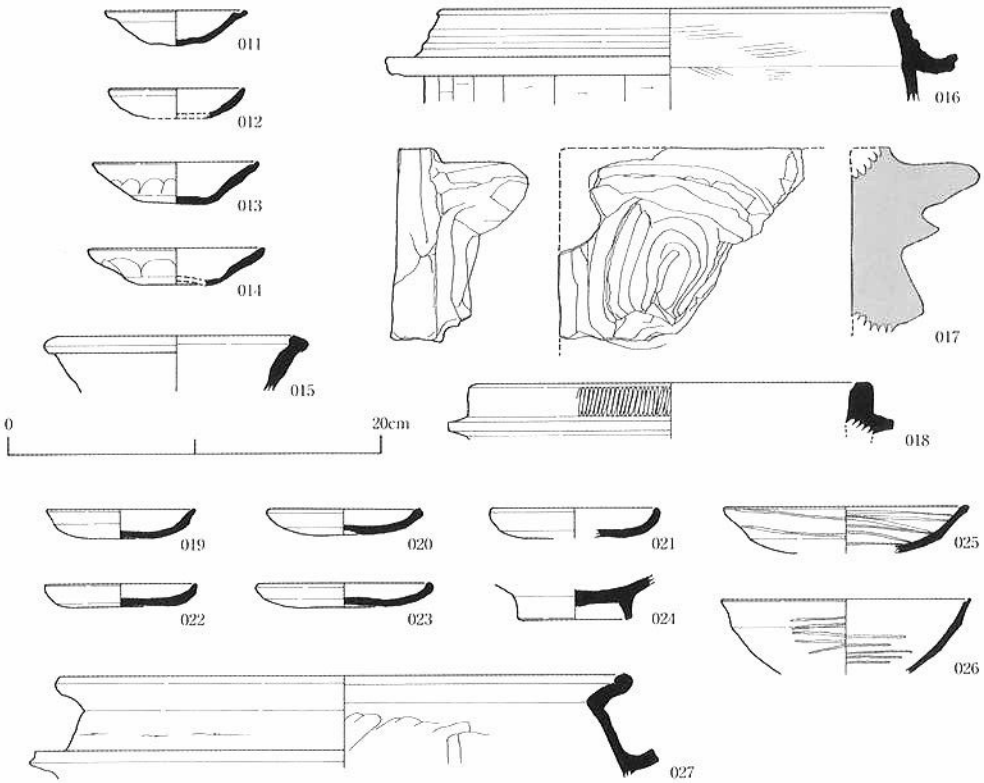


図12　A地区石垣5前面(整地層4)出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 011 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(7.6) 器高1.9	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 012 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(7.2) 器高1.6	5YR6/6橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 013 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	土師器 小皿	口径8.8 器高2.3	7.5YR8/4 浅黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 014 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(9.4) 器高2.0	5YR6/6橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 015 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	陶器 甕	口径(12.8) 器高	10R5/4赤褐色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　ヨコナデ 底部内面
報告No. 016 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	瓦器 釜	口径(24.8) 器高	N4/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　横方向のヘラケズリ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のハケメ 体部内面　ハケメ後ナデ 底部内面
報告No. 017 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	瓦 鬼瓦	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 018 12図 出土地点 A地区	整地層4 石垣5　前面	石製品 石鍋	口径(21.0) 器高	N2/0黒色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 019 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(9.79) 器高1.55	N6/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ

表8　A地区石垣5前面出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 020 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(8.1) 器高1.4	10YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 021 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(8.9) 器高1.55	7.5YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 022 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(8.0) 器高1.2	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 023 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	土師器 小皿	口径(9.2) 器高1.3	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 024 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	磁器 白磁椀	口径 器高	7.5Y8/1灰白色 釉の色調 7.5Y7/2灰白色	口縁部外面 体部外面　ヘラケズリ 底部外面　ヘラケズリ ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 025 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	瓦器 椀	口径(13.0) 器高	N6/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面　ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 026 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	瓦器 椀	口径(13.3) 器高	N5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面　ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 027 12図 出土地点 A地区	灰色シルト 石垣5　前面	土師器 釜	口径(30.3) 器高	10YR8/2 灰白色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　ケズリ 底部内面

表8　A地区石垣5前面出土遺物観察表2/2

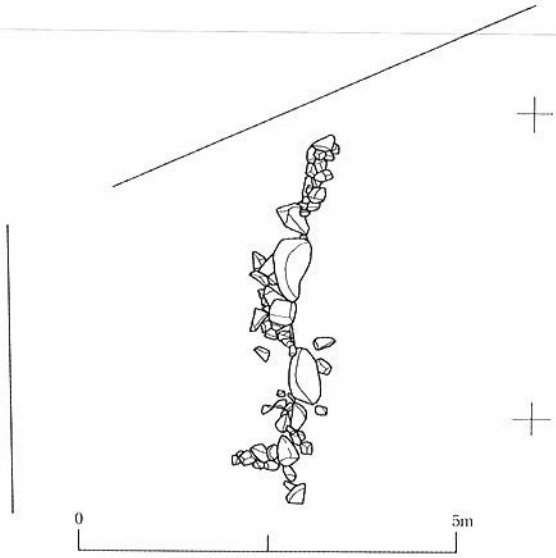


図13　A地区石垣6平面図

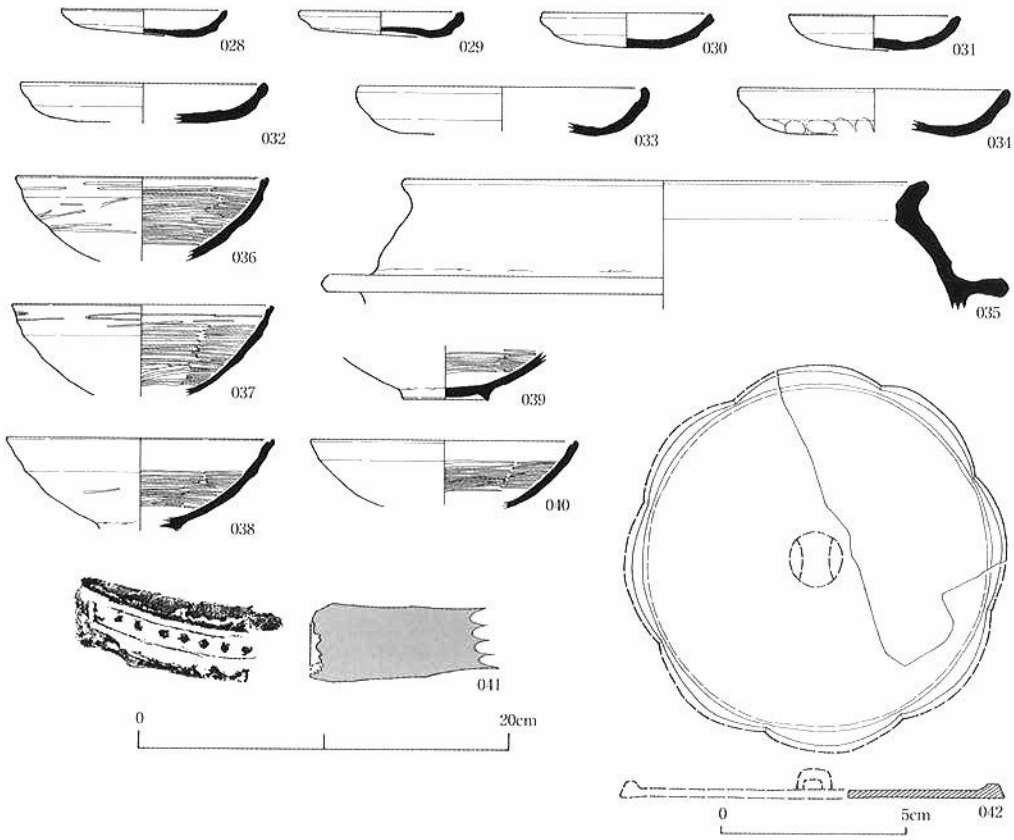


図14　A地区石垣6前面出土遺物実測図1/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 028 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 小皿	口径8.8 器高1.5	2.5Y7/4浅黄色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 029 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 小皿	口径8.8 器高1.4	10YR7/2にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 030 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 小皿	口径9.0 器高1.9	10YR7/3にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 031 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 小皿	口径9.0 器高1.9	10YR7/4にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 032 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 皿	口径(13.2) 器高2.1	10YR7/3にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 033 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 皿	口径(15.4) 器高2.6	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 034 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 皿	口径(14.3) 器高2.5	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 035 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	土師器 釜	口径(28.0) 器高	2.5Y8/2灰白色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　ナデ 底部内面
報告No. 036 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	瓦器 椀	口径(13.4) 器高	N5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面　横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面

表9　A地区石垣6前面出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 037 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	瓦器 椀	口径(14.0) 器高	N5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面　横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 038 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	瓦器 椀	口径(14.2) 器高	N5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 039 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	瓦器 椀	口径 器高	N6/0灰色	口縁部外面 体部外面　ナデ 底部外面　ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面　ナデ
報告No. 040 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	瓦器 椀	口径(14.2) 器高	N5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面　ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 041 14図 出土地点 A地区	石垣6　前面	瓦 軒平瓦	口径 器高	N6/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 042 14図 出土地点	石垣6　前面	金属製品 鏡	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表9　A地区石垣6前面出土遺物観察表2/2

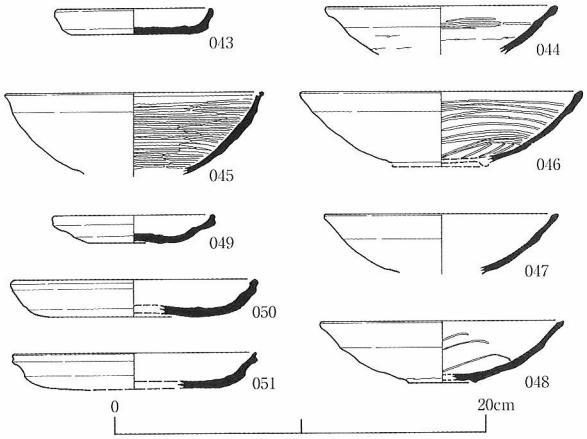


図15　A地区石垣6前面(整地層7・8)出土遺物実測図2/3

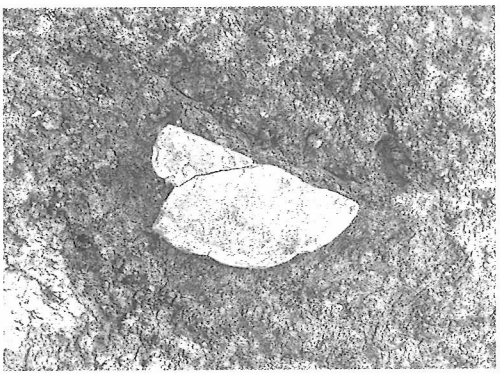


写真16　A地区石垣6前面鏡出土状況

のがある。

これらの出土遺物から石垣5は、石垣3の築造時の15世紀代に削平を受け、整地されたものと推定できる。

石垣6

A地区の北西寄り部分で検出している石垣6は、31層上面で検出しており、前述した石垣3・5と同様に南北方向にのびている。石垣の残存規模は、長さ約5m・高さ10～60cmを測る。石組みは1段から3段分残存し、人頭大から80cm前後の割り石や自然石を積み上げている。

石垣6の前面からは、土師器皿・釜、瓦器椀、軒平瓦、八花鏡などが出土している。このうち、瓦器椀は口縁端部に段をもち、断面逆台形ないし三角形を呈する高台を底部に貼り付けている。土師器釜は、短く外反する口縁部の端部に面を構成している。軒平瓦は、曲線顎を呈する連珠文軒平瓦で界線内に珠文を配置している。青銅製の八花鏡は、直径10.2cmに復原できる。縁部の断面形は台形状を呈する。背面の施文は、摩滅のため不明である。

石垣6の削平時に堆積した19～30層は、前述したように整地層7～9に分けて掘削している。このうち整地層7(21～23層)・整地層8(24層)からは、12世紀～13世紀末頃の瓦器椀、土師器皿が出土している。このうち、瓦器椀は口縁端部を丸くおさめ、底部に断面三角形の高台を貼り付ける形態で、底部に一定方向のヘラミガキ調整を加えるものと口縁端部に段をつくり、体部全体をヘラミガキ調整するものがみられる。

また、整地層7・8の下層に堆積する整地層9からは、12世紀後半～13世紀中頃の土師器皿・釜・竈、瓦器皿・椀・四脚付鉢が出土している。土師器釜には口縁部が内傾し、端部に面を構成するものと端部で短く外反するものがある。竈は外面をハケメ調整で仕上げ、口縁部直下に下向きに短くのびる把手を貼り付けている。瓦器皿は口縁端部に面をもち、底部内面にジグザグ状の暗文を加えている。椀は口縁端部に段をもち、底部に断面三角形ないし方

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 043 15図 出土地点 A地区	整地層7 石垣6	土師器 小皿	口径(8.6) 器高1.4	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 044 15図 出土地点 A地区	整地層7 石垣6	瓦器 椀	口径(12.4) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 045 15図 出土地点 A地区	整地層7 石垣6	瓦器 椀	口径(13.8) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 046 15図 出土地点 A地区	整地層7 石垣6	瓦器 椀	口径(15.2) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 047 15図 出土地点 A地区	整地層8 石垣6	瓦器 椀	口径(12.4) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面
報告No. 048 15図 出土地点 A地区	整地層8 石垣6	瓦器 椀	口径(13.0) 器高3.3	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 ナデ
報告No. 049 15図 出土地点 A地区	整地層8 石垣6	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.5	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 050 15図 出土地点 A地区	整地層8 石垣6	土師器 皿	口径(13.0) 器高2.0	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 051 15図 出土地点 A地区	整地層8 石垣6	土師器 皿	口径(13.0) 器高1.9	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表10　A地区石垣6前面(整地層7・8)出土遺物観察表

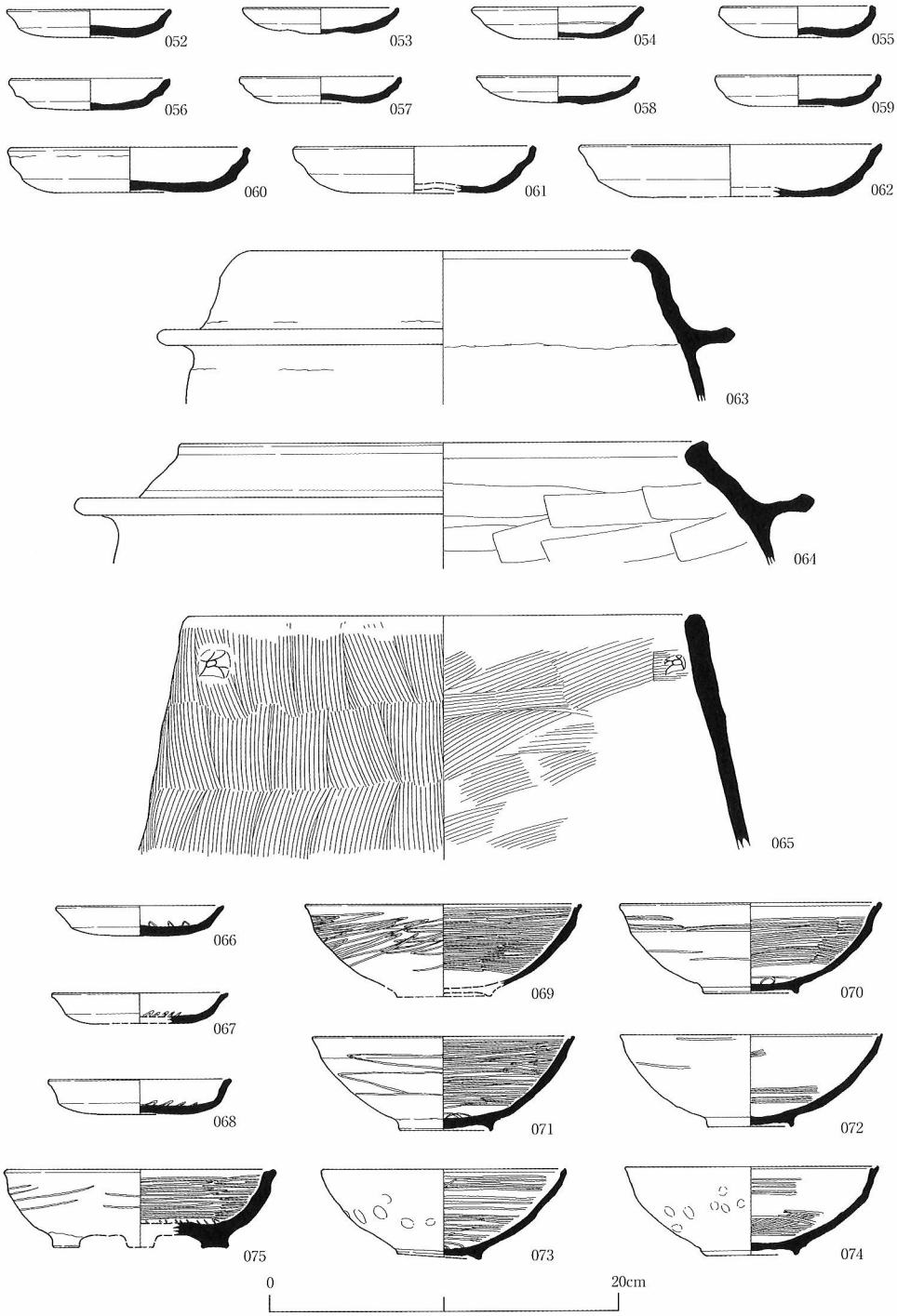


図16　A地区石垣6前面(整地層9)出土遺物実測図3/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 052 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径9.2 器高1.6	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 053 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径8.8 器高1.5	2.5Y7/2灰 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 054 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径(9.6) 器高1.8	2.5Y7/2灰 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 055 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径8.6 器高1.8	2.5Y7/3浅 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 056 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径9.0 器高1.8	2.5Y7/3浅 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 057 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径(9.2) 器高1.5	2.5Y7/3浅 黄色	口縁部外面 ナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 058 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径9.2 器高1.6	2.5Y7/2灰 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 059 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 小皿	口径(9.2) 器高1.8	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 060 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 皿	口径(13.4) 器高2.6	10YR7/2 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表11　A地区石垣6前面(整地層9)出土遺物観察表1/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 061 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 皿	口径(13.6) 器高2.7	10YR7/2 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 062 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 皿	口径(17.2) 器高3.0	7.5YR8/2 灰白色	口縁部外面 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 063 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 釜	口径(22.4) 器高	10YR7/2 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 064 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 釜	口径(30.0) 器高	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ後ナデ 底部内面
報告No. 065 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	土師器 竈	口径 器高		口縁部外面 縦方向のハケメ 体部外面 縦方向のハケメ 底部外面	口縁部内面 横方向のハケメ 体部内面 横方向のハケメ 底部内面
報告No. 066 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 小皿	口径(9.4) 器高1.7	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ後ジグザグ状暗文
報告No. 067 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 小皿	口径(9.8) 器高1.7	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ後ジグザグ状暗文
報告No. 068 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 皿	口径(10.2) 器高2.0	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ後ジグザグ状暗文
報告No. 069 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 椀	口径(15.6) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面

表11　A地区石垣6前面(整地層9)出土遺物観察表2/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 070 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 椀	口径(14.8) 器高5.2	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 071 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 椀	口径14.8 器高5.4	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 072 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 椀	口径(15.1) 器高5.3	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横ヘラ 体部外面 ユビオサエ後横ヘラ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横ヘラ 底部内面 ナデ
報告No. 073 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 椀	口径14.0 器高5.2	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横ヘラ 体部外面 ユビオサエ後横ヘラ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横ヘラ 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 074 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 椀	口径(14.6) 器高5.1	5B4/1暗青灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横ヘラ 体部外面 ユビオサエ後横ヘラ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横ヘラ 底部内面 ナデ
報告No. 075 16図 出土地点 A地区	整地層9 石垣6	瓦器 四脚付鉢	口径(15.3) 器高5.5	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 横方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 ナデ後ジグザグ状暗文

表11　A地区石垣6前面(整地層9)出土遺物観察表3/3

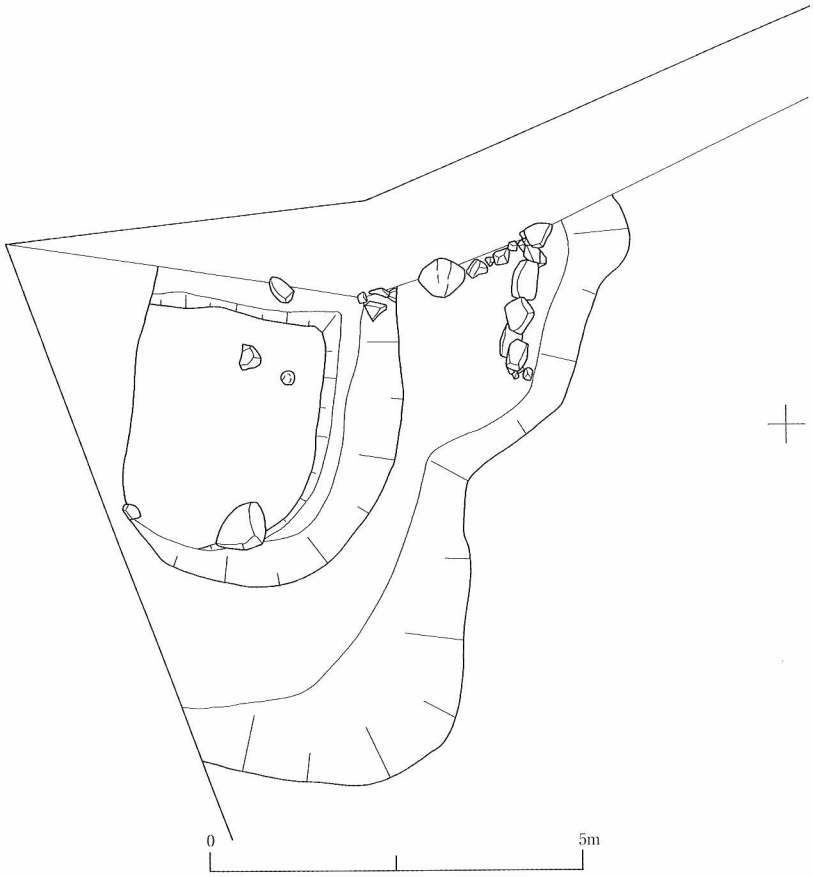


図17　A地区石垣8平面図

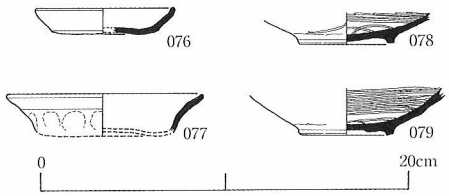


図18　A地区石垣8前面(整地層10)出土遺物実測図

形の高台を貼り付けている。底部内面には、連結輪状の暗文を施す。

このような整地層7・8・9の出土遺物から石垣6は、13世紀中頃から末頃にかけて削平をうけ、埋没したものと推定できる。

石垣8

A地区の北寄り部分で検出している石垣8は、前述した整地層9の下面で確認している。石垣8は地山面をベースに築造されており、A地区北寄り部分で検出している石垣3・5・6と同一方向にのびている。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 076 18図 出土地点 A地区	整地層10 石垣8	土師器 小皿	口径(7.6) 器高1.4	2.5Y8/2灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 077 18図 出土地点 A地区	整地層10 石垣8	土師器 皿	口径(10.8) 器高	2.5Y7/2灰黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 078 18図 出土地点 A地区	整地層10 石垣8	瓦器 椀	口径 器高	N4/0灰色	口縁部外面 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 079 18図 出土地点 A地区	整地層10 石垣8	瓦器 椀	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 連結輪状暗文

表12　A地区石垣8前面(整地層10)出土遺物観察表

石垣の残存規模は、南北約2.2m・高さ30cmを測る。石垣の使用石材は、いずれも幅40cm程度の割り石と自然石を横積みしている。

石垣8の西側に堆積する整地層10(35～40層)には、底部に断面逆台形を呈する高台を貼り付け、底部内面に連結輪状の暗文を施す12世紀後半の瓦器椀や土師器皿を含んでいる。これらのことから石垣8は、同期に削平され整地されたものと推定できる。

石垣9

A地区南西端部分では、表土・現耕作土・床土層を機械で除去後にL字形に屈折する石垣9を検出している。本石垣の規模は、南北長約10.8m・東西長約1.3m・高さ30～50cmを測る。南北方向の石組みのうち中央部分の約6.8mは、すでに崩壊している。

石垣は、人頭大から50cm程度の加工痕のない自然石や割り石を用いて積み上げ、保存状態の良好な部分で3段分残存している。床土直下で検出していることや後述する15世紀代の遺物を含む灰褐色シルト層を築造ベース面としていることから、石垣9は近世以降の築造と推定できる。

以上のようにA地区で検出している石垣について記述してきた。ここでは、それを整理しておきたい。

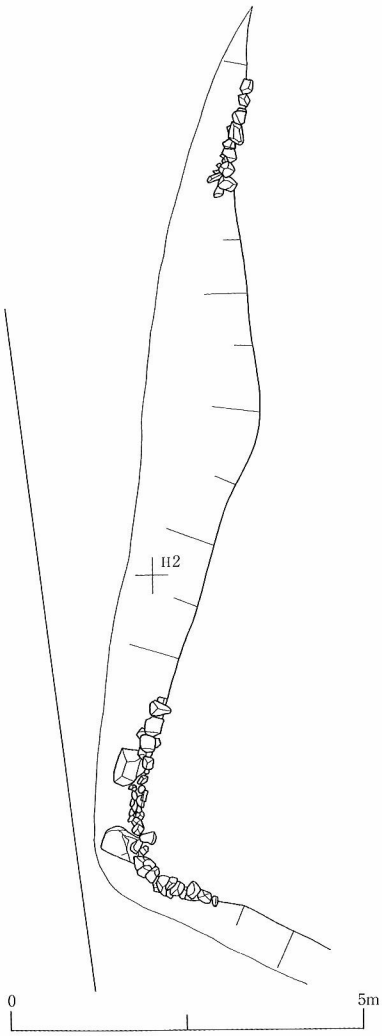


図19　A地区石垣9平面図

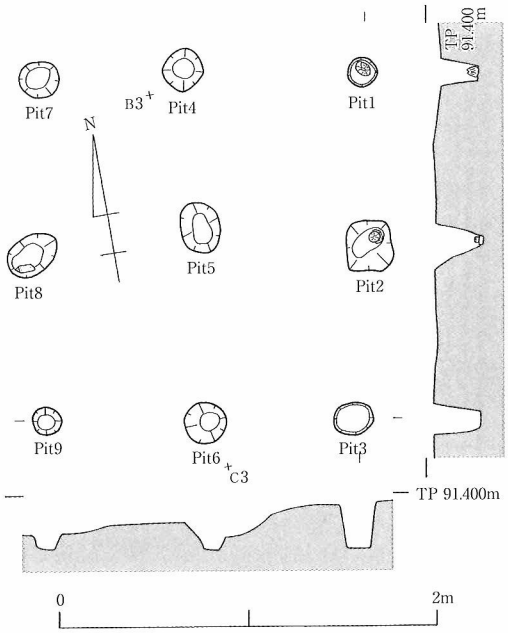


図20　A地区建物1実測図

A地区では、調査区北西部分で4列、北寄りの中央部分で1列、南端部分で1列を検出している。北西部分に位置する4列の石垣の方位は、共通している。これらのうち、最も古く位置付けることができるのは、石垣8で12世紀後半である。石垣8の次に築造されたのは、石垣6で13世紀と推定できる。さらに15世紀には、石垣3と石垣5が続いて築かれている。

調査区中央北寄り部分の石垣1、南端部分の石垣9は、近世以降に築造されている。

建物1

A地区北端部に位置する建物1は、東西2間・南北2間の総柱の掘立柱建物である。建物の東西方向は、前述した石垣の方位と平行している。柱間寸法は、東西1.64m・南北1.84mを測り、南北方向が20cm長い。建物を構成する柱穴の掘り方は、楕円形ないし方形を呈する。

建物1のPit1・2からは、柱根を検出している。また、Pit5からは、口縁部を丸くおさめ、底部の高台を欠く14世紀前半の瓦器椀が出土している。

建物2

建物2はA地区の北端部に占地する東西3間・南北1間の掘立柱建物である。前述した建物1

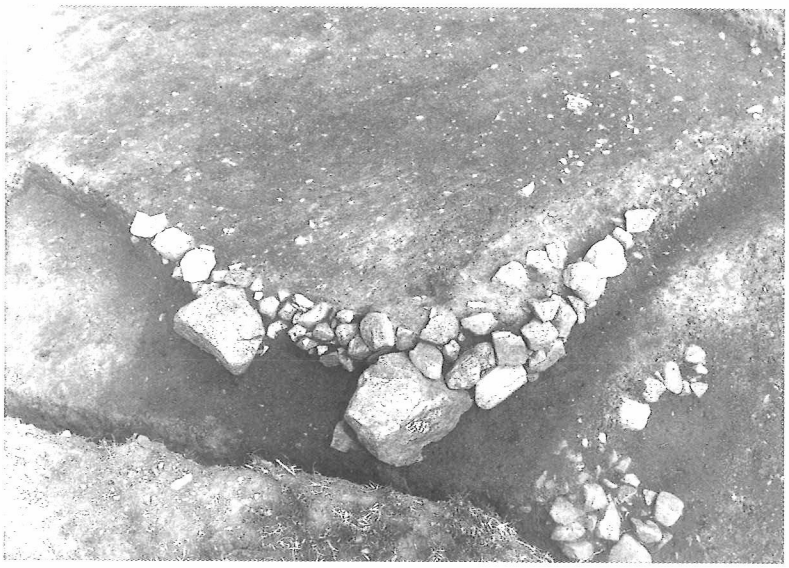


写真17　A地区石垣9コーナー部分

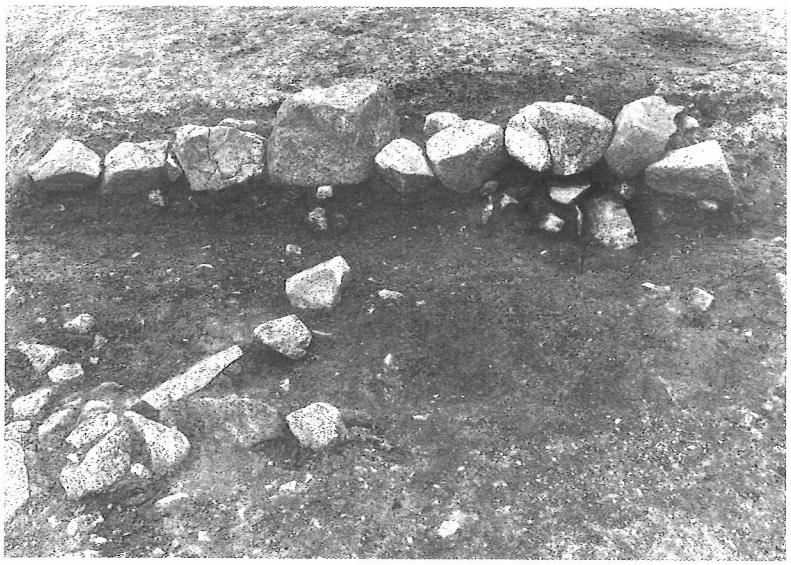


写真18　A地区石垣9北側石列

の南側柱列と建物2の北側柱列は重複している。このことから建物1と建物2は、同時に営まれたものとは考えられない。

建物2の棟方位は建物1と共通する。建物を構成する柱穴の柱間寸法は、東西1.76m・南北1.84mを測り、南北方向が8cm長い。柱穴の掘り方は、楕円形ないし円形を呈する。Pit1・4・5・6の掘り方底面には、扁平な根石が残存している。

ピット6からは、土師器皿が出土している。また、ピット8からは、口縁部を尖り気味におさめ、体部内外面をヘラミガキ調整する13世紀前半の瓦器椀を検出している。

写真19　A地区建物1

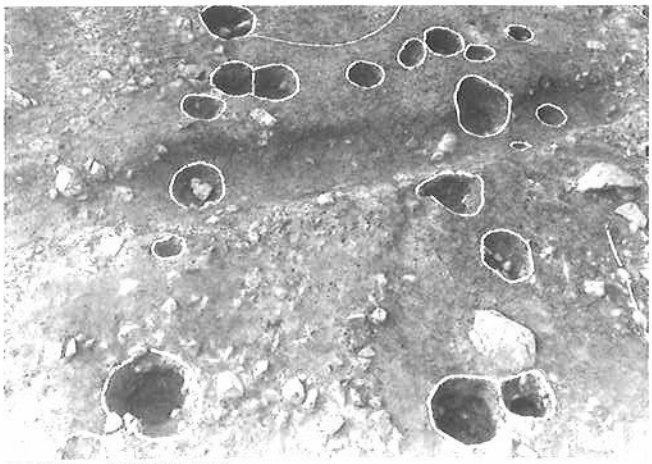


写真20　A地区建物2

土壙1

方形の平面形を呈する土壙1は、A地区中央東寄り部分に位置している。底面は中央部分が周囲よりも凹む。底面の周囲には、人頭大から馬頭大の割り石や自然石を方形に巡らしている。石組みは、1段分残存している。

土壙1からは、15世紀代の底部の凹む土師器皿、口縁部内面に面をもつ形態で体部内面にすり目が残存する瓦器摺り鉢・椀、須恵器、平瓦、丸瓦が出土している。

土壙3

土壙3は、A地区北寄りに位置しており、東西方向を主軸とする。底面は平坦な面を呈する。

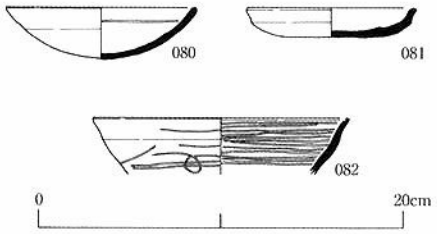


図21　A地区建物1・2出土遺物実測図

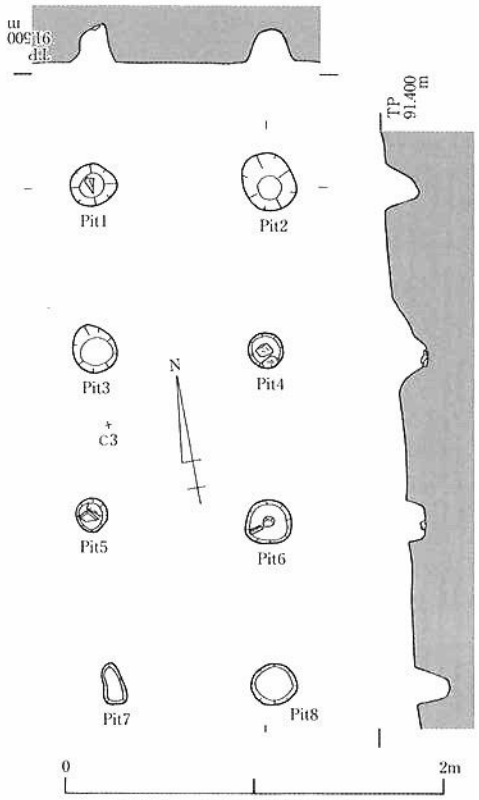


図22　A地区建物2実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 080 21図 出土地点 A地区	建物1 Pit5	瓦器 椀	口径10.4 器高2.8	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 ナデ
報告No. 081 21図 出土地点 A地区	建物2 Pit6	土師器 小皿	口径(9.1) 器高1.6	5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 082 21図 出土地点 A地区	建物2 Pit8	瓦器 椀	口径(13.8) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面

表13　A地区建物1・2出土遺物観察表

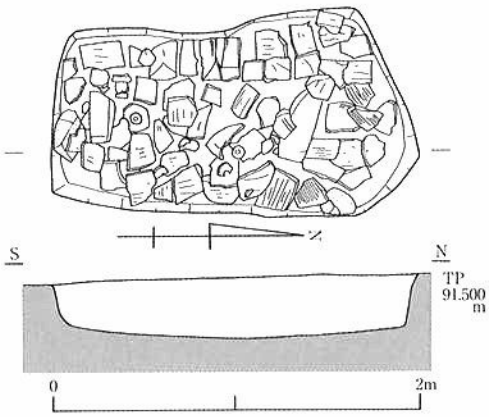


図23　A地区土壙13実測図

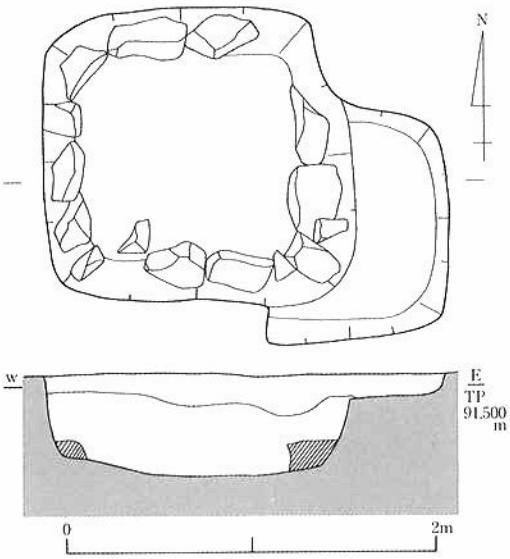


図24　A地区土壙1実測図

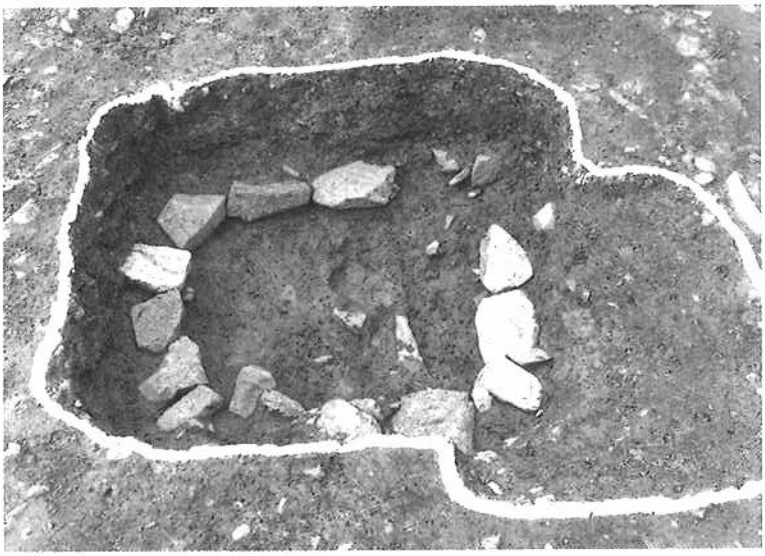


写真21　A地区土壙1完掘状況

土壙内からは、13世紀代の土師器皿・瓦器椀・須恵器片とともに、外面に火を受け黒変した古墳時代の組み合わせ式石棺の端部片が出土している。

土壙4

土壙3の南側に占地する土壙4は、直径2.8mを測る円形の平面形を呈する土壙である。土壙内からは12世紀後半から13世紀前半の土師器皿・釜・瓦器椀・須恵器片が出土している。瓦器椀の口縁部形態には、端部に段をもつものと丸くおさめるものがある。

写真22
A地区土壙13検出状況

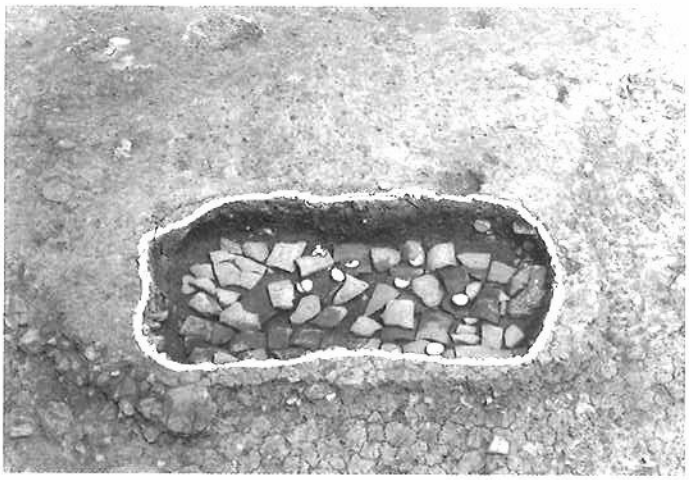


写真23
A地区土壙13検出状況

写真24
A地区土壙13検出状況

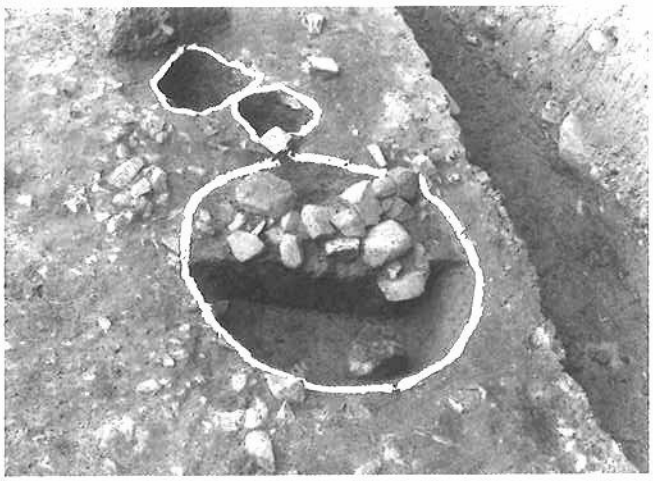


写真25
A地区土壙10断面　遺物検出状況

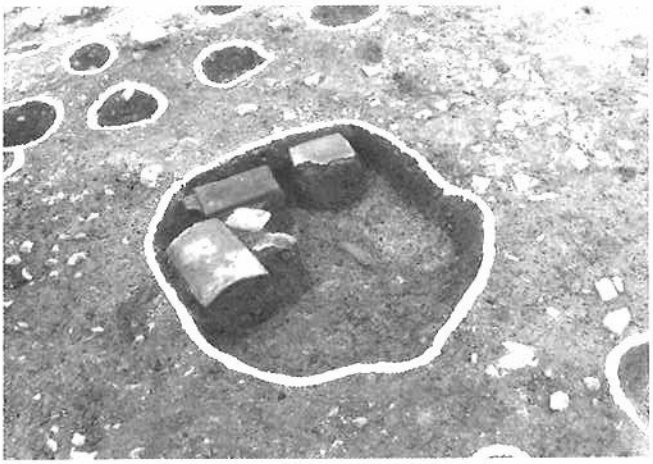


写真26
A地区土壙3遺物出土状況

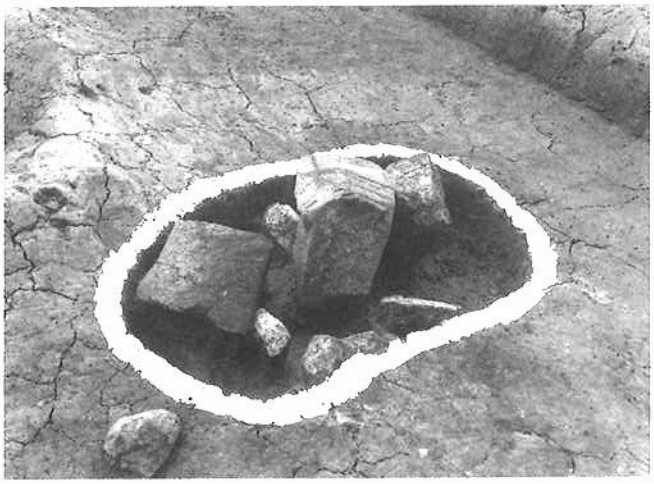


写真27
A地区土壙11遺物検出状況

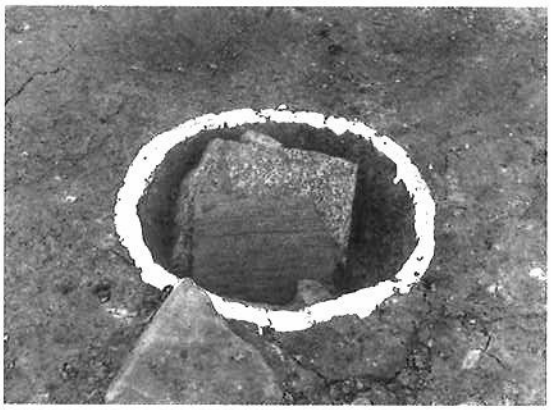


写真28　A地区旧耕土下Pit54検出状況

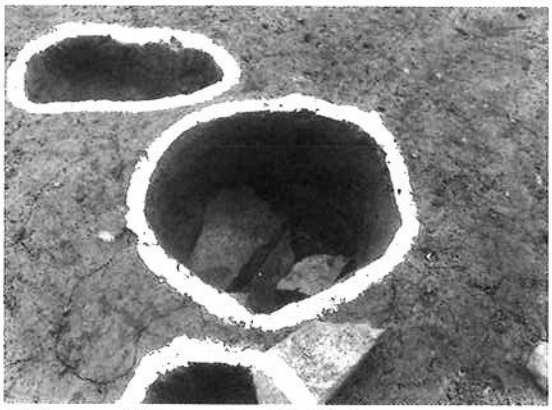


写真29　A地区Pit69根石検出状況

写真30　A地区Pit76根石検出状況

写真31　A地区Pit内柱根検出状況

土壙2

土壙2は、A地区北端にあり、直径1.2mの円形を呈する。土壙内の上層には、拳大から人頭大の自然石・割り石がつまるとともに、土師器皿が出土している。

土壙11

A地区中央にある土壙11は、直径約1.2mを測る。土壙の底は、平坦な面をなす。土壙の埋土内からは、土師器皿・瓦器椀・火舎、平瓦などが出土している。平瓦の凹面には、ユビナデを施して仕上げている。

土壙13

A地区中央に位置する土壙13は、1辺2.2m前後の平面方形を呈する。土壙の底面は、平坦な面をなす。埋土内からは、15世紀の底部の凹む形態の土師器皿が出土している。

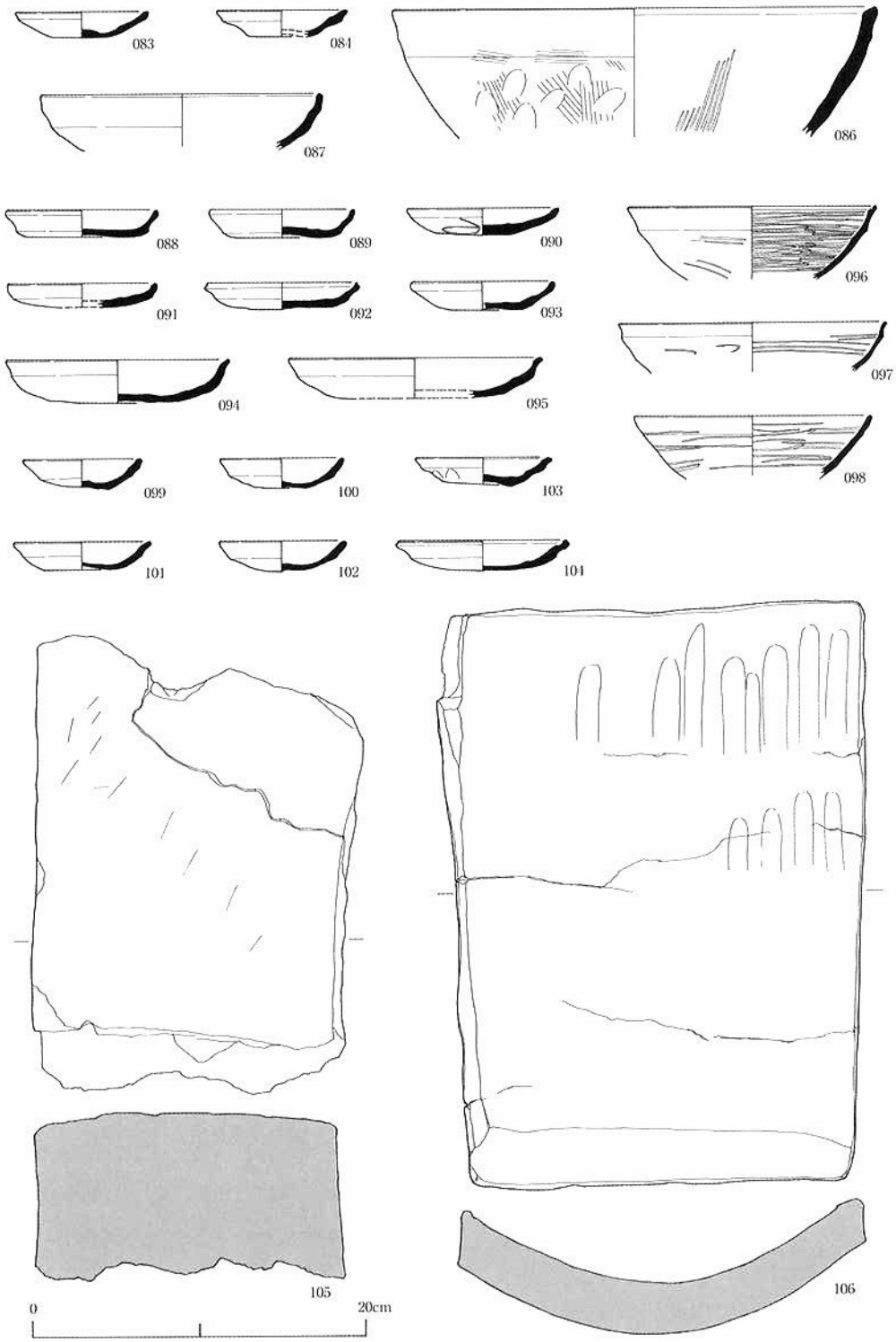


図25　A地区土壙1・2・3・4・11・13・14・23出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 083 25図 出土地点 A地区	土壙1	土師器 小皿	口径(7.8) 器高1.6	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 084 25図 出土地点 A地区	土壙1	土師器 小皿	口径(7.8) 器高1.6	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 086 25図 出土地点 A地区	土壙1	瓦器 すり鉢	口径(29.0) 器高	N3/0暗灰色	口縁部外面 横方向のハケメ後ヨコナデ 体部外面 縦方向のハケメ後ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 スリメ 底部内面
報告No. 087 25図 出土地点 A地区	土壙2	土師器 坏	口径(16.7) 器高	5Y7/2灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 088 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 小皿	口径(9.0) 器高1.6	2.5Y7/3浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 089 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 小皿	口径(8.6) 器高1.7	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 090 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 小皿	口径9.0 器高1.6	10YR6/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 091 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.4	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 092 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 小皿	口径9.0 器高1.6	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表14　A地区土壙1・2・3・4・11・13・14・23出土遺物観察表1/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 093 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 小皿	口径(8.4) 器高1.7	2.5Y7/3浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 094 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 皿	口径(13.1) 器高2.6	10YR7/3にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 095 25図 出土地点 A地区	土壙4	土師器 皿	口径(15.0) 器高2.4	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 096 25図 出土地点 A地区	土壙4	瓦器 椀	口径(14.8) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 097 25図 出土地点 A地区	土壙4	瓦器 椀	口径(16.0) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 098 25図 出土地点 A地区	土壙4	瓦器 椀	口径(14.2) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 099 25図 出土地点 A地区	土壙13	土師器 小皿	口径7.0 器高1.8	10YR7/4にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 100 25図 出土地点 A地区	土壙13	土師器 小皿	口径7.4 器高1.8	10YR7/4にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 101 25図 出土地点 A地区	土壙13	土師器 小皿	口径8.2 器高1.7	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表14　A地区土壙1・2・3・4・11・13・14・23出土遺物観察表2/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 102 25図 出土地点 A地区	土壙13	土師器 小皿	口径7.6 器高1.8	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 103 25図 出土地点 A地区	土壙14	土師器 小皿	口径7.8 器高1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 104 25図 出土地点 A地区	土壙23	土師器 小皿	口径(10.0) 器高1.8	5YR8/3淡橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 105 25図 出土地点 A地区	土壙3	石製品 石棺	口径 器高	10YR8/3 浅黄色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 106 25図 出土地点 A地区	土壙11	瓦 平瓦	口径 器高	7.5YR5/3 にぶい褐色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表14　A地区土壙1・2・3・4・11・13・14・23出土遺物観察表3/3

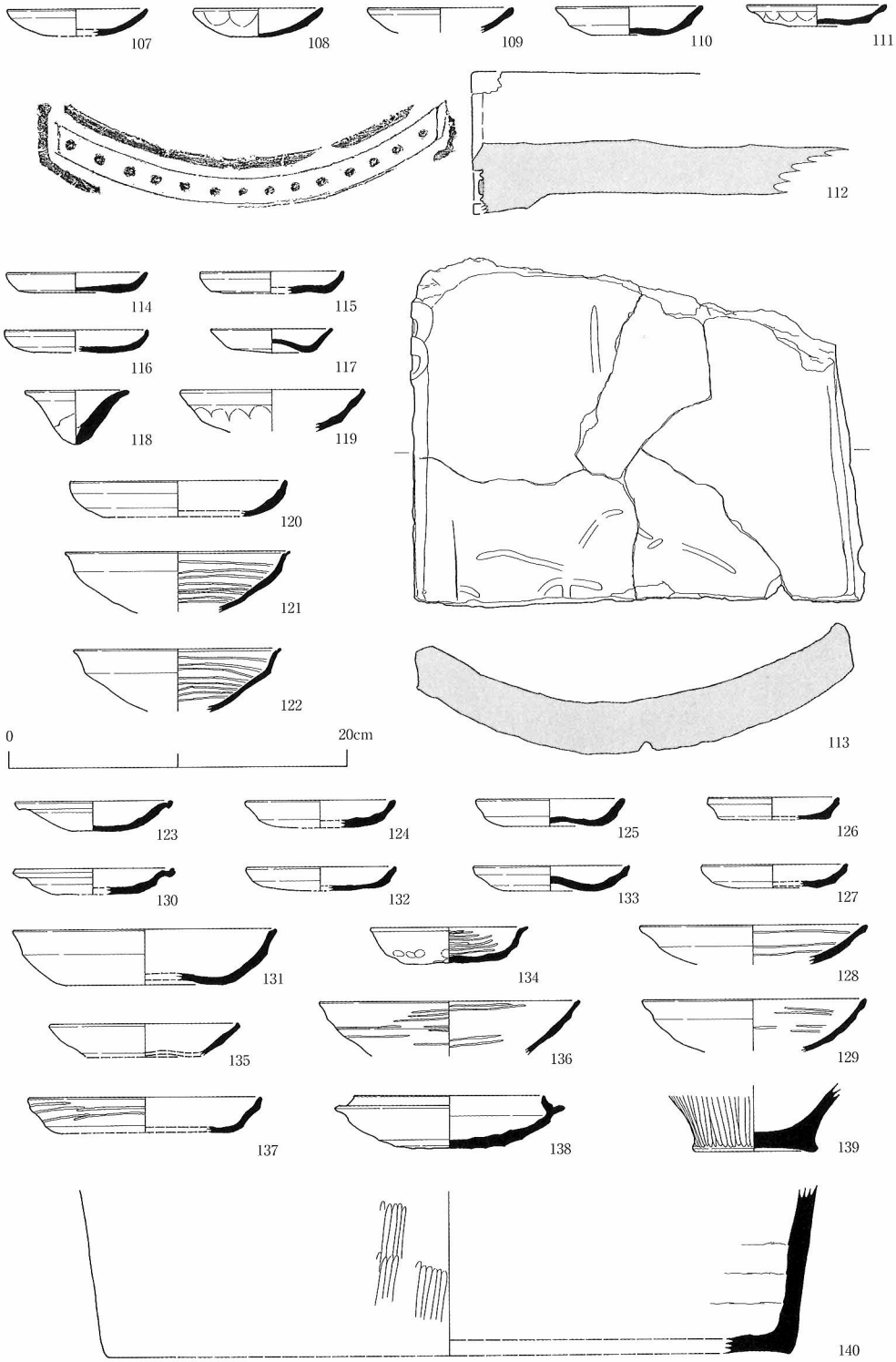


図26　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147・159・6出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 107 26図 出土地点 A地区	墓1	土師器 小皿	口径(8.2) 器高1.6	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 108 26図 出土地点 A地区	墓1	土師器 小皿	口径(7.6) 器高1.7	2.5Y8/3淡黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 109 26図 出土地点 A地区	墓1	土師器 小皿	口径(8.6) 器高	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 110 26図 出土地点 A地区	墓1	土師器 小皿	口径8.6 器高1.7	10YR8/1 灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 111 26図 出土地点 A地区	墓1	土師器 小皿	口径(8.2) 器高1.25	7.5YR7/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 112 26図 出土地点 A地区	墓1	瓦 軒平瓦	口径 器高	N3/0暗灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 113 26図 出土地点 A地区	墓1	瓦 平瓦	口径 器高	N4/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 114 26図 出土地点 A地区	溝1	土師器 小皿	口径(8.2) 器高1.2	2.5YR8/2 浅黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 115 26図 出土地点 A地区	溝1	土師器 小皿	口径8.4 器高1.3	7.5YR6/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表15　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147・159・6出土遺物観察表1/4

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 116 26図 出土地点 A地区	溝1	土師器 小皿	口径(8.4) 器高1.35	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 117 26図 出土地点 A地区	溝1	土師器 小皿	口径7.2 器高1.4	2.5YR8/3 淡黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 118 26図 出土地点 A地区	溝1	土製品 ミニチュア土器	口径6.0 器高3.2	5YR7/4に ぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 119 26図 出土地点 A地区	溝1	土師器 皿	口径(10.8) 器高	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 120 26図 出土地点 A地区	溝1	土師器 皿	口径(12.8) 器高2.1	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 121 26図 出土地点 A地区	溝1	瓦器 椀	口径(13.2) 器高	N3/0暗灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横ヘラ 体部内面 横ヘラ 底部内面
報告No. 122 26図 出土地点 A地区	溝1	瓦器 椀	口径(12.0) 器高	N3/0暗灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横ヘラ 体部内面 横ヘラ 底部内面
報告No. 123 26図 出土地点 A地区	Pit21	土師器 小皿	口径9.2 器高1.8	7.5YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 124 26図 出土地点 A地区	Pit19	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.6	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表15　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147・159・6出土遺物観察表2/4

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 125 26図 出土地点 A地区	Pit69	土師器 小皿	口径(8.6) 器高1.6	10YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 126 26図 出土地点 A地区	Pit60	土師器 小皿	口径(7.6) 器高1.3	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 127 26図 出土地点 A地区	Pit60	土師器 小皿	口径(8.6) 器高1.4	10YR7/3 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 128 26図 出土地点 A地区	Pit60	瓦器 椀	口径(13.2) 器高	N3/0暗灰 色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横ヘラ 体部内面 横ヘラ 底部内面
報告No. 129 26図 出土地点 A地区	Pit60	瓦器 椀	口径(13.0) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横ヘラ 体部内面 横ヘラ 底部内面
報告No. 130 26図 出土地点 A地区	Pit28	土師器 小皿	口径9.4 器高1.5	10YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 131 26図 出土地点 A地区	Pit28	土師器 皿	口径(15.4) 器高3.3	5YR7/4に ぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 132 26図 出土地点 A地区	Pit25	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.4	5YR8/4淡 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 133 26図 出土地点 A地区	Pit25	土師器 小皿	口径(9.2) 器高1.5	5YR6/6橙 色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表15　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147・159・6出土遺物観察表3/4

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 134 26図 出土地点 A地区	Pit27	瓦器 小皿	口径9.3 器高2.2	5B4/1暗青灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 底部内面 ジグザグ状暗文
報告No. 135 26図 出土地点 A地区	Pit147	土師器 皿	口径(11.0) 器高	10YR7/3にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 136 26図 出土地点 A地区	Pit47	瓦器 椀	口径(15.4) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 137 26図 出土地点 A地区	Pit65	土師器 皿	口径(13.6) 器高2.1	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 底部外面 放射線状のヘラミガキ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 138 26図 出土地点 A地区	Pit159	須恵器 坏	口径(11.2) 器高3.1	N7/0灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面 回転ヘラケズリ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ナデ
報告No. 139 26図 出土地点 A地区	Pit159	弥生土器 甕又は壷の底部	口径 器高	5YR5/8明赤褐色	口縁部外面 体部外面 縦方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面 ナデ 底部内面 ナデ
報告No. 140 26図 出土地点 A地区	Pit1	瓦器 火舎	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 縦方向のヘラミガキ 底部外面 ナデ	口縁部内面 体部内面 ナデ 底部内面 ナデ

表15　A地区墓1・溝1・Pit19・21・25・27・28・60・47・65・147・159・6出土遺物観察表4/4

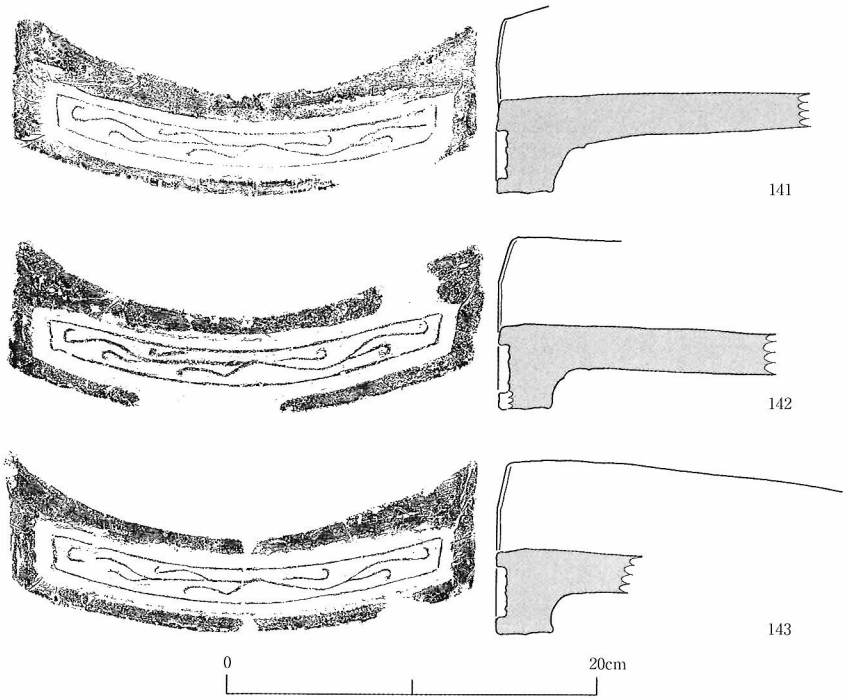


図27　A地区瓦面出土軒瓦実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 141 27図 出土地点 A地区	瓦面	瓦 軒平瓦	口径 器高	5BG6/1青灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 142 27図 出土地点 A地区	瓦面	瓦 軒平瓦	口径 器高	10G6/1緑灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 143 27図 出土地点 A地区	瓦面	瓦 軒平瓦	口径 器高	5BG5/1青灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表16　A地区瓦面出土軒瓦観察表

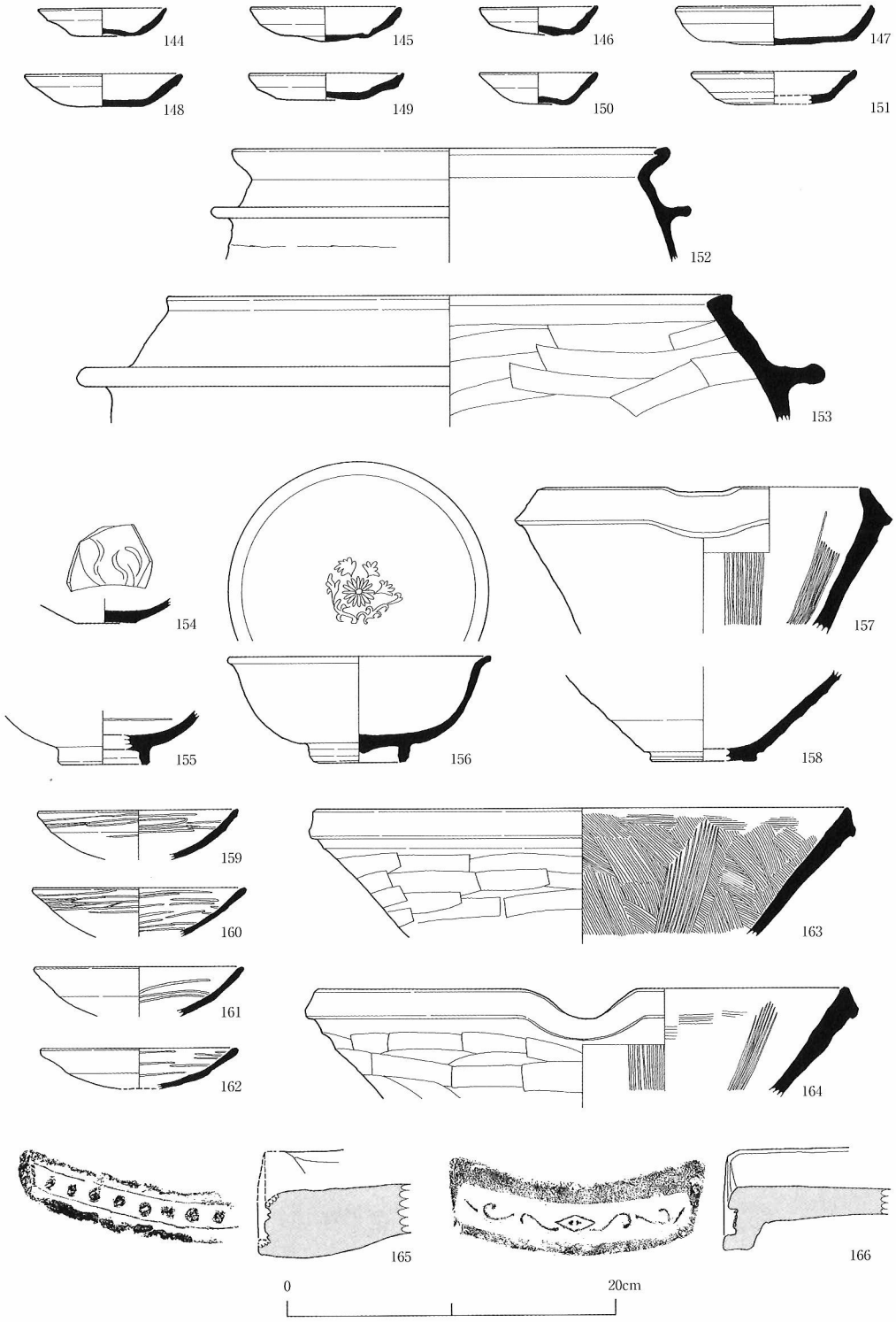


図28　A地区灰褐色シルト出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 144 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 小皿	口径7.9 器高1.7	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 145 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 小皿	口径9.2 器高2.1	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 146 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 小皿	口径7.2 器高1.8	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 147 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 皿	口径12.2 器高2.4	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 148 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 小皿	口径(9.6) 器高2.0	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 149 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 小皿	口径9.4 器高1.6	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 150 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 小皿	口径7.2 器高2.0	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 151 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	陶器 緑釉小皿	口径(9.8) 器高2.0	7.5Y8/2灰白色 釉の色調 7.5Y6/2灰オリーブ色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 回転ヘラケズリ 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面
報告No. 152 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 釜	口径(26.4) 器高	2.5Y8/3淡黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ユビオサエ 底部内面

表17　A地区灰褐色シルト出土遺物観察表1/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 153 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	土師器 釜	口径(34.0) 器高	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラケズリ 底部内面
報告No. 154 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	磁器 白磁椀	口径 器高	7.5Y8/1灰白色 釉の色調 7.5Y7/2灰白色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 155 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	磁器 青磁椀	口径 器高	N7/0灰色 釉の色調 5G7/1灰白色	口縁部外面 体部外面 回転ヘラケズリ 底部外面 ヘラケズリ	口縁部内面 体部内面 ヨコナデ 底部内面
報告No. 156 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	磁器 青磁椀	口径(15.6) 器高6.5	7.5Y8/1灰白色 釉の色調 10GY7/1明緑灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 回転ヘラケズリ 底部外面 回転ヘラケズリ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 157 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	陶器 すり鉢	口径(19.2) 器高	7.5R4/3にぶい赤褐色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 スリメ 底部内面
報告No. 158 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	陶器 古瀬戸椀	口径 器高	2.5Y7/2灰黄色 釉の色調 7.5Y6/3オリーブ黄色	口縁部外面 体部外面 回転ヘラケズリ 底部外面 回転ヘラケズリ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 159 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦器 椀	口径(12.0) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 160 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦器 椀	口径(12.8) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 161 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦器 椀	口径(12.6) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面

表17　A地区灰褐色シルト出土遺物観察表2/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 162 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦器 椀	口径(11.8) 器高2.5	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 163 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦器 すり鉢	口径(32.2) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 横方向のヘラケズリ 底部外面	口縁部内面 横方向のハケメ 体部内面 左上がりのハケメ後スリメ 底部内面
報告No. 164 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦器 すり鉢	口径(32.0) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 横方向のヘラケズリ 底部外面	口縁部内面 横方向のハケメ 体部内面 スリメ 底部内面
報告No. 165 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦 軒平瓦	口径 器高	2.5GY6/1 オリーブ灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 166 28図 出土地点 A地区	灰褐色シルト	瓦 軒平瓦	口径 器高	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表17　A地区灰褐色シルト出土遺物観察表3/3

墓1

A地区の中央部に位置する墓1は、隅丸方形の平面形を呈し、南北方向に主軸をおく。平坦な土壙の底面には、全面に平瓦・丸瓦・連珠文軒平瓦の破片の凸面を上に向けて敷きつめている。瓦の上面には、口縁部を上に向けた状態の8点の土師器皿が出土している。土師器は、体部外面にユビオサエ痕を残す特徴から15世紀代と推定できる。連珠文軒平瓦は、段顎で界線内に14の珠文を配している。平瓦のなかには、凹面にヘラ状工具で施文したものがある。土壙内からは、人骨片や焼土・炭を検出していない。

溝1

A地区の中央部分に南北方向にのびる溝1には拳大の礫を平行にならべ、その上部に蓋石をかぶせ石組暗渠を築いている。溝1の埋土には、13世紀から15世紀代の土師器・瓦器が含まれる。溝2・3・5は溝1と直交し、東西方向をとる。

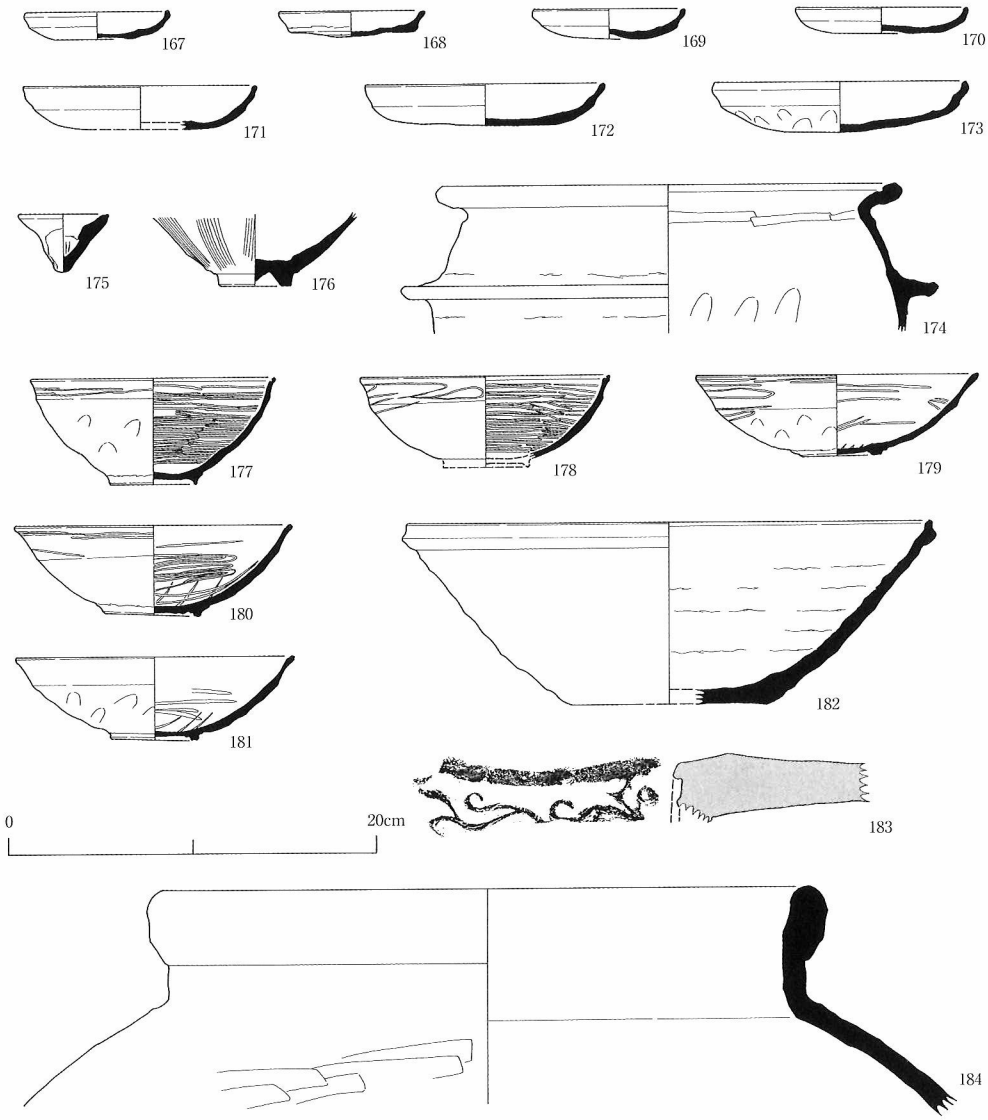


図29　A地区整地層5出土遺物実測図

溝1からは、土師器皿・托・ミニチュア釜、瓦器椀、須恵器壺、青磁椀、平瓦・丸瓦の瓦類が出土している。これらのうち、瓦器椀の口縁端部には、段をもつものが含まれる。また、土師器皿には、底面の凹む形態を呈するものも検出している。これらの特徴から溝1の埋土内には、13世紀から15世紀代の遺物が含まれている。

Pit

PitはA地区北寄りに分布するのに対して、中央から南寄り部分からは未検出である。

Pitは直径20～40cmで、底面に根石を据え付けたものや柱根の残存するものがある。Pitか

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 167 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 小皿	口径7.7 器高1.5	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 168 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 小皿	口径(7.8) 器高1.4	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 169 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 小皿	口径8.2 器高1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 170 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 小皿	口径(9.2) 器高1.5	7.5YR6/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 171 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 皿	口径(12.6) 器高2.4	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 172 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 皿	口径13.0 器高2.3	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 173 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 皿	口径13.6 器高2.8	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 174 29図 出土地点 A地区	整地層5	土師器 釜	口径(24.6) 器高	5YR6/4に ぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヘラケズリ後ナデ ユビオサエ 底部内面
報告No. 175 29図 出土地点 A地区	整地層5	土製品 ミニチュア土器	口径4.8 器高3.2	5YR6/6橙色	口縁部外面 ナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ナデ 体部内面 底部内面 シボリメ

表18　A地区整地層5出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 176 29図 出土地点 A地区	整地層5	磁器 青磁椀	口径 器高	7.5Y7/1灰白色 釉の色調 7.5Y6/3オリーブ黄色	口縁部外面 体部外面 ヘラケズリ後縦方向のハケメ 底部外面 ヘラケズリ	口縁部内面 体部内面 ナデ 底部内面 ナデ
報告No. 177 29図 出土地点 A地区	整地層5	瓦器 椀	口径(13.2) 器高5.8	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 ナデ
報告No. 178 29図 出土地点 A地区	整地層5	瓦器 椀	口径13.4 器高4.5	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 179 29図 出土地点 A地区	整地層5	瓦器 椀	口径15.2 器高4.5	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 180 29図 出土地点 A地区	整地層5	瓦器 椀	口径15.0 器高5.0	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 181 29図 出土地点 A地区	整地層5	瓦器 椀	口径15.0 器高4.6	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 182 29図 出土地点 A地区	整地層5	須恵器 鉢	口径28.2 器高10.0	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ナデ
報告No. 183 29図 出土地点 A地区	整地層5	瓦 軒平瓦	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 184 29図 出土地点 A地区	整地層5	陶器 甕	口径(35.2) 器高	10R5/4赤褐色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヘラケズリ後ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面

表18　A地区整地層5出土遺物観察表2/2

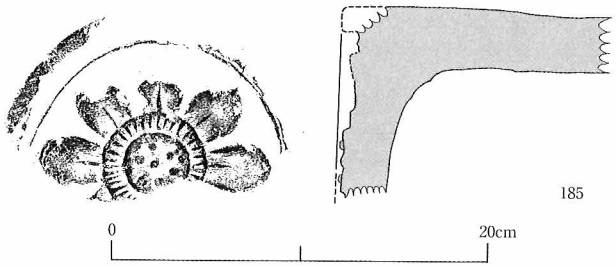


図30　A地区サブトレンチ出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 185 30図 出土地点 A地区	サブトレンチ	瓦 軒平瓦	口径 器高	10Y7/1灰白色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表19　A地区サブトレンチ出土遺物観察表

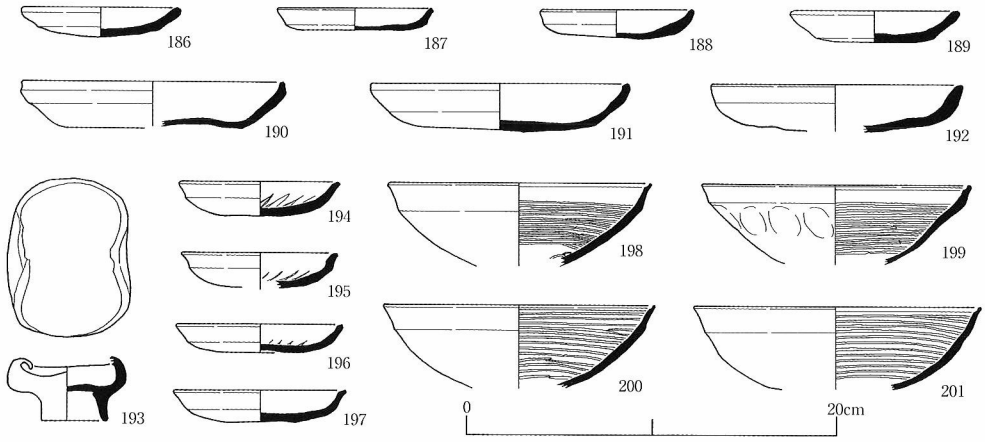


図31　A地区土器集積部分出土遺物実測図

らの出土遺物には、弥生土器から14世紀の土師器・瓦器がある。

石垣の築造に伴う整地層からの出土遺物については、既述した。以下では、A地区の他の堆積層から出土している遺物を図示しておく。

瓦面出土遺物

A地区の南端部分、後述するB地区の瓦面と連続する部分から出土している遺物である。

出土遺物は、平瓦・丸瓦・軒丸瓦・軒平瓦などの瓦類がある。軒平瓦は同文の均整唐草文瓦のみである。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 186 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 小皿	口径(8.4) 器高1.6	7.5YRR7/4にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 187 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 小皿	口径8.2 器高1.2	10YR8/3浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 188 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 小皿	口径8.1 器高1.55	10YR7/3にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 189 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 小皿	口径(9.0) 器高1.7	2.5Y8/2灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 190 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 皿	口径(14.0) 器高2.5	5Y8/2灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 191 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 皿	口径13.8 器高2.6	10YR7/4にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 192 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 皿	口径(13.4) 器高2.5	7.5Y8/3浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 193 31図 出土地点 A地区	土器集積	土師器 托（はし置き）	口径 器高		口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 194 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 小皿	口径8.4 器高1.85	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表20　A地区土器集積部分出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 195 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 小皿	口径8.2 器高1.9	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 196 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 小皿	口径8.8 器高1.55	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 197 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 小皿	口径9.2 器高1.7	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 198 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 椀	口径(14.2) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 199 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 椀	口径(14.4) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 200 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 椀	口径(14.6) 器高	N5/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 201 31図 出土地点 A地区	土器集積	瓦器 椀	口径(15.4) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面

表20　A地区土器集積部分出土遺物観察表2/2

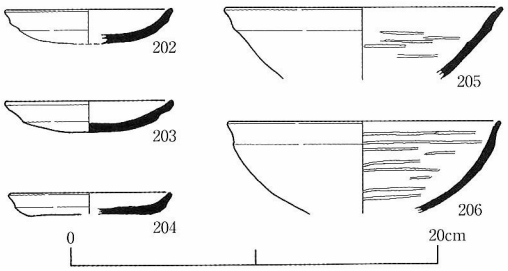


図32　A地区黒褐色シルト出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 202 32図 出土地点 A地区	黒褐色シルト	土師器 小皿	口径(9.0) 器高1.9	10YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 203 32図 出土地点 A地区	黒褐色シルト	土師器 小皿	口径(9.0) 器高1.8	2.5Y8/2灰白色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 204 32図 出土地点 A地区	黒褐色シルト	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.2	7.5YR7/3 にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 205 32図 出土地点 A地区	黒褐色シルト	瓦器 椀	口径(15.0) 器高	6/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 206 32図 出土地点 A地区	黒褐色シルト	瓦器 椀	口径(14.9) 器高	5/0灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面

表21　A地区黒褐色シルト出土遺物観察表

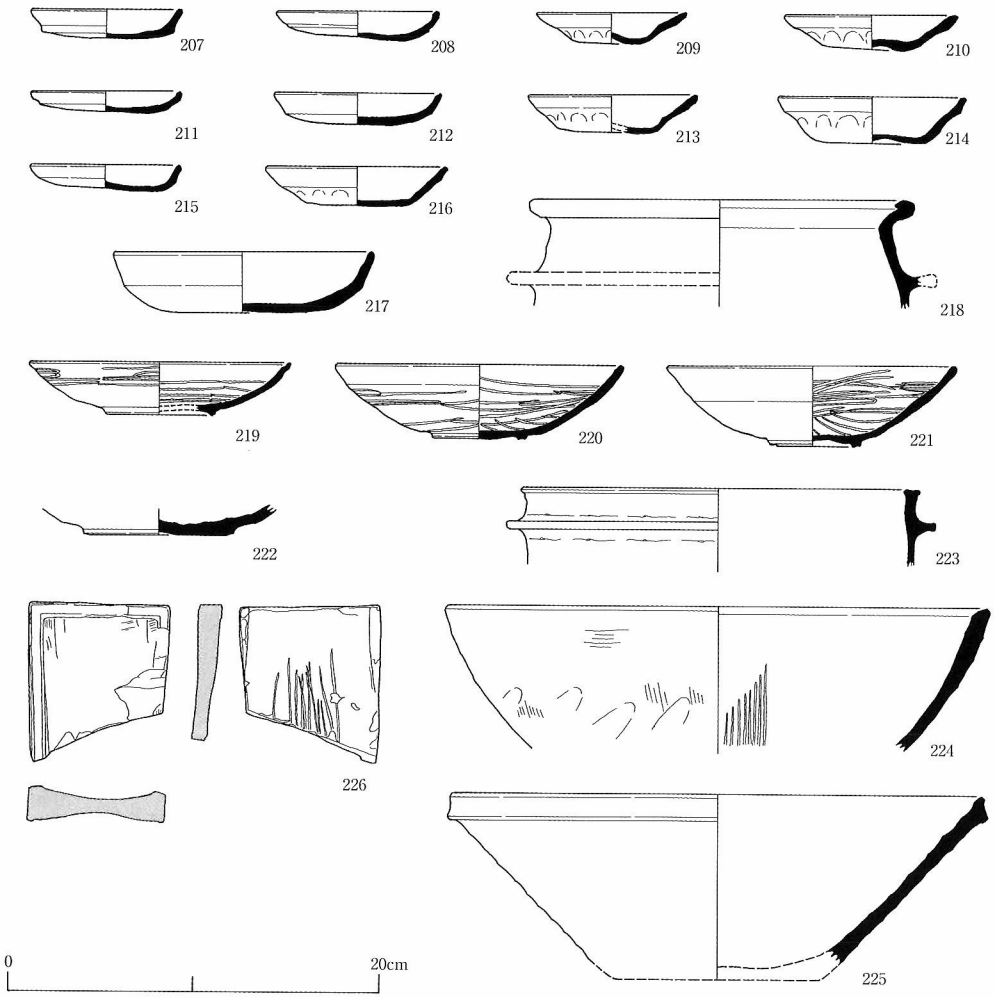


図33　A地区灰色砂まじりシルト出土遺物実測図

灰褐色シルト出土遺物

A地区の中央から南寄り部分の西側に堆積する土層からの出土遺物である。

出土遺物には、13世紀後半から15世紀代の土師器皿・釜、瓦器椀・すり鉢、陶器椀・すり鉢、磁器椀、緑釉陶器皿、連珠文軒平瓦・唐草文軒平瓦がある。このうち土師器釜は、口縁部が外反し、端部を内側に巻き込むものと内傾する口縁部の端部を丸く肥厚させるものがある。口縁部を丸くおさめる瓦器椀は、底部を丸く仕上げ、高台を欠いている。すり鉢は、口縁端部を尖り気味に仕上げ、体部外面を横方向にヘラケズリ調整している。青磁・白磁の椀は、底部を削り出したものである。軒平瓦には、曲線顎で界線内に珠文を配するものと、段顎で均整唐草文を施すものを検出している。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 207 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径8.0 器高1.6	7.5YR6/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 208 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径8.6 器高1.6	5YR8/3淡橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 209 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径8.6 器高1.7	5YR5/6明赤褐色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 210 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径9.2 器高1.9	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 211 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径8.0 器高1.2	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 212 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径(9.0) 器高1.7	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 213 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径9.2 器高2.1	7.5YR7/4 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 214 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径(10.0) 器高2.5	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 215 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径8.0 器高1.4	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表22　A地区灰色砂まじりシルト出土遺物観察表1/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 216 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 小皿	口径9.8 器高2.1	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 217 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 坏	口径(13.8) 器高2.3	5YR7/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 218 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	土師器 釜	口径(20.0) 器高	10YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 219 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	瓦器 椀	口径(14.0) 器高2.8	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部外面 ナデ後横方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 ナデ
報告No. 220 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	瓦器 椀	口径(15.4) 器高4.0	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ後横方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 221 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	瓦器 椀	口径15.4 器高4.3	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 222 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	須恵器 甕又は壺	口径 器高	N6/0灰色	口縁部外面 体部外面 ヨコナデ 底部外面 糸切り	口縁部内面 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ヨコナデ
報告No. 223 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	瓦器 釜	口径(21.8) 器高	N7/0灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 224 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	瓦器 すり鉢	口径(29.0) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 横方向のハケメ後ヨコナデ 体部外面 横方向のハケメ後ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 スリメ 底部内面

表22　A地区灰色砂まじりシルト出土遺物観察表2/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 225 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	須恵器 鉢	口径(28.4) 器高	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 226 33図 出土地点 A地区	灰色砂まじりシルト	石製品 硯	口径 器高	N4/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表22　A地区灰色砂まじりシルト出土遺物観察表3/3

整地層5出土遺物

A地区の北寄りに堆積する整地層からの出土遺物である。整地層5からは、12世紀から13世紀中頃の土師器皿・釜・ミニチュア土器、瓦器椀、磁器椀、須恵器鉢、陶器甕、唐草文軒平瓦などが出土している。

これらのうち、土師器釜は、口縁部が外反し端部を丸くおさめる形態を呈している。ミニチュア土器は、底部の尖がる甕の形態を呈し、ミニチュア竈と組み合せになるものである。瓦器椀は、口縁端部に段を形成し、底部に断面三角形の高台を貼り付けるものと、口縁端部を丸くおさめ、底部に三角形の断面形を呈する高台のつくものがある。須恵器鉢は、平底の底部に、口縁端部を三角状につまみ上がる形態をとる。唐草文軒平瓦は段顎を呈する。土師器ミニチュア甕は、体部外面下半をユビオサエして底部を尖らせている。陶器甕は直立する口縁部を端部で折りかえし、丸くおさえる。

サブトレンチ出土遺物

サブトレンチから出土している軒丸瓦は、先端に丸みのある8弁の蓮弁の中央に1つ子葉をもつ。中房には中央に1、周囲に6この蓮子を配する。

土器集積部分出土遺物

A地区中央北寄り部分の平坦面で13世紀前半の土師器皿・托、瓦器皿・椀の集積している部分から出土した遺物である。これらの遺物は、ほとんどが完形に復原できることや集積状況から検出できなかった遺構内の遺物とも推定できる。瓦器皿には、口縁端部内側に面をもち、見込み部分にジグザグ状ないし平行線状の暗文を加えるものがある。瓦器椀は、口縁端部に段をもっている。土師器托は、口縁部の2ヶ所を上方につまみ上げて変形させている。

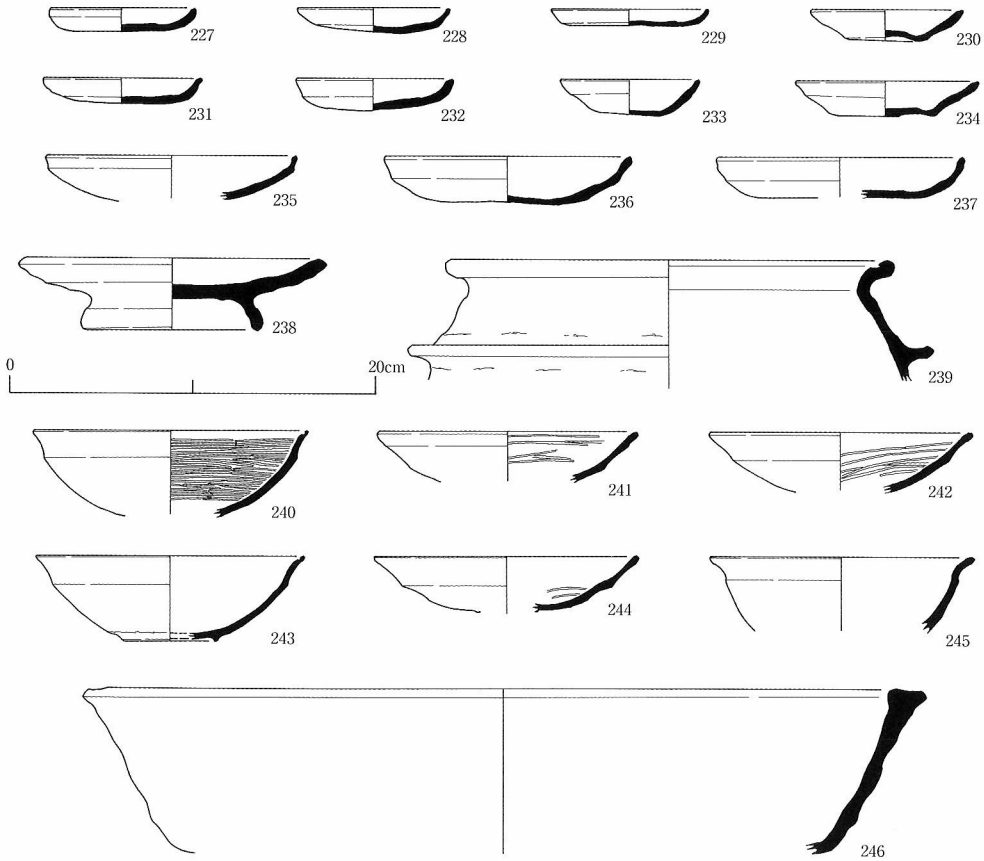


図34　A地区整地層6出土遺物実測図

黒褐色シルト出土遺物

本層からは、13世紀後半の土師器皿・瓦器椀が出土している。瓦器椀の口縁端部は丸くおさめて仕上げている。

灰色砂まじりシルト出土遺物

A地区の中央から南寄り部分、灰褐色シルト層の下部に堆積する本層には、15世紀から13世紀中頃の土師器皿・杯、瓦器椀・釜・すり鉢、須恵器鉢のほか石製硯などが含まれている。土師器皿の体部外面には、ユビオサエ痕の残存するものがある。釜は口縁部が外反し、端部を丸くおさめる。瓦器椀は、口縁端部に段をもち、底部に三角形状の断面形の高台を貼り付けるものと口縁端部を丸く仕上げ、底部に断面台形を呈する高台をもつものがある。瓦器釜は、口縁部が直立し、端部に面を構成する。すり鉢の口縁端部は、内傾する面をもつ。須恵器鉢は、平底の底部に口縁端部を上方に三角形状につまみ上げる形態をとる。方形の石製硯は、両面を研面としている。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 227 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径8.0 器高1.3	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 228 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径8.2 器高1.4	10YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 229 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径8.6 器高0.9	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 230 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径8.3 器高1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 231 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径8.7 器高1.4	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 232 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径8.6 器高1.7	7.5YR6/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 233 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径7.6 器高2.0	10YR8/2 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 234 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 小皿	口径10.0 器高1.9	10YR6/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 235 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 皿	口径13.6 器高2.4	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表23　A地区整地層6出土遺物観察表1/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 236 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 皿	口径13.4 器高2.6	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 237 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 皿	口径13.2 器高2.25	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 238 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 托	口径16.0 器高3.9	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ナデ
報告No. 239 34図 出土地点 A地区	整地層6	土師器 釜	口径(23.6) 器高	2.5Y8/3淡 黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 240 34図 出土地点 A地区	整地層6	瓦器 椀	口径(14.8) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 241 34図 出土地点 A地区	整地層6	瓦器 椀	口径(14.0) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 242 34図 出土地点 A地区	整地層6	瓦器 椀	口径(14.2) 器高	N4/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 一定方向の暗文
報告No. 243 34図 出土地点 A地区	整地層6	瓦器 椀	口径(14.5) 器高4.6	N6/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ナデ
報告No. 244 34図 出土地点 A地区	整地層6	瓦器 椀	口径(14.2) 器高3.0	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面

表23　A地区整地層6出土遺物観察表2/3

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 245 34図 出土地点 A地区	整地層6	磁器 青磁椀	口径(14.2) 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 246 34図 出土地点 A地区	整地層6	瓦器 火鉢	口径(42.7) 器高	7.5Y5/1灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　横方向のヘラミガキ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　横方向のヘラミガキ 底部内面

表23　A地区整地層6出土遺物観察表3/3

整地層6出土遺物

A地区の北寄り部分に堆積する整地層6からは、12世紀末から14世紀の土師器皿・托・釜、瓦器椀・火鉢、磁器椀が出土している。土師器托は、脚径が大きく低い。釜は、口縁部が外反し、端部を丸くおさめて仕上げている。瓦器椀は、口縁端部に段をもつものと口縁端部を丸くおさめ、底部に断面三角形を呈する低い高台を貼り付けるものがある。火鉢は、平底の底部から外反する体部につづく。口縁部は端部に面をもち、肥厚する。

2) B地区

B地区は前述したA地区の南側、後述するD地区の北側に位置している。

層序

B地区の中央部分に南北方向に設定した土層断面を図35に示す。

1層から3層は、石垣2・4・7の上部に堆積する土層で、B地区の中央から北寄り部分に分布している。調査では、整地層1として掘削している。4・5層は、石垣2を削平する際の堆積層の南側に分布しており、整地層2として遺物を取り上げている。6層は、石垣4の南側に広がる土層で、石垣4の削平時の土層である。7・8層は石垣4のうらごめ土である。9層から12層には、多量の瓦類が含まれている。前述した石垣2・4・7は、場所によって9層から12層を切り込んで築造している。このため、9層から12層は、残存しない部分もみられるがB地区全域にひろがっている。13層から15層は石垣2・4・7の下面に堆積する土層で、一括して暗黄褐色シルト層として掘削している。

遺構と遺物

B地区では、石垣3列・掘立柱建物1棟・礎石建物1棟・柱穴・溝・土壙などの遺構を確認している。

石垣をのぞく遺構は、15層下部に堆積する地山上面で検出しているが、調査区中央に南北方向に設定した断面観察では、15層上面から切り込んでいるものも確認している。

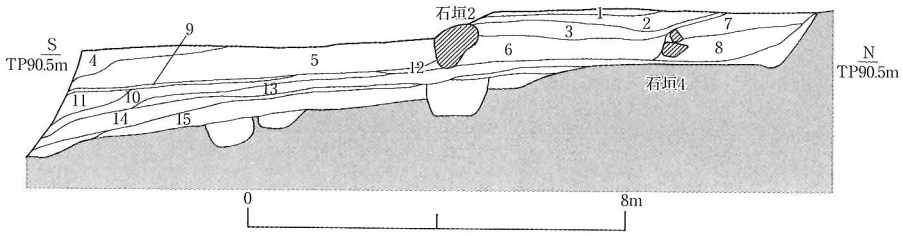


図35　B地区南北断面図

1　10YR6/8明黄褐色シルト（1cm～拳大の礫を含む）
2　10YR3/2黒褐色シルト（1～5cmの礫・炭・焼土を含む）
3　10YR6/8明黄褐色シルト（炭を含む）
4　10YR5/2灰黄褐色シルト
5　10YR5/6黄褐色シルト（5mm～拳大の礫を含む）
6　石垣2うらごめ　7.5YR5/6明灰色シルト（5mm～拳大の礫・地山ブロックを含む）
7　石垣4うらごめ　2.5Y3/2黒褐色シルト（1cm～拳大の礫を含む）
8　石垣4うらごめ　2.5Y3/2黒褐色シルト（拳大～馬頭大の礫を含む）
9　瓦面　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（5mm～拳大の礫・炭を含む）
10　瓦面　2.5Y4/2暗灰黄色シルト（拳大～人頭大の礫を含む）
11　瓦面　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山ブロック・拳大の礫を含む）
12　瓦面　10YR3/2黒褐色シルト（拳大の礫を含む）
13　暗黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルト
14　暗黄褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルト（地山ブロック・炭を含む）
15　暗黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルト（5mm～拳大の礫を含む）

写真32　B地区南北断面

石垣2

B地区の北寄り部分の1層下部で検出した石垣2はL字形を呈する。本石垣は、10層を切り込んで13層をベースに築造している。石垣の残存規模は、東西9.3m・南北2.4m・高さ25～70cm測る。石垣の東西方向は、基準ラインに対して、17°傾く。

石垣には、拳大から1m程度の割り石や自然石を用いている。保存状態の良好な部分では、

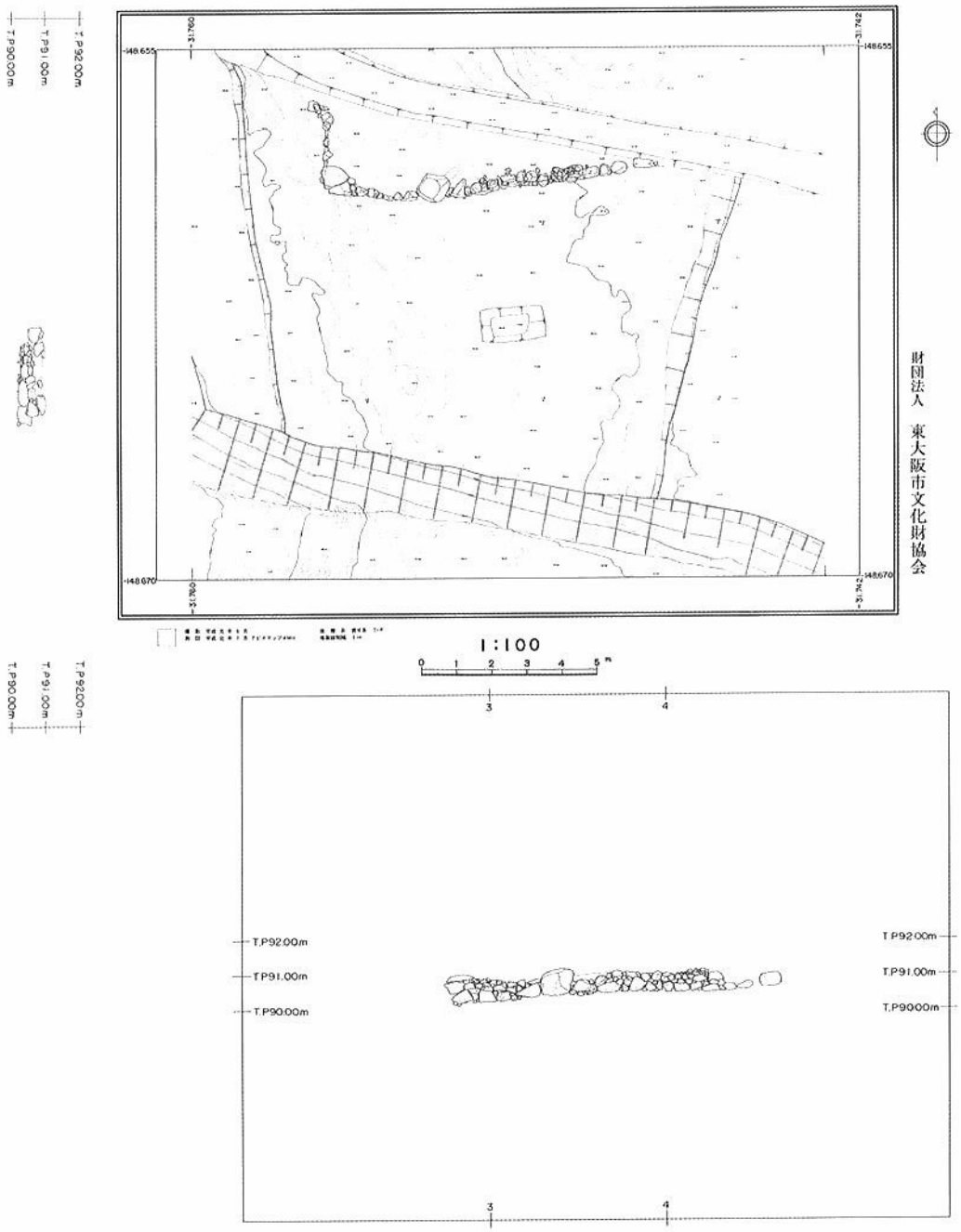


図36　B地区石垣2実測図

4段分残存している。石材は、基底石に幅50～70cmを測る石を横置し、さらにその上部に小型の石を据え付けている。またコーナー部分には大型の石を用いている。

写真33　B地区石垣2全景

写真34　B地区石垣2南側石列

写真35　B地区石垣2西側石列

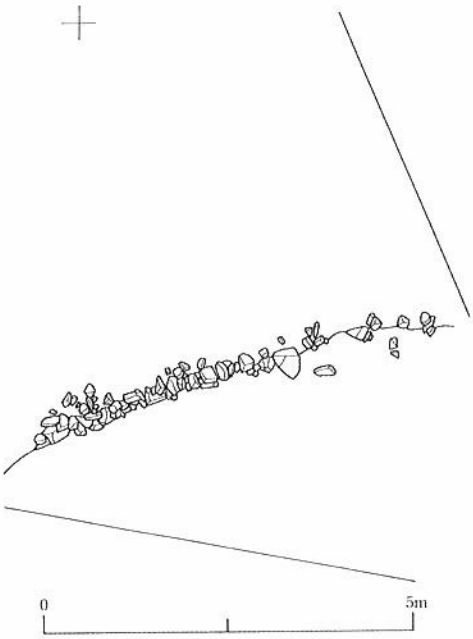


図37　B地区石垣4平面図

写真36　B地区石垣4全景

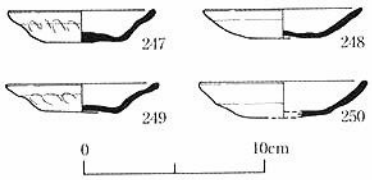


図38　B地区石垣4うらごめ出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 247 38図 出土地点 B地区	石垣4うらごめ	土師器 小皿	口径7.9 器高1.7	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 248 38図 出土地点 B地区	石垣4うらごめ	土師器 小皿	口径(8.7) 器高1.65	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 249 38図 出土地点 B地区	石垣4うらごめ	土師器 小皿	口径8.2 器高1.6	7.5YR7/6 橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 250 38図 出土地点 B地区	石垣4うらごめ	土師器 小皿	口径(9.1) 器高2.0	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ

表24　B地区石垣4うらごめ出土遺物観察表

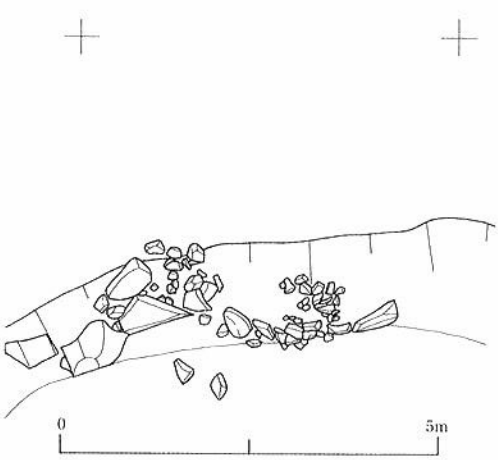


図39　B地区石垣7平面図

写真37　B地区石垣7全景

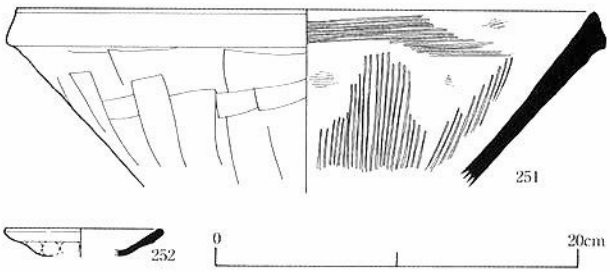


図40　B地区石垣7うらごめ出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 251 40図 出土地点 B地区	石垣7うらごめ	瓦器 すり鉢	口径(31.6) 器高	7.5Y6/1灰色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ヘラケズリ 底部外面	口縁部内面 横方向のハケメ 体部内面　スリメ 底部内面
報告No. 252 40図 出土地点 B地区	石垣7うらごめ	土師器 小皿	口径(8.8) 器高1.5	7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ

表25　B地区石垣7うらごめ出土遺物観察表

石垣4

B地区北寄り部分に位置する石垣4は、3層下部で検出している。石垣4の方位は、前述した石垣2と同一方向をとる。石垣4は、東西5.6m・高さ20～70cm残存し、人頭大から馬頭大ほどの自然石や割り石を横向きに積み上げている。このうち基底石には、大型の石材を使用し、

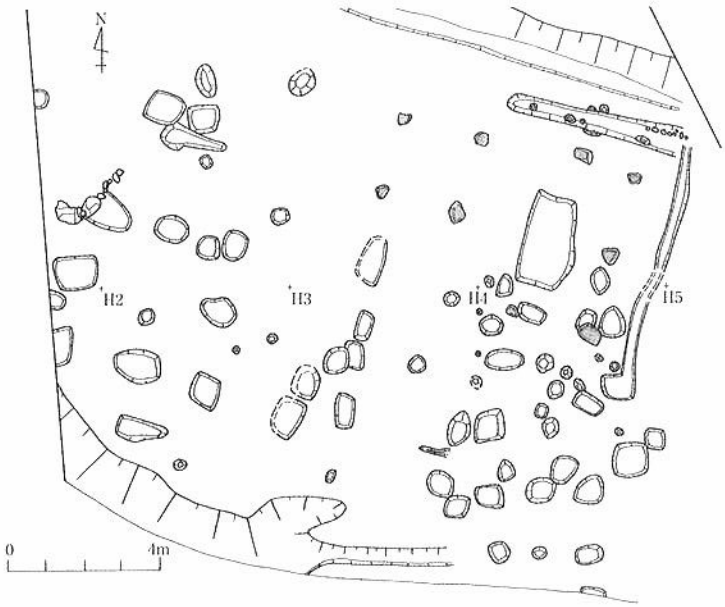


図41　B地区遺構平面図

写真38　B地区全景

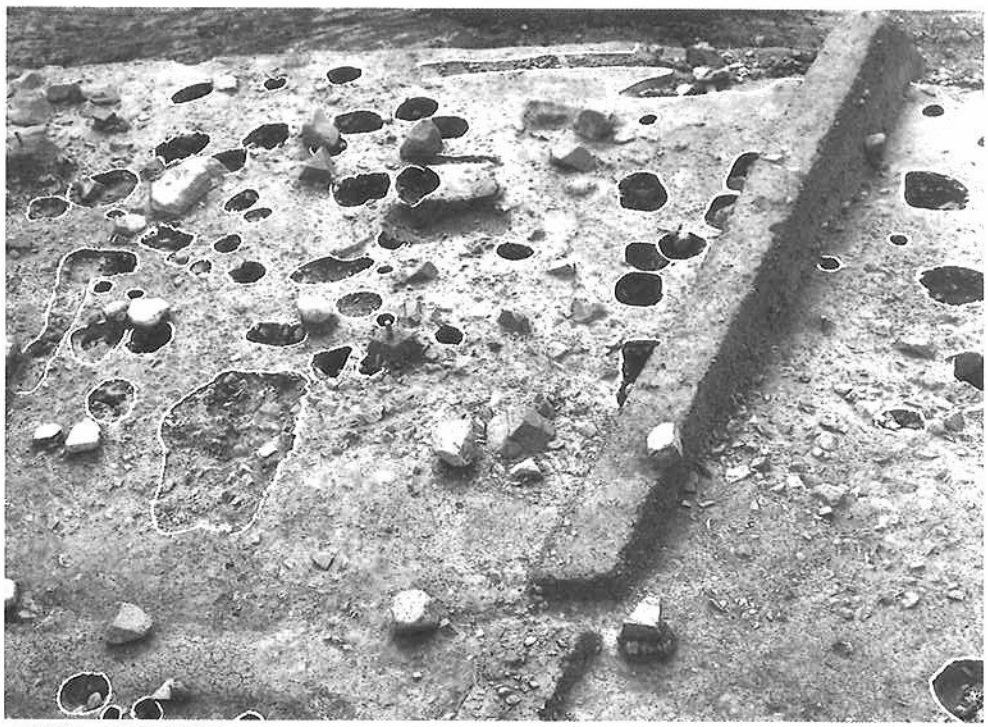


写真39　B地区全景

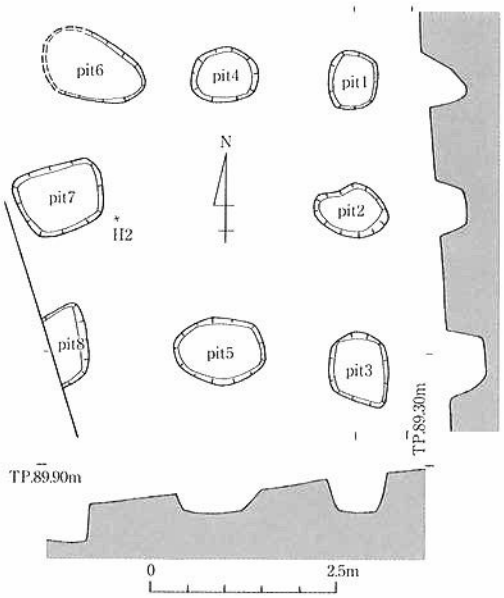


図42　B地区建物3平面図

上部には小型の石を用いている。

本石垣の南側に堆積する6層から出土している遺物には、13世紀から15世紀代の遺物を含んでいる。石垣4のうらごめ土からは、土師器皿が出土している。土師器皿には、体部外面下半にユビオサエ痕をとどめるものがある。

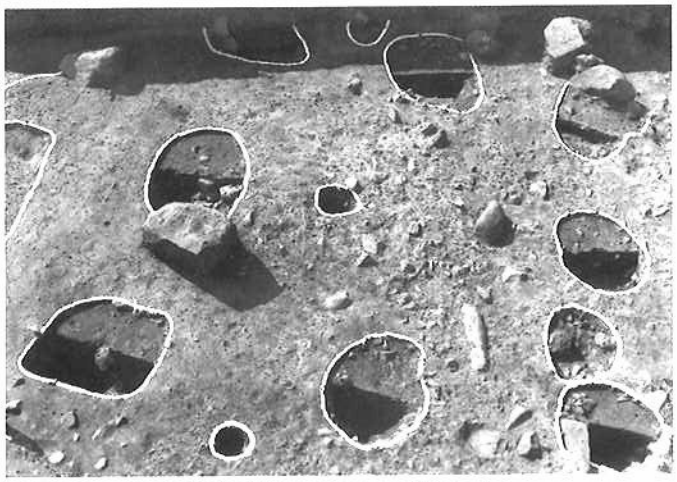


写真40　B地区建物3全景

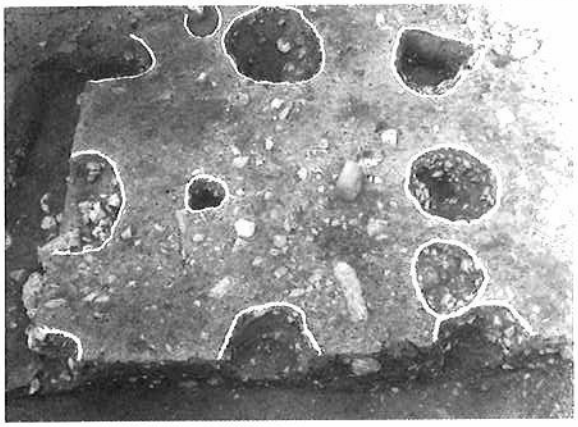


写真41　B地区建物3立ち割状況

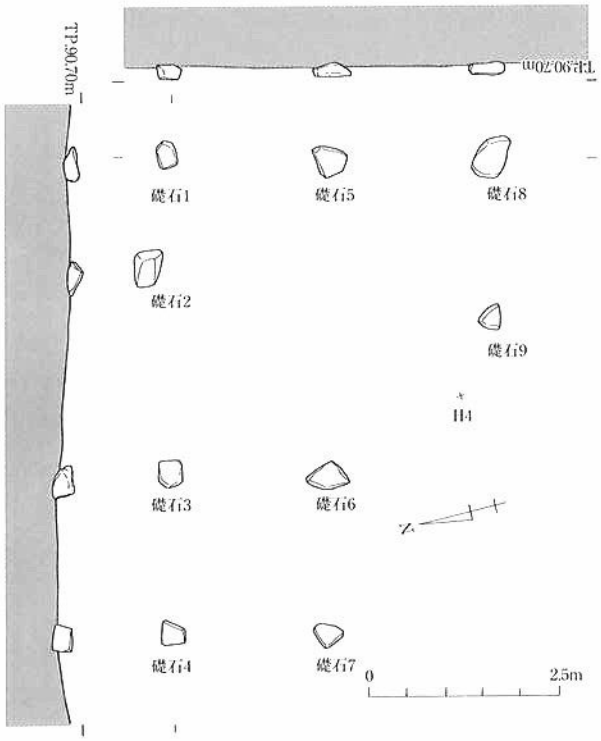


図43　B地区建物4平面図

写真42　B地区建物4検出状況

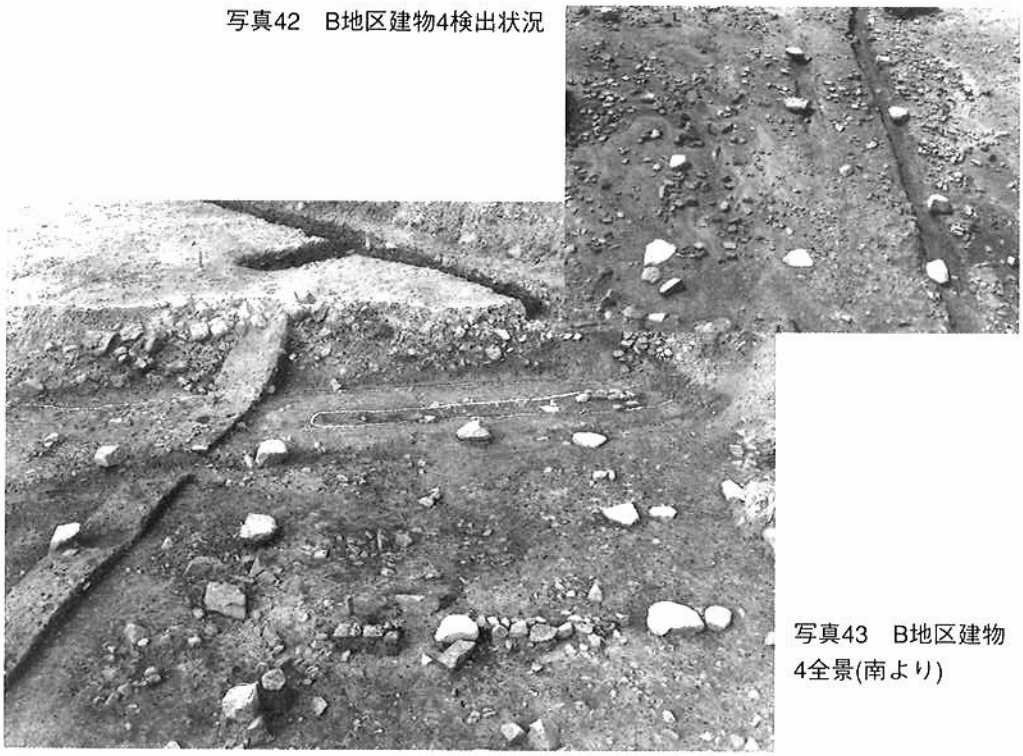
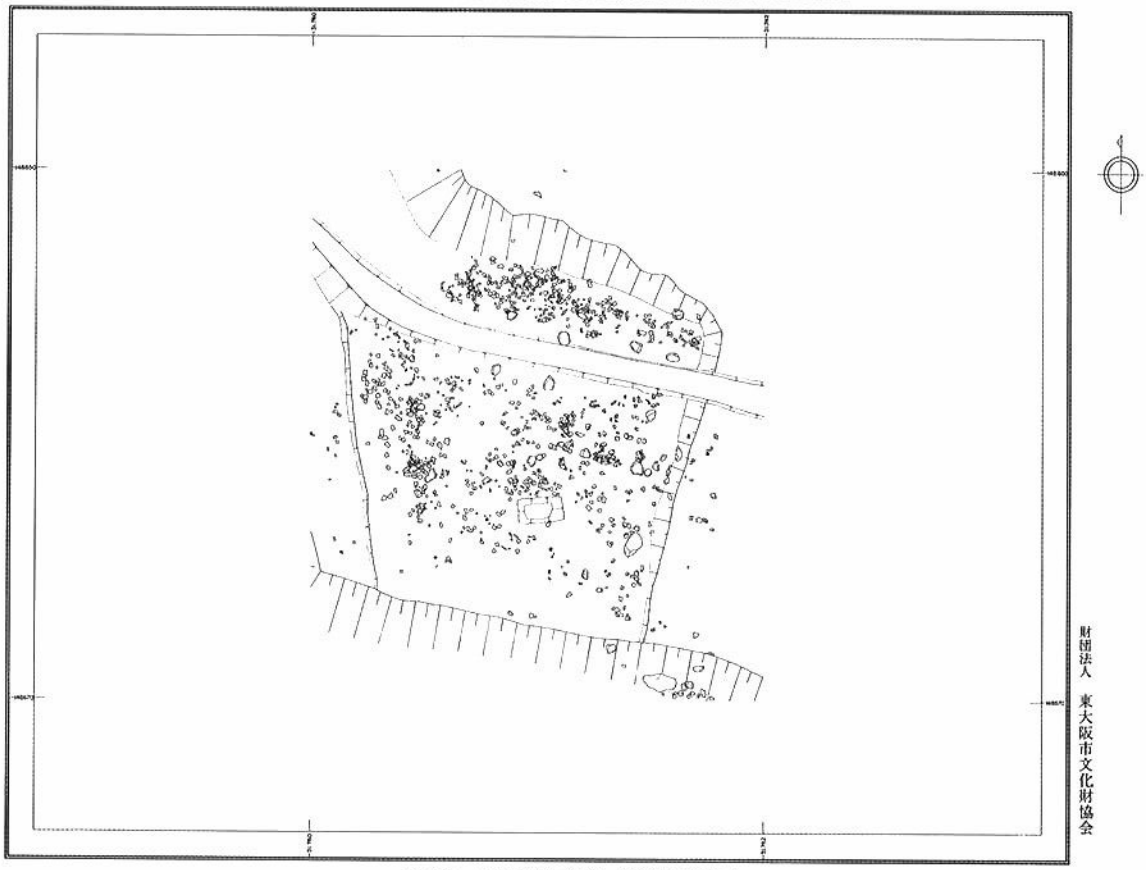


写真43　B地区建物4全景(南より)



財団法人　東大阪市文化財協会

図44　B地区瓦出土状況平面図

写真44　B地区瓦出土状況

写真45　B地区瓦出土状況

写真46　B地区瓦出土状況

石垣7

B地区北端部にある東西方向の石垣7は、3層下部で確認している。石垣2・4と同一方向を呈する石垣7の検出規模は、東西5.2m・高さ10～50cmを測る。石組みの保存状態は極めて悪

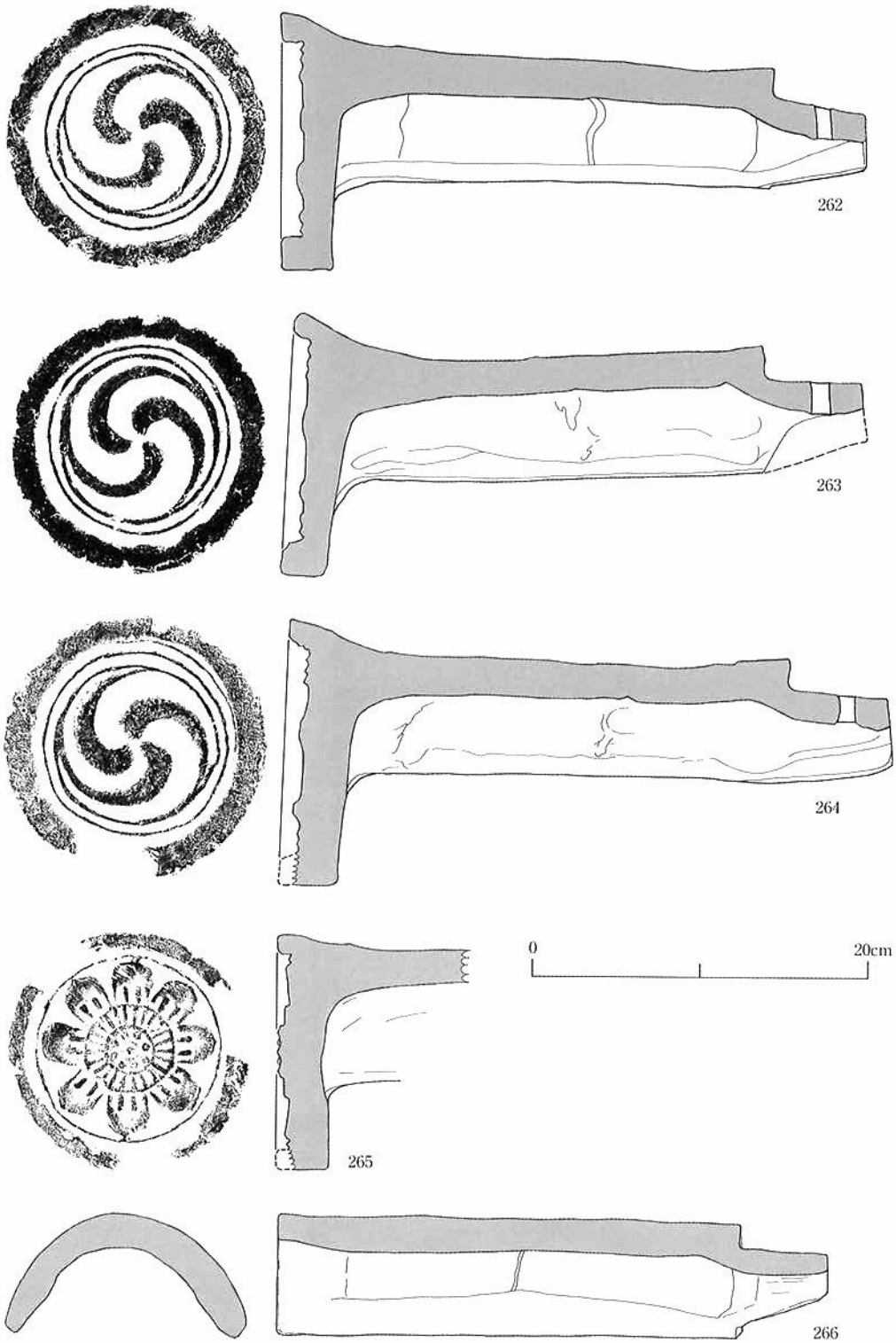


図45　B地区瓦面出土軒丸瓦・丸瓦実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 262 45図 出土地点 B地区	瓦面	瓦 軒丸瓦	口径 器高	2.5GY6/1 オリーブ 灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 263 45図 出土地点 B地区	瓦面	瓦 軒丸瓦	口径 器高	2.5Y8/3淡 黄色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 264 45図 出土地点 B地区	瓦面	瓦 軒丸瓦	口径 器高	10YR5/4 にぶい黄 褐色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 265 45図 出土地点 A地区	瓦面	瓦 軒丸瓦	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 266 45図 出土地点 B地区	瓦面	瓦 丸瓦	口径 器高	2.5GY6/1 オリーブ 灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表26　A・B地区瓦面出土軒丸瓦・丸瓦観察表

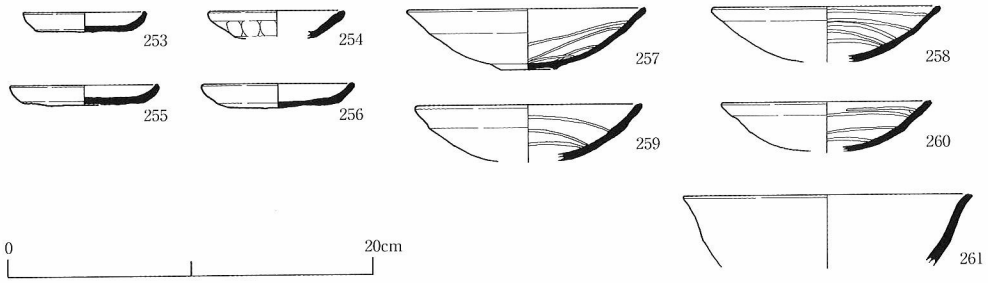


図46　A・B地区瓦面出土遺物実測図

く、基底石のみが残存する。基底石は人頭大から幅80cmほどの自然石や割り石を用いて横積みしている。石垣7は、石垣のうらごめ土にあたる7・8層の出土遺物からは、土師器皿、瓦器すり鉢が出土している。土師器皿は、体部外面下半をユビオサエで仕上げるものがある。瓦器すり鉢は、口縁端部が三角形状に尖り、体部外面をヘラケズリで調整するものがある。

これらの出土遺物から石垣7は、15世紀前半に築造されたものと推定できる。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 253 46図 出土地点 B地区	瓦面	土師器 小皿	口径(6.7) 器高1.1	10YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 254 46図 出土地点 B地区	瓦面	土師器 小皿	口径(7.5) 器高	10YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 255 46図 出土地点 B地区	瓦面	土師器 小皿	口径(8.0) 器高1.1	10YR7/4 にぶい黄 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 256 46図 出土地点 A地区	瓦面	土師器 小皿	口径8.2 器高1.3	5YR8/3淡 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 257 46図 出土地点 B地区	瓦面	瓦器 椀	口径(13.0) 器高3.0	7.5Y4/1灰 色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 底部内面 ナデ
報告No. 258 46図 出土地点 B地区	瓦面	瓦器 椀	口径(12.4) 器高3.0	0YR5/1灰 色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 体部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 底部内面
報告No. 259 46図 出土地点 A地区	瓦面	瓦器 椀	口径(12.4) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 260 46図 出土地点 B地区	瓦面	瓦器 椀	口径(11.4) 器高2.7	10YR6/1 灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 体部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 底部内面
報告No. 261 46図 出土地点 A地区	瓦面	磁器 青磁椀	口径(15.6) 器高	N8/0灰白 色 釉の色調 5GY7/1明 オリーブ 灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表27　B地区瓦面出土遺物観察表

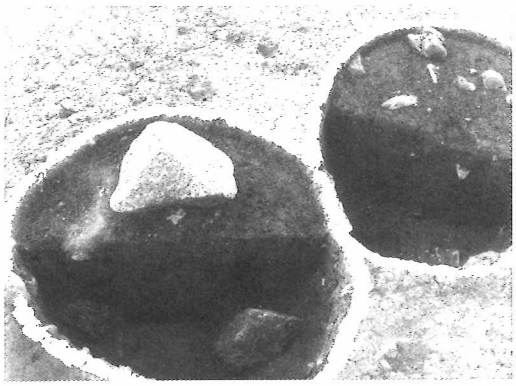


写真47　B地区Pit139・138掘削状況

写真48　B地区Pit29掘削状況

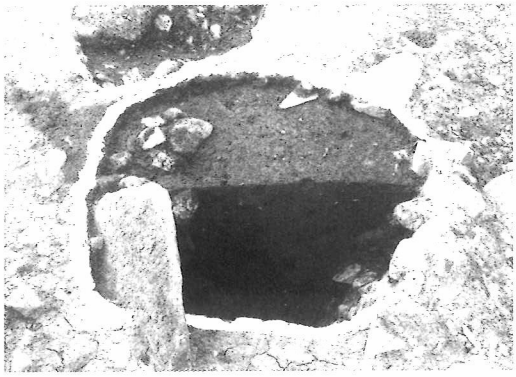


写真49　B地区Pit151掘削状況

写真50　B地区Pit164掘削状況

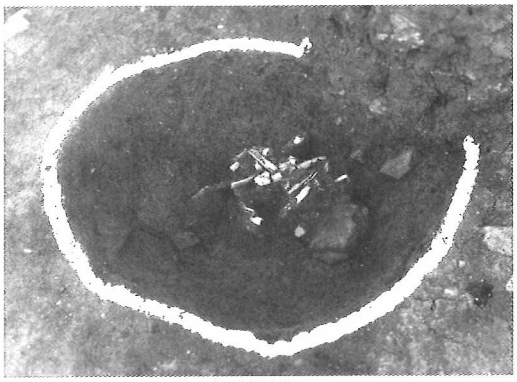


写真51　B地区墓2掘削状況

以上のように、Ｂ地区で検出している3列の石垣について記述してきた。3列の石垣は、いずれもＢ地区中央から北寄り部分に位置している。石垣は、14世紀から15世紀前半までの間に石垣7→石垣4→石垣2の順に築造されたことになる。

建物3

Ｂ地区中央に位置する建物3は、東西2間・南北2間の掘立柱建物である。

建物規模は、東西4m・南北4mを測る。柱間寸法は、東西・南北とも2mである。建物の方位は、後述する建物4と同一である。

建物を構成する柱穴の掘り方は、短径70cm前後・長径80cm～1.2mで、平面楕円形を呈する。掘り方内からの出土遺物はない。

建物4

Ｂ地区中央から北寄り部分にある東西3間・南北2間の総柱の礎石建物である。建物の棟方向は、東西基準ラインに対して17°北へ傾く。建物の規模は、東西6.45m・南北4.3mを測る。柱間寸法は、東西・南北とも2.15mである。礎石には、30cm～70cmの割り石を使用し、平坦面を上に向けて据え付けている。これらの礎石のうち、礎石4・7は接合する。なお各礎石の石材同定結果を別項に掲載しているので参照して頂きたい。

建物の北・東・南側には、建物を取り囲む溝7が巡っている。建物と溝7の間隔は、60cmを測る。溝7は、その位置からみて建物4の雨落ち溝と推定できる。

前述した建物3は、本建物の同一方向をとるとともに、建物3の北側柱列と建物4の南側柱列を同一直線上に配置している。また、両建物間の距離は13mを測る。このような建物方位や配置関係からみて、建物3と建物4は、同時存在していたものと推定できる。

Ｂ地区北端にみられる段は、建物4と同一方位をとり、本建物の建設に伴い造成されたものと推定できる。

建物4の礎石の検出面からは、建物4を中心に瓦類が多量に散布している。このうち、軒瓦の出土量は、軒平瓦が34点、27.5Kg・軒丸瓦が50点、58Kgである。軒平瓦は、すべて均整唐草文軒平瓦である。軒丸瓦は、1点の蓮華文軒丸瓦をのぞき、すべて巴文軒丸瓦である。これらの瓦類は、その分布状況から建物4に伴うものと推定できる。これらの瓦類に2次的な火熱をうけた形跡は認められない。このことから建物4は、火災による焼失を想定しがたい。

瓦面からは、丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦などの瓦類とともに13世紀後半の土師器皿、瓦器椀、磁器椀などが出土している。このうち瓦面から出土している軒平瓦は、A地区瓦面のところですでに記述をしている。軒丸瓦は2種類のものが出土している。1つは三巴文軒丸瓦である。他は、先端の尖った8葉の連弁の内部の2子葉を加え、中房に1+8個の蓮子を配した蓮華文軒丸瓦で1点のみ出土している。

瓦器椀は、口縁端部を丸く仕上げるものがある。土師器皿には、体部外面にユビオサエ痕

をとどめるものがある。

したがって建物4は、同時期に廃絶したものと推定できる。このことは、建物4の雨落ち溝と推定した溝7からの出土遺物とも矛盾しない。

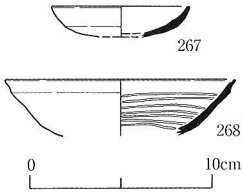


図47　B地区溝7・8出土遺物実測図

溝

溝7からは、土師器皿が出土している。また、溝8からは口縁端部に段をもつ瓦器椀を検出している。

墓2

墓2は、B地区中央、前述した建物4の西約3.5mに位置している。残存規模は、東西78cm・南北60cm・深さ

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 267 47図 出土地点 B地区	溝7	土師器 小皿	口径(7.4) 器高1.7	10YR6/3 にぶい黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 268 47図 出土地点 B地区	溝8	瓦器 椀	口径(12.6) 器高	10YR8/1 灰白色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ後横ヘラ 体部内面　横ヘラ 底部内面

表28　B地区溝7・8出土遺物観察表

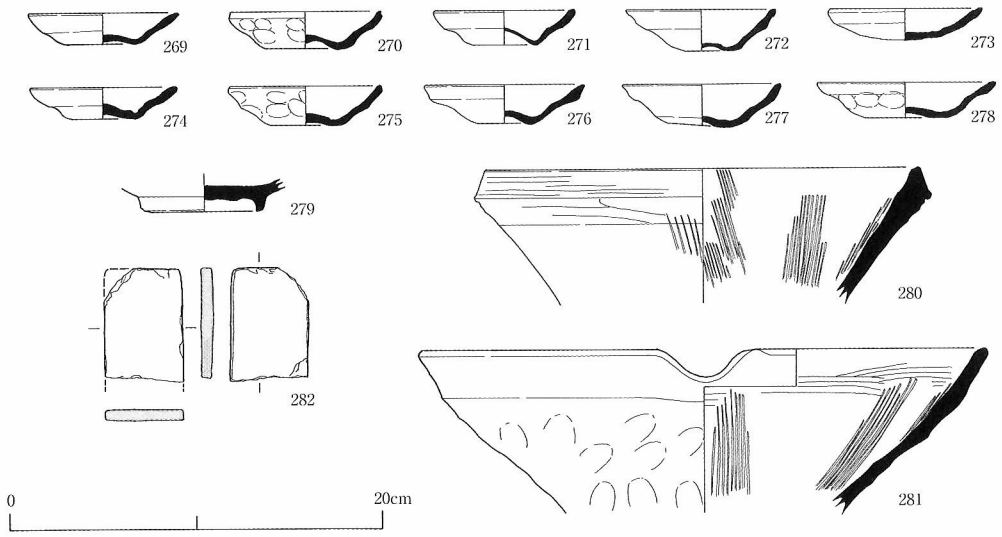


図48　B地区整地層1出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 269 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径7.8 器高1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 270 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(8.0) 器高2.1	7.5YR6/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 271 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(8.4) 器高1.9	10YR6/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 272 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径7.8 器高2.25	7.5YR7/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 273 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径8.0 器高1.75	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 274 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(7.8) 器高1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 275 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(8.0) 器高2.1	7.5YR7/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 276 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(8.4) 器高2.1	7.5YR7/4 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 277 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(8.4) 器高2.4	7.5YR7/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表29　B地区整地層1出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 278 48図 出土地点 B地区	整地層1	土師器 小皿	口径(9.4) 器高1.9	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面 底部外面　ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面　ナデ
報告No. 279 48図 出土地点 B地区	整地層1	磁器 青磁椀	口径 器高	N8/0灰白色 釉の色調 5YG7/1明緑灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面　ヘラケズリ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 280 48図 出土地点 B地区	整地層1	須恵器 すり鉢	口径23.2 器高	2.5Y8/1灰白色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面　スリメ 底部内面
報告No. 281 48図 出土地点 B地区	整地層1	瓦器 すり鉢	口径(30.2) 器高	5Y3/1オリーブ黒色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 横方向のハケメ 体部内面　スリメ 底部内面
報告No. 282 48図 出土地点 B地区	整地層1	石製品 砥石	口径 器高	10YR7/6 明黄褐色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表29　B地区整地層1出土遺物観察表2/2

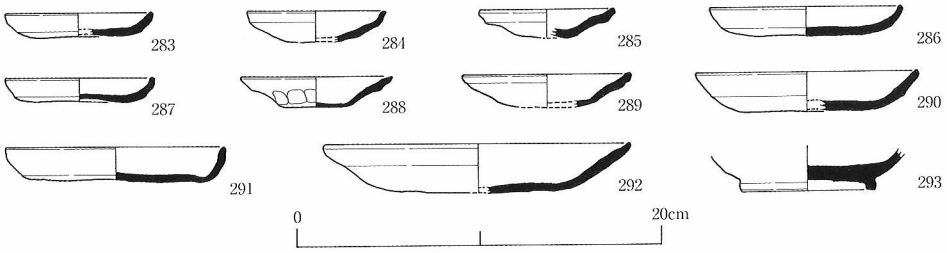


図49　B地区整地層2出土遺物実測図

14cmで楕円形の平面形を呈する。墓内からは、少量の骨片を検出している。

Pit

B地区全域に分布するPitの掘り方は、A地区のPitにくらべ大型である。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 283 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 小皿	口径(8.0) 器高1.3	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 284 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 小皿	口径(7.5) 器高1.7	2.5Y8/2灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 285 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 小皿	口径(7.4) 器高1.6	2.5Y8/3淡黄色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ナデ
報告No. 286 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 皿	口径(10.4) 器高1.6	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 287 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 小皿	口径(8.0) 器高1.3	10YR7/3 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 288 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 小皿	口径8.2 器高1.7	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ユビオサエ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 289 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 小皿	口径(9.2) 器高	7.5YR7/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 290 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 皿	口径(12.0) 器高2.2	10YR6/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 291 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 皿	口径11.8 器高2.0	7.5YR7/6 橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ

表30　B地区整地層2出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 292 49図 出土地点 C地区	整地層2	土師器 皿	口径(16.7) 器高2.7	7.5YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面　ヨコナデ 体部外面　ナデ 底部外面　未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面　ヨコナデ 底部内面　ナデ
報告No. 293 49図 出土地点 C地区	整地層2	磁器 青磁椀	口径 器高	7.5YR7/3 にぶい橙色　釉の色調 5YG7/1 明オリー	口縁部外面 体部外面　ヘラケズリ 底部外面　ヘラケズリ	口縁部内面 体部内面　ヨコナデ 底部内面　ヨコナデ

表30　B地区整地層2出土遺物観察表2/2

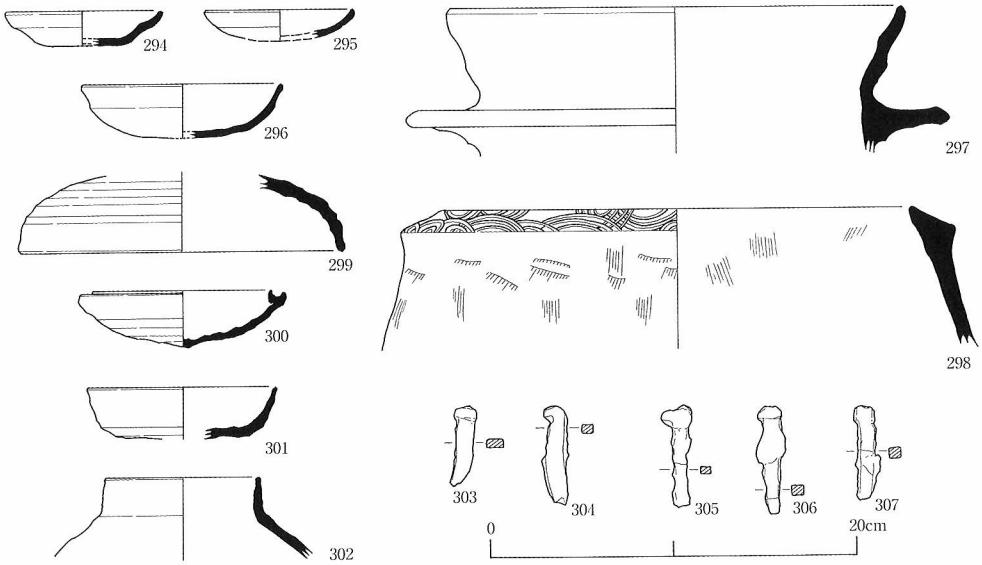


図50　B地区暗黄褐色シルト出土遺物実測図

整地層1出土遺物

前述した石垣2・4・7を覆う整地層1からは、15世紀後半の土師器皿、瓦器すり鉢、磁器椀、須恵器すり鉢、砥石などが出土している。土師器皿は底部が凹み、体部外面にユビオサエ痕の残存するものがある。瓦器すり鉢の口縁端部は内傾する面をもつ。

整地層2出土遺物

石垣2の南側に堆積する整地層2からは、13世紀から15世紀の土師器・磁器を含んでいる。このうち土師器皿は、体部外面にユビオサエ痕をとどめるものを含む。

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 294 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	土師器 小皿	口径(8.4) 器高1.9	10YR7/4 にぶい黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 295 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	土師器 小皿	口径(8.0) 器高	5YR8/3淡橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 296 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	土師器 坏	口径(10.8) 器高2.9	5YR6/6橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 297 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	土師器 釜	口径(24.6) 器高	7.5YR6/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 298 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	土師器 竈	口径(25.4) 器高	.5YR5/4 にぶい褐色	口縁部外面 青海波文 体部外面 縦方向のハケメ 底部外面	口縁部内面 体部内面 縦方向のハケメ 底部内面
報告No. 299 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	須恵器 蓋	口径(17.4) 器高	10BG6/1 緑灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 回転ヘラケズリ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 300 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	須恵器 坏	口径9.6 器高3.05	7.5Y7/1灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 回転ヘラケズリ 底部外面 ヘラキリ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面 ヨコナデ
報告No. 301 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	須恵器 坏	口径(10.0) 器高	N7/0灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 回転ヘラケズリ ヘラキリ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 302 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	須恵器 壷	口径(8.2) 器高	N5/0灰色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面

表31　B地区暗黄褐色シルト出土遺物観察表1/2

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 303 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	金属製品 鉄釘	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 304 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	金属製品 鉄釘	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 305 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	金属製品 鉄釘	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 306 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	金属製品 鉄釘	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 307 50図 出土地点 B地区	暗黄褐色シルト	金属製品 鉄釘	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表31　B地区暗黄褐色シルト出土遺物観察表2/2

暗黄褐色シルト層の出土遺物

瓦面の下層に堆積する暗黄褐色シルト層には、古墳時代後期から8世紀の土師器皿・杯・羽釜・竈、須恵器杯・蓋・壺、鉄釘などが出土している。土師器の羽釜は、口縁部が外反し、端部を尖り気味におさめる。頸部には、水平方向にのびる顎を貼り付けている。竈の口縁端部は、三角形状を呈し、外面に同心円状の当て具痕を残す。須恵器杯には、口縁部に短いたちあがりのつくものと、たちあがりを欠き、端部を丸くおさめるものがある。

3) D地区

A地区からC地区の調査終了後に着手したD地区は、本調査で最南端に位置する地区である。

D地区は、B地区から続く地山層が、北側から南側にむかって傾斜し、谷状の地形を呈する。地山の北側傾斜面は、下部で傾きをかえ、幅約50cmの平坦面を形成する。平坦面の南側

は、傾斜し、谷底にいたる。谷底は、平坦な面をなす。

谷の下部堆積層は、北側から南側にむかって傾斜している。これに対して、谷上部は、水平に堆積している。このうち、13層は、土層の特徴から旧耕作土と推定できる。谷の堆積層からは、8世紀から近世の土師器・陶磁器類・瓦類が出土している。

北側傾斜面に形成された平坦面には、L字形の石垣10が伴っている。

石垣10は、東西9m・南北4.1m・高さ10～50cmを測る。石垣は、1段から3段分残存し、人頭大から幅70cm前後の割り石や自然石を使用している。また、谷

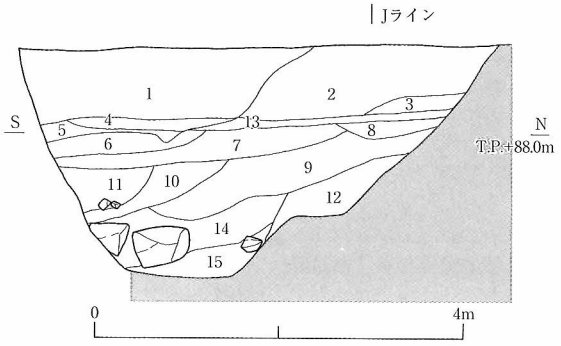


図51　D地区南北断面図

1　10YR6/6明黄褐色砂質土（地山ブロックを含む）
2　2.5Y5/2黄灰色砂質土（5mm～拳大の礫を含む）
3　2.5Y5/3黄灰色砂質土（地山ブロック・拳大～馬頭大の礫を含む）
4　10YR6/6明黄褐色砂質土（拳大の礫を含む）
5　2.5Y5/2暗灰黄色砂質土（拳大の礫を含む）
6　2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土（5mm～拳大の礫を含む）
7　2.5Y4/4オリーブ褐色砂質土
8　5Y4/1灰色砂質シルト
9　2.5Y5/1黄灰色シルト
10　10YR4/1褐灰色シルト
11　10YR4/1褐灰色砂質シルト（地山ブロックを含む）
12　2.5Y5/1黄灰色シルト（拳大の礫を含む）
13　5Y4/1灰色砂質土（旧耕土）
14　5BG4/1暗青灰色シルト（5mm～拳大の礫を含む）
15　5BG3/1青灰色シルト（5mm～拳大の礫を含む）

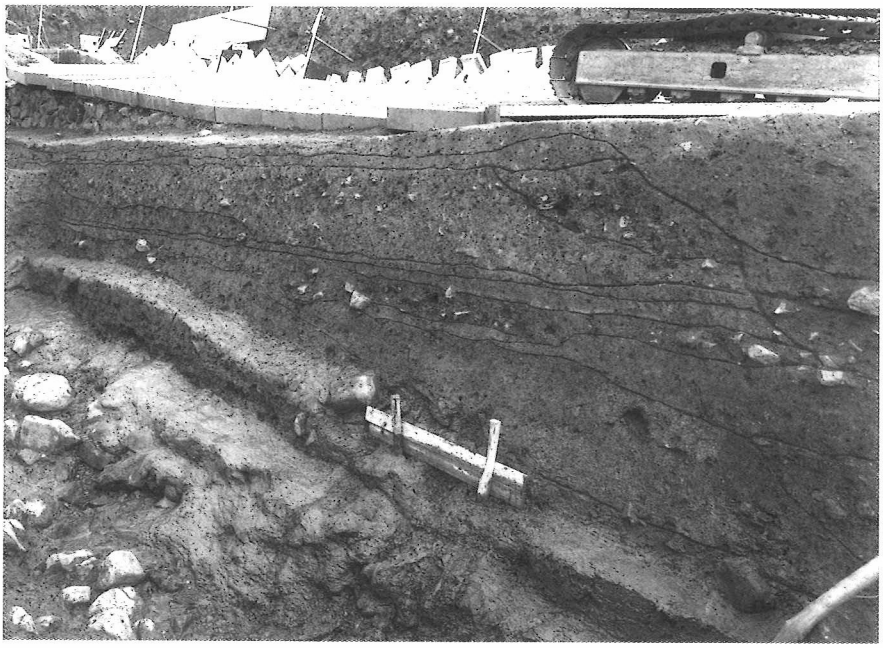


写真52　D地区東西断面

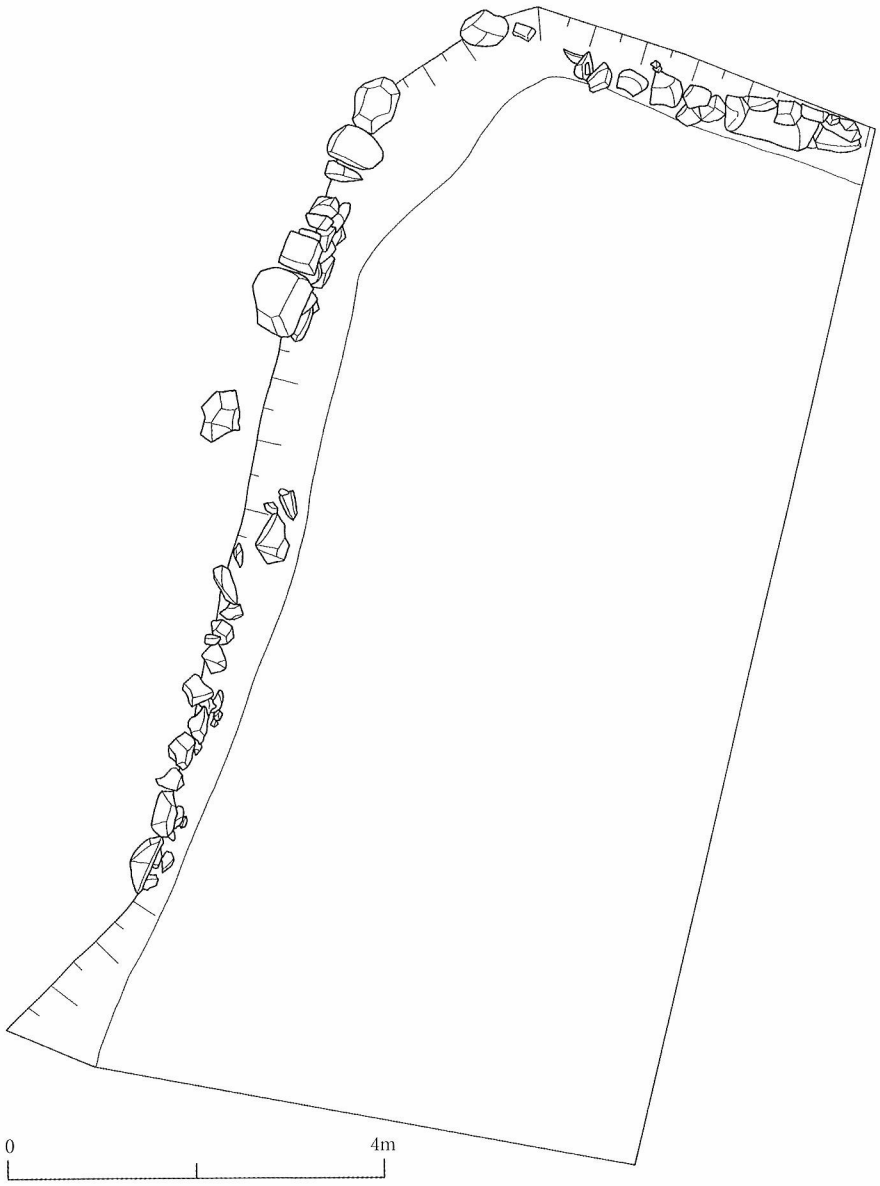


図52　D地区石垣10平面図

底の平坦面では、石垣10と平行する石組暗渠を確認している。

石組暗渠は、A地区の溝1と同様に拳大の石を平行してならべ、その上に蓋石をのせる構造である。

石垣10や石組暗渠は、検出層位から近世以降の築造と推定できる。

D地区の青灰色砂質シルト層からは、土師器杯・甕・釜、軒平瓦・飾り瓦などの瓦類が出土している。土師器釜は、口縁端部が短く外反し、端部を上方につまみ上げる。唐草文軒平瓦は、曲線顎を呈する。

写真53　D地区石垣11検出状況

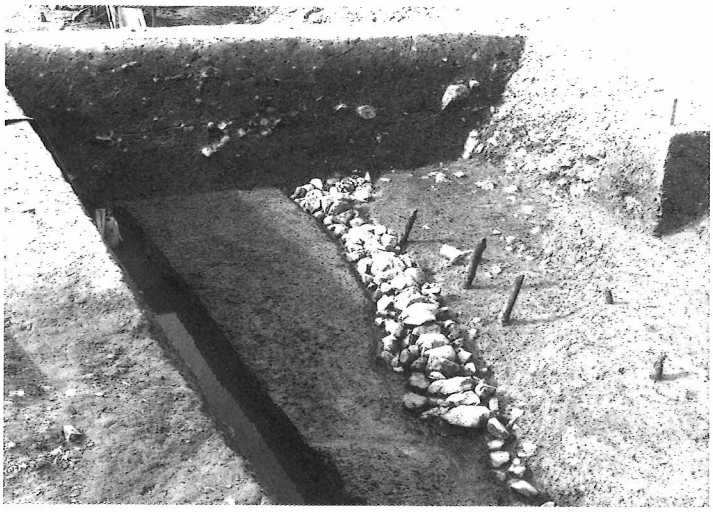


写真54　D地区暗渠検出状況

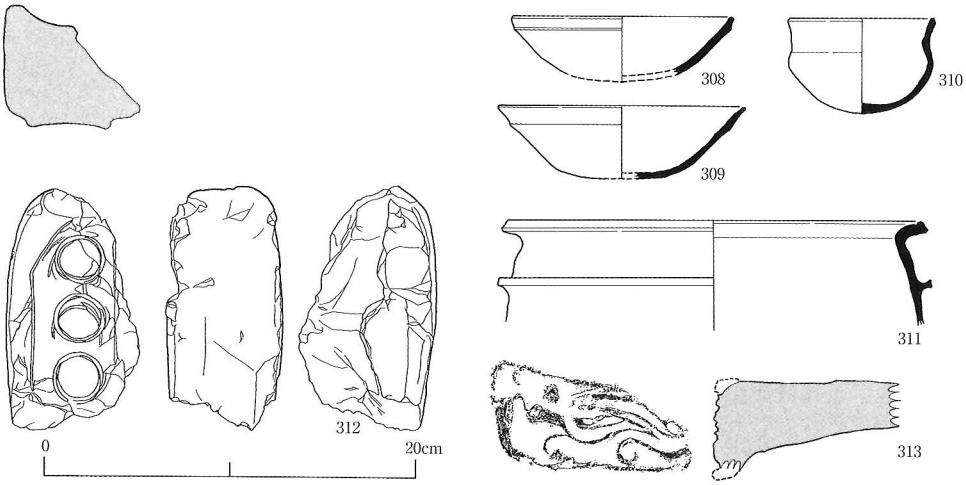


図53　D地区出土遺物実測図

	層位 出土遺構	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
報告No. 308 53図 出土地点 D地区	青灰色砂質シルト	土師器 坏	口径(11.8) 器高	10YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 未調整 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ヨコナデ 底部内面
報告No. 309 53図 出土地点 D地区	青灰色砂質シルト	土師器 坏	口径(13.4) 器高4.0	10YR8/3 浅黄橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 未調整	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 310 53図 出土地点 D地区	青灰色砂質シルト	土師器 甕	口径7.6 器高5.2	7.5YR6/4 にぶい橙色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 311 53図 出土地点 D地区	青灰色砂質シルト	土師器 釜	口径(22.2) 器高	5Y8/2灰白色	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ナデ 底部内面
報告No. 312 53図 出土地点 D地区	灰褐色砂礫	瓦 鬼瓦	口径 器高	7.5Y4/1灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 313 53図 出土地点 D地区	青灰色砂質シルト	瓦 軒平瓦	口径 器高	N5/0灰色	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

表32　D地区出土遺物観察表

V　自然科学分析
客坊山遺跡群第３次調査検出の礎石の岩石鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

客坊山遺跡群は、客坊谷の北側斜面から西方向に広がる扇状地にかけて位置する。今回行われた第３次発掘調査において、礎石建物跡（建物4）が検出された。伴出した瓦からみて、その構築時期は13世紀初頭と考えられている。

今回の分析調査では、建物跡より検出された礎石について薄片を作製し、顕微鏡下で観察を行い、各礎石に使用された岩石名を明らかにすることを目的とする。

１．試料

岩石鑑定を行う場合、肉眼観察による岩石鑑定方法と、試料を切断し、薄片プレパラートを作製し、顕微鏡観察による岩石鑑定方法が考えられる。鑑定試料は、客坊山遺跡群第３次調査において確認された建物跡の礎石９点（礎石１～９）である（表33)。鑑定試料は岩石の肉眼鑑定による表面観察から、いずれの試料とも均質な外観を呈していることが判明した。したがって各試料の構成鉱物・組織などさらに微細部分について把握するためには薄片プレパラートを作製することが必要であると考えられるため、今回以下の方法で同定を行うことにした。

２．鑑定方法

顕微鏡観察を行うために試料を合成樹脂で固化した後、ダイヤモンドカッターで切断し、30μｍの厚さに研磨して薄片を作製する。作製した薄片を用い、透過光により試料の組織および試料の構成する鉱物を同定した。

顕微鏡写真は、下方ポーラーおよび直交ポーラーの写真撮影を行った（写真55～78)。なお、試料４・５・７については、岩石の性質を比較するために各１組を追加図版とした。

３．観察結果および岩石名

岩石鑑定結果を各試料ごとに以下に示す。

試料１：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石1（写真55・56)

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする中粒深成岩である。均質な外観を有する。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、大きさ0.4～3.0mmの半自形～他形粒状を呈し、1.5～2.0mmのものが卓越する。集片双晶が著しく発達し、一部のものに累帯構造がみられる。アルバイト双晶の最大消光角からAn75%程度と推定され、亜灰長石に属する。

試料番号	試　料　名
試料1	ＫＢＹ3　Ｂ地区　礎石1
試料2	ＫＢＹ3　Ｂ地区　礎石2
試料3	ＫＢＹ3　Ｂ地区　礎石3
試料4	ＫＢＹ3　Ｂ地区　礎石4
試料5	ＫＢＹ5　Ｂ地区　礎石5
試料6	ＫＢＹ6　Ｂ地区　礎石6
試料7	ＫＢＹ7　Ｂ地区　礎石7
試料8	ＫＢＹ8　Ｂ地区　礎石8
試料9	ＫＢＹ9　Ｂ地区　礎石9

表33　分析試料一覧

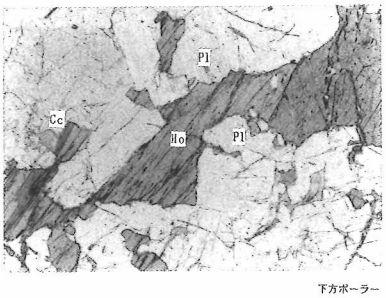


写真55　建物4礎石1下方ポーラー

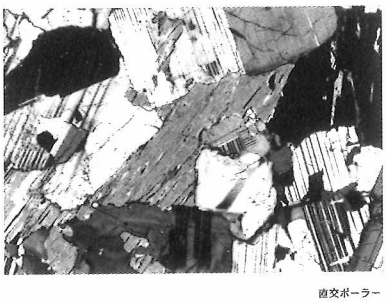


写真56　建物4礎石1直交ポーラー

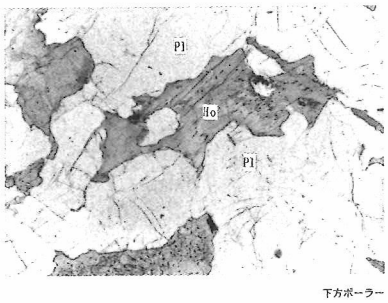


写真57　建物4礎石2下方ポーラー

写真58　建物4礎石2直交ポーラー

カリ長石：大きさ0.4～1.2mmの他形粒状または斜長石結晶の粒間を埋めて微量で存在する。新鮮な正長石である。

角閃石：中量存在し、大きさ0.4～3.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティック（ある鉱物の大きな結晶中に他の鉱物が不規則に取り込まれている組織）に斜長石やアパタイトが含有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する普通角閃石である。角閃石の一部は変質し、細粒の集合体に再構成され

ている。角閃石の一部には淡色種が認められる。また、角閃石の一部は方解石に交代され、緑泥石に変質している部分も観察される。

副成分鉱物

方解石：微量存在し、大きさ0.1～1.0mmの不規則他形で、角閃石の一部を交代する産状を示すものが多く、また、他の鉱物の粒間を充填する産状を呈するものを観察される。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.1～0.15mm（最大0.4mm）の自形粒状を呈する。

不透明鉱物：黒色不透明鉱物で、多くは塊状不定形を呈し、磁鉄鉱の他、実体顕微鏡下では磁硫鉄鉱も認められる。偏光顕微鏡下では不透明鉱物一部は長柱状～棒状で、上記の鉱物の他にチタン鉄鉱が存在する可能性がある。

試料２：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礫石2（写真57・58）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、中粒でやや優黒色の岩石である。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、大きさ0.4～3.0mmの半自形～他形粒状を呈し、1.5～2.0mmのものが卓越する。集片双晶が著しく発達し、一部のものに累帯構造がみられる。アルバイト双晶の最大消光からAn80%程度と推定され、亜灰長石に属する。

カリ長石：少量存在し、大きさ0.4～3.0mmの他粒形状または斜長石結晶の粒間を埋める産状を呈する。

角閃石：中量存在し、大きさ0.1～3.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等が包有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する普通角閃石である。角閃石の一部は変質し、細粒の集合体に再構成されている。角閃石の一部には淡色種が認められ、方解石に交代されている部分も観察される。角閃石の一部は淡褐色で複屈折がきわめて低い緑泥石に変質している。

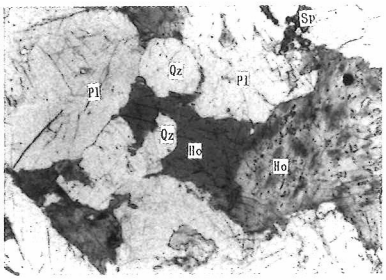
副成分鉱物

黒雲母：ごく微量存在し、大きさ0.1～3mmの他形葉片状を呈し、淡褐色～褐色の多色性を有する。多くは淡色化し、ほとんど無色～淡褐色の多色性を有し、複屈折の低い緑泥石に変質している。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.02～0.10mmの自形粒状を呈する。

方解石：微量存在し、大きさ0.1～0.4mmの不規則他形で、角閃石の一部を交代する産状を示すものと斜長石の粒間を充填する産状を呈するものが観察される。

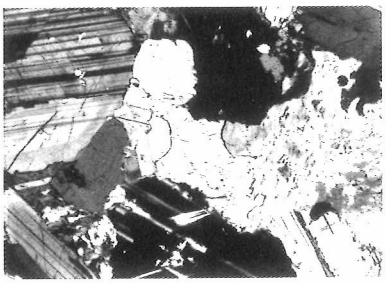
不透明鉱物：微量存在し、大きさ0.1～0.6mmの他形粒状を示す。



下方ポーラー

0 0.5mm

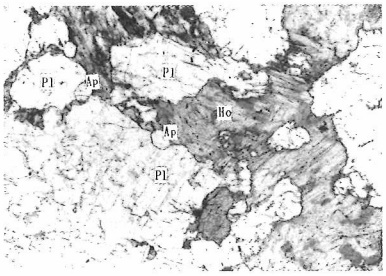
写真59　建物4礎石3下方ポーラー



直交ポーラー

0 0.5mm

写真60　建物4礎石3直交ポーラー



下方ポーラー

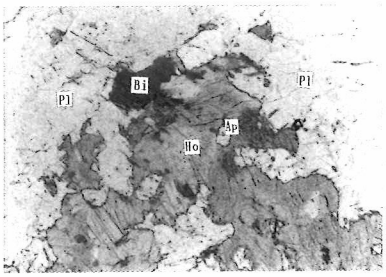
0 0.5mm

写真61　建物4礎石4下方ポーラー

直交ポーラー

0 0.5mm

写真62　建物4礎石4直交ポーラー



下方ポーラー

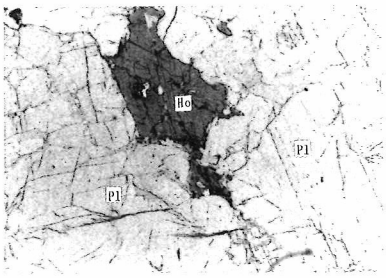
0 0.5mm

写真63　建物4礎石4下方ポーラー

直交ポーラー

0 0.5mm

写真64　建物4礎石4直交ポーラー



下方ポーラー

0 0.5mm

写真65　建物4礎石5下方ポーラー

直交ポーラー

0 0.5mm

写真66　建物4礎石5直交ポーラー

試料３：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石３（写真59・60）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とし、単斜輝石・斜方輝石を伴う深成岩で、岩石風化した表面はやや優白色の中粒岩の外観を呈するが、内部は均質なやや優黒色の岩石である。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在する造岩鉱物となっている。大きさ0.4～4mmの他形～半自形を呈する。集片双晶が著しく発達するが、累帯構造を有するものはほとんど認められない。

斜方輝石：微量存在し、大きさ0.2～0.4mmの半自形～他形を示し、淡黄褐色で弱い多色性を有し、集斑状の産状を呈る。輝石特有の2方向の劈開が発達し、直消光する。一部は角閃石化している。

単斜輝石：少量存在し、大きさ0.2～1.2mmの他形粒状～葉片状を呈し、斜方輝石よりやや多く存在する。色調は斜方輝石と比較すると帯緑色で、多色性・劈開等は類似するが、単純双晶が認められ、斜消光する。角閃石と共在することが多く、一部は角閃石化している。

角閃石：中量存在し、淡緑褐～褐色を増す多色性が認められるが、部分的には淡色で、多色性が弱い。

副成分鉱物

石英：ごく微量存在し、大きさ0.2～0.4mmの他形粒状を呈する。

黒雲母：ごく微量存在し、大きさ0.05～0.2mmの他形葉片状を呈して角閃石中に包有され、一部は角閃石を交代した組織を示す。淡褐色～褐色の多色性を有する。顕微鏡下の観察では、花崗岩等の貫入時に熱変成を受けて角閃石が変成されて生成された鉱物と思われる。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.1～0.2mmの自形粒状を呈する。

スフェン：ごく微量存在し、大きさ0.2mm以下の他形不規則形を呈する。屈折立が高く、淡黄褐色で、弱い多色性を有する。

方解石：微量存在し、大きさ0.2mm以下の不規則形他で斜長石結晶粒中に包有されるものが多いが、一部は角閃石を交代する産状を示す。

不透明鉱物：微量存在し、多くは角閃石あるいは輝石中に包有される。大きさは0.1～0.6mmの他形粒状を示すものが多いが、一部は長柱状の形態を有し、チタン鉄鉱と思われる。

試料４：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石４（写真61～64）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、やや粗粒の岩石中に、優黒色細粒の捕獲岩を有する。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、主要な造岩鉱物となっている。大きさ0.2～4.0mmの半自形～他形粒状を呈し、集片双晶が著しく発達するが、累帯構造を有するものは認められない。捕獲岩となっている部分は細粒質で、大きさ0.2mm程度のモザイク状斜長石で構成されている。
アルバイト双晶の最大消光角からAn80%程度と推定され、亜灰長石に属する。

カリ長石：少量存在し、大きさ0.4～3.0mmの他形粒状または斜長石結晶の粒間を埋める産状を呈する。

角閃石：中量存在し、大きさ0.1～3.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等が包有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の他色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する普通角閃石である。角閃石の一部は変質し、細粒の集合体に再構成されている。角閃石の一部には淡色種が認められ、方解石に交代されている部分も観察される。角閃石の一部は淡褐色で複屈折がきわめて低い緑泥石に変質している。

副成分鉱物

黒雲母：微量存在し、大きさ0.1～0.5mmの他形葉片状を呈し、淡黄褐色～褐色の多色性を有する。角閃石中あるいは角閃石のにみられる。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.02～0.10mmの自形粒状を呈する。

方解石：微量存在し、大きさ0.1～0.4mmの不規則他形で、角閃石の一部を交代する産状を示すものと斜長石の粒間を充填する産状を呈するものが観察される。

不透明鉱物：微量存在し、大きさ0.1～0.6mmの他形粒状を示す。

試料５：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石５（写真65・66）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、中粒でやや優白色の外観を呈する。

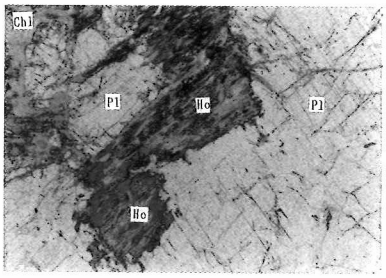
岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、大きさ0.4～3.0mmの半自形～他形粒状を呈する。集片双晶が著しく発達し、一部のものに累帯構造がみられるが僅かである。アルバイト双晶の最大消光角からAn80%程度と推定され、亜灰長石に属する。

カリ長石：少量存在し、大きさ0.4～1.0mmの他形粒状または斜長石結晶の粒間を埋める産状を呈する。

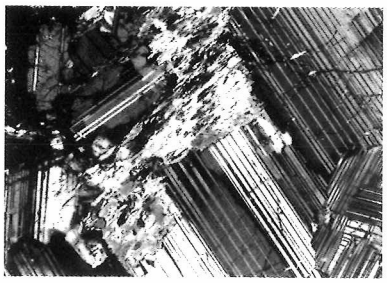
角閃石：中量存在し、大きさ0.2～3.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等が包有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する。大型の角閃石の一部は変質し、細粒の集合体に再構成されている。角閃石の一部は淡褐色で複屈折がきわめて低い緑泥石に変質している。この部分は黒雲母の仮像を示すため角閃石から変成作用により黒雲母を生成し、



下方ポーラー

0 0.5mm

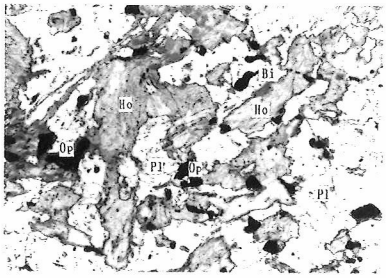
写真67　建物4礎石6下方ポーラー



直交ポーラー

0 0.5mm

写真68　建物4礎石6直交ポーラー



下方ポーラー

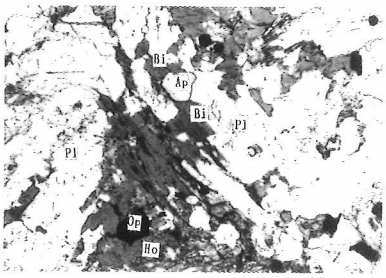
0 0.5mm

写真69　建物4礎石6下方ポーラー

直交ポーラー

0 0.5mm

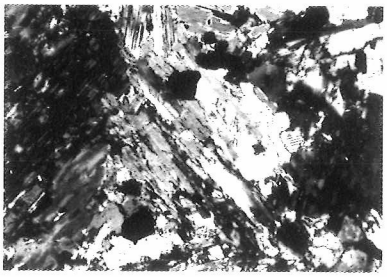
写真70　建物4礎石6直交ポーラー



下方ポーラー

0 0.5mm

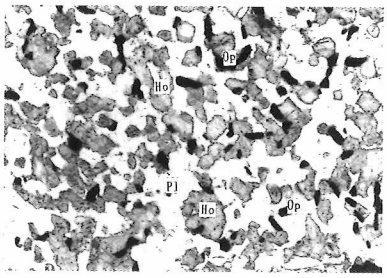
写真71　建物4礎石7下方ポーラー



直交ポーラー

0 0.5mm

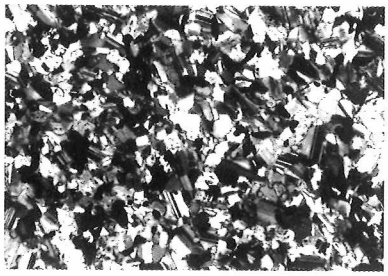
写真72　建物4礎石7直交ポーラー



下方ポーラー

0 0.5mm

写真73　建物4礎石7下方ポーラー



直交ポーラー

0 0.5mm

写真74　建物4礎石7直交ポーラー

黒雲母が緑泥石に変質した可能性が高い。

副成分鉱物

石英：ごく微量存在し、大きさ0.3mmの他形粒状を呈する。

黒雲母：黒雲母の仮像を示すものが微量存在するが、緑泥石に変質している。大きさ0.1～1.0mmの他形葉片状を呈し、ほとんど無色～淡褐色の弱い多色性を有し、複屈折の低い緑泥石に変質している。緑泥石の一部を交代した組織を示す。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.01～0.2mmで、多くは0.02mm以下の自形粒状を呈する。

不透明鉱物：ごく微量存在し、大きさ0.2～0.6mmの他形粒状を示す。

試料６：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石６（写真67～70）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、中粒のやや優白質岩石中に細粒優黒色の捕獲岩を有する。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、主要ま造岩鉱物となっている。大きさ0.2～3.0mmの半自形～他形粒状を呈し、集片双昌が著しく発達し、部分的に結晶の外縁部に累帯構造を有するものが認められる。

捕獲岩となっている部分は細粒質で、大きさ0.1～0.6mmで、0.2mm程度のものが多いモザイク状斜長石で構成されている。

アルバイト双昌の最大消光角からAn85%程度と推定され、亜灰長石に属する。

角閃石：中量存在し、大きさ0.1～2.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等が包有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する普通角閃石である。角閃石の一部は変質し、細粒の集合体に再構成されている。角閃石の一部には淡色種が認められ、方解石に交代されている部分も観察される。

角閃石の一部は淡褐色で複屈折がきわめて低い緑泥石に変質している。

細粒部の角閃石は中量存在し、大きさ0.1～0.6mmの他形葉片状で、中粒部同様に、一部は細粒の集合体に再構成されている。部分的に、黒雲母・緑泥石に交代されている。

副成分鉱物

黒雲母：微量存在し、大きさ0.1～0.5mmの他形葉片状を呈し、淡黄褐色～褐色の多色性を有する。角閃石中あるいは角閃石の周縁にみられる。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.02～0.10mmの自形粒状を呈する。

方解石：微量存在し、大きさ0.1～0.4mmの不規則他形で、角閃石の一部を交代する産状を示

すものと斜長石の粒間を充填する産状を呈するものが観察される。

不透明鉱物：微量存在し、大きさ0.1～0.4mmの他形粒状を呈する。中粒組織の部分では粒径はやや大型で散在するに過ぎないのに対し、細粒組織を呈する部分では含有比が高く、角閃石葉片と密接に関係して存在する。粒径は不規則で、鉱物が特定できるものは認められない。

試料７：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石7（写真71～74）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、細粒でやや優黒色で斜長石を斑晶状に含む部分と中粒でやや優白色の外観を呈する部分が混在する。

岩石の組織：等粒状組織を有する中粒の深成岩と細粒組織を有する深成岩が混在する。

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、主要な造岩鉱物となっている。大きさ0.2～3.0mmの半自形～他形粒状を呈し、集片双晶が著しく発達する。一部の大型の結晶の外縁部に累帯構造を有するものがある。大型の斜長石結晶は斑晶状に存在し、結晶中にはポイキリティックに角閃石・アパタイトなどが包有される。

細粒質部の斜長石は、大きさ0.2～0.6mm程度のモザイク状を呈する。

アルバイト双晶の最大消光角からAn85%程度と推定され、亜灰長石に属する。

カリ長石：少量存在し、大きさ0.4～1.0mmの他形粒状または斜長石結晶の粒間を埋める産状を呈する。

角閃石：中量存在し、大きさ0.1～3.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等が包有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する普通角閃石である。大型の角閃石は変質し、細粒のアクチノライト質角閃石集合体に再構成され、一部は緑泥石や方解石に変質している。

細粒部には大きさ0.1～0.15mm程度の細粒角閃石が比較的多く、斜長石よりやや少ない程度に含まれる。

副成分鉱物

黒雲母：微量存在し、大きさ0.1～0.2mmの半自形長柱形～葉片状を呈し、淡黄褐色～赤褐色の多色性を有する。角閃石中あるいは角閃石の周縁にみられ、角閃石を交代して生成された産状を示す。おそらく、熱変成作用により形成されたものと思われる。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.02～0.2mmの自形粒状または長柱状を呈する。

方解石：微量存在し、大きさ0.1～0.4mmの不規則他形で、角閃石の一部を交代する産状を示すものと斜長石の粒間を充填する産状を呈するものが観察される。

不透明鉱物：微量存在し、大きさ0.1～0.6mmの他形粒状を示す。細粒部分には不透明鉱物

が多く含まれ、大きさ0.05～0.2mmの長柱状を示すものがある。この部分はおそらくチタン鉄鉱と思われる。

特徴：本試料は中粒組織の角閃石斑れい岩と細粒組織の角閃石斑れい岩とが混在している組織を示す。細粒組織を示す部分は試料４および６と酷似し、角閃石斑れい岩の捕獲岩とみなされる。

試料８：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石８（写真75・76）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、やや粗粒の岩石で角閃石中に斜方輝石・単斜輝石を包有する特徴を有する。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在し、主要な造岩鉱物となっている。大きさ0.2～3.0mmの半自形～他形粒状を呈し、集片双晶が著しく発達する。累帯構造を有するものは認められない。

アルバイト双晶の最大消光角からAn85%程度と推定され、亜灰長石に属する。

カリ長石：微量存在し、大きさ0.4～1.0mmの他形粒状または斜長石結晶の粒間を埋める産状を呈する。

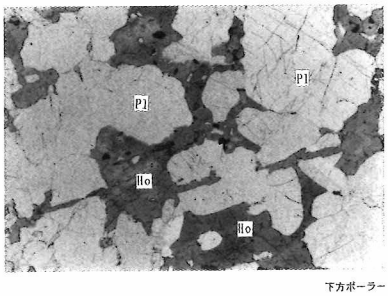


写真75　建物4礎石8下方ポーラー

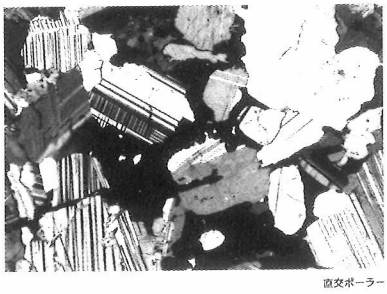


写真76　建物4礎石8直交ポーラー

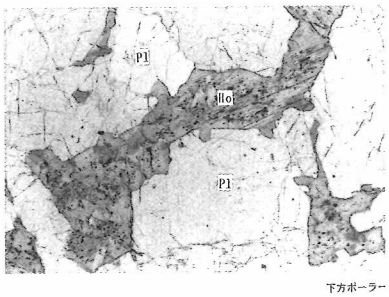


写真77　建物4礎石9下方ポーラー

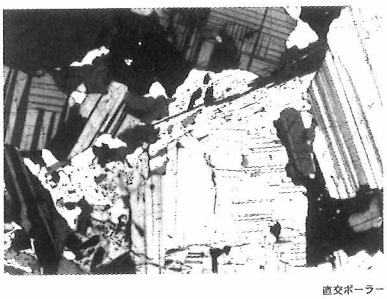


写真78　建物4礎石9直交ポーラー

斜方輝石：微量存在し、大きさ0.8mmの他形粒状で角閃石中に残晶状を呈して包有される。無色に近い淡黄褐色で弱い多色性を有し、角閃石との境界に反応縁を有している。１方向の劈開が発達し、直消光する。輝石を包有する角閃石には微細な不透明鉱物が多数析出している。

単斜輝石：微量存在し、大きさ0.8～1.2mmの他形粒状を呈し、大型の角閃石葉片中に残晶として包有される。斜方輝石よりやや多く存在する。色調は斜方輝石と類似し、無色に近いブロンズで、弱い多色性を有する。劈開は１方向に発達し、斜消光する。単純双晶が認められる。角閃石との境界は反応縁が認められる。

角閃石：中量存在し、大きさ0.2～4.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはしばしば単斜輝石・斜方輝石を包有し、このほか、ポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等を包有している。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑褐色の弱い多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する。大型の角閃石は細粒のアクチノライト質角閃石集合体に再構成されることが多い。角閃石の一部は緑泥石や方解石に変質している。角閃石の一部に微細な不透明鉱物を多数析出し、淡褐色を呈するものがある。上記の輝石類の産状から推定すると、輝石残晶はみられないが、輝石類から交代して生成した角閃石と思われる。

副成分鉱物

アパタイト：微量存在し、大きさ0.02～0.2mmの自形粒状または柱状を呈する。

方解石：微量存在し、大きさ0.1～0.3mmの不規則他形で、斜長石の粒間や、角閃石を交代する産状を呈するものが観察される。

不透明鉱物：微量存在し、大きさ0.2～0.5mmの他形粒状を示す。一部に長柱状を示すものがある。この部分はおそらくチタン鉄鉱と思われる。

試料９：ＫＢＹ３　Ｂ地区　礎石９（写真77・78）

岩石名：角閃石斑れい岩

斜長石と角閃石を主成分鉱物とする深成岩で、岩石表面は中粒でやや優白色の外観を有するが、岩石内部は優黒色の岩石である。

岩石の組織：等粒状組織

主成分鉱物

斜長石：多量に存在する造岩鉱物となっている。大きさ0.4～2mmの他形～半自形を呈する。集片双晶が著しく発達するが、累帯構造を有するものはほとんど認められない。

角閃石：中量存在し、大きさ0.2～3.0mmの他形葉片状を呈し、大型のものにはポイキリティックに斜長石・アパタイト・不透明鉱物等が包有されている。下方ポーラー下で淡黄緑色～淡緑色の弱い多色性を有し、直交ポーラー下で斜消光する。大型の角閃石は細粒のアクチノライト質角閃石集合体に再構成されることが多い。角閃石の一部は淡色化し、緑泥石や方解石に変質している。

副成分鉱物

黒雲母：ごく微量存在し、大きさ0.1mmで斜長石結晶中に柱状で産する。淡褐色～褐色の著しい多色性を有する。

アパタイト：微量存在し、大きさ0.1～0.3mmの自形粒状を呈する。

方解石：微量存在し、大きさ0.2mm以下の不規則他形で斜長石結晶粒中に包有されるものが多いが、一部は角閃石を交代する産状を示す。

不透明鉱物：ごく微量存在し、多くは角閃石に包有されるか、その近辺に産する。大きさ0.02～0.3mmの他形粒状を示すものが多い。

4．考　察

顕微鏡観察を行った試料はいずれも角閃石斑れい岩と同定された。客坊山遺跡にもっとも近接した斑れい岩産地として生駒山地がある。生駒山地の斑れい岩体は生駒山山頂をはじめ山体の大部分を構成し、近畿日本鉄道奈良線額田駅東方まで露出している。生駒山地の斑れい岩体は次の５つの主要岩相に区分されている。1.細粒輝石ー角閃石ガブロノーライト、2.かんらん石ー輝石ー角閃石ガブロノーライト、3.角閃石斑れい岩、4.斜長石斑状角閃石斑れい岩、5.優白質角閃石斑れい岩。このうち、角閃石斑れい岩がもっとも多く露出し、他の岩相の斑れい岩は角閃石斑れい岩と漸移関係あるいは貫入関係にあるとされている（生駒山地領家帯研究グループ、1986）。

観察試料は上記の3.角閃石斑れい岩に属する岩石と判定され、同一岩体から産したものである。

今回鑑定を行った９試料のうち、試料７は外観的に他の角閃石斑れい岩と細粒優黒色の外観を呈する点で異なるが、検鏡の結果、細粒岩は角閃石斑れい岩の捕獲岩と同質であると判定される。また試料４・６には角閃石斑れい岩中に優黒色捕獲岩（ゼノリス）を有している。試料７を含め、これらの優黒色岩はいずれもホストとなる角閃石斑れい岩と比較して粒度が細かく、角閃石と不透明鉱物の含有比が高いという特徴が共通する。従って、試料４と試料７が接合関係にあるとしても岩石学的には矛盾しない。

また、試料３と試料８は輝石類を含むが、角閃石斑れい岩の一つの岩相変化とみなされる程度の含有量であり、異種の岩石とは考えられない。

観察試料となった多くの角閃石斑れい岩中には微量の黒雲母の存在が認められるが、これらは斑れい岩が固結した後に花崗岩などの貫入を受けた際の熱変成作用で、角閃石から二次的に生成されたものと考えられる。

参考文献

生駒山地領家帯研究グループ、1986、生駒山はんれい岩体について、地球科学
40、102－114.

VI　まとめ

客坊山遺跡では、これまでの発掘調査により鎌倉時代から室町時代の寺院・城に先立ち、弥生時代中期の集落、古墳時代後期の古墳、平安時代の火葬施設・蔵骨器などが確認されており、それぞれの時代において土地利用が進展している。本調査では、弥生時代から平安時代の遺構は検出できなかった。

調査区内では、鎌倉時代から室町時代の石垣・建物・土壙・墓などを検出している。層位やそれぞれの遺構の埋土に含まれる遺物から遺構の埋没時期をまとめておく。

本調査地点の西側で実施している第2次調査では、寿永2年(1183)ないし寛元元年(1243)に丸瓦5000枚・平瓦5000枚・軒丸瓦220枚・軒平瓦220枚を一括して和泉国大鳥郡の瓦工人の藤原貞行に発注したことを記した文字瓦が出土している。本調査で確認している礎石建物(建物3)の周囲の瓦面から出土している瓦類や土器類は前述したように13世紀後半と推定できる。

このことから、文字瓦の記載内容と礎石建物(建物3)の建築時期は、ほぼ一致している。記載内容と本建物の使用瓦が同一のものと断定はできないが、この時期に客坊廃寺の瓦葺き建物をはじめとする諸施設の建立が進展したものと推定できる。客坊山遺跡は、平安時代末から活躍する水走氏の居館と推定されている地点に近接している。

水走氏の鎌倉時代の職掌のなかには、平岡社務・平岡若宮および高良宮の神主職、諸寺俗別当職などがある。したがって、客坊廃寺の成立・展開には、水走氏の動向と関連するものと推測できる。

地　区	時期／遺構	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀
A地区	石垣3				■
	石垣5				■
	石垣6		■		
	石垣8	■			
	建物1			■	
	建物2		■		
	墓1				■
	土壙1				■
	土壙3		■		
	土壙4	■	■		
	土壙13				■
B地区	石垣2				■
	石垣4				■
	石垣7				■
	建物3		■		
	建物4		■		

表34　遺構の変遷

報告書抄録

書名	客坊山遺跡群第3次発掘調査報告書
ふりがな	きゃくぼうやまいせきぐんだい3じはっくつちょうさほうこくしょ
副書名	
巻次	
シリーズ名	
編著者名	中西克宏
編集機関	財団法人東大阪市文化財協会
郵便番号	577－0843
所在地	東大阪市荒川3丁目28－21
電話番号	06-6736-0346
発行機関	財団法人東大阪市文化財協会
発行年月日	2002年1月
遺跡名	客坊山遺跡群
遺跡名ふりがな	きゃくぼうやまいせきぐん
遺跡所在地	東大阪市客坊町1052、1053、1055～1063
所在地ふりがな	ひがしおおさかしきゃくぼうちょう
市町村コード	27227
調査期間	1989.4.14～1991.1.25
調査面積	2191m²
調査原因	住宅建築
主な時代	鎌倉～室町時代
種別	礎石建物　掘立柱建物　柱穴　溝　土壙　墓
主な遺物	土師器　須恵器　瓦器　瓦　磁器　八花鏡
特記事項	

客坊山遺跡群第3次発掘調査報告書
2002年1月

発行　財団法人東大阪市文化財協会
〒577－0843　東大阪市荒川3丁目28－21
電話　06－6736－0346
印刷　株式会社ミラテック